2017 学生要覧

FERRIS UNIVERSITY

2017年度学事日程カレンダー

前期

4月	B	月	火	水	木	金	±
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

(2016年度後期成績通知:3月末)

4/1 入学式 4/3~7 オリエンテーション期間 4/4~6 健康診断

4/4~6 履修者数制限科目履修希望受付期間

履修登録期間①^{※1}

4/5 AA面談^{※2} 4/5 レッン打ち合わせ

4/5、6 履修相談日 4/7 学外オリエンテーション

4/8~17 履修登録期間②^{※1}

4/10 前期授業開始 4/19 [院]博士学位申請論文計画書提出日 4/29 授業実施日

5月

ı	日	月	火	水	木	金	±
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

5/5 授業実施日

5/12 卒業論文等**3題目届締切(9月卒業予定者)

5/16 避難訓練(緑園)

5/23 避難訓練(山手)

6

月	日	月	火	水	木	金	±
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

6/1 創立記念日、授業実施日

6/22~26 前期集中講義履修登録期間

7

7月	日	月	火	水	木	金	±
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

7/3 補酵日 7/4 午前補酵日・前期キリスト教講演会(午後休購) 7/5、6 卒業論文等^{※3}提出日(9月卒業予定者)

7/17 授業実施日

7/27 授業終了 7/28 補講日

7/28~31 実技試験 7/29~9/15 夏季休業

※1 履修登録期間:前期(①4/4 14:00~4/6 14:30 及び ②4/8 10:00~4/17 18:30) 後期(①9/19 9:00~9/20 12:00 及び ②9/22 13:00~10/2 18:30)

※2 AA面談:アカデミック・アドバイザー面談

※3 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

は授業実施日

8月 В 月 木 金 ± 火 水 2 3 5 6 7 8 9 10 12 14 16 17 18 19 15 30 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8/1~5 前期集中講義期間(第1ターム)

8/23、24 迫試験期間

8/28~9/1 前期集中講義期間(第2ターム)

9月 日 月 火 水 木 金 ± 2 4 5 6 7 8 9 10 11 12 14 15 13 16

9/2 実技追·再試験日

9/4~6 サマーキャンプ

9/13 9月卒業·修了者発表、成績通知(1~4年次) 9/15 9月卒業再試験日

後期

9 д В 月 火 水 木 金 ± 17 18 19 20 21 22 23 25 24 26 27 30 28 29

9/19 AA面談^{※2}

9/19 履修相談日(午後)

9/19、20 履修者數制限科目履修希望受付期間 **履修登録期間①^{※1}**

9/22~10/2 履修登録期間②**1

9/25 後期授業開始 9/27 9月学位授与式

10月	B	月	火	水	木	金	±
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

10/9 授業実施日 10/13 卒業論文等³³題目屆提出締切日 【院】修士研究·修士副論文題目屆提出期限(音楽)

10/20 避難訓練(景園) 10/23~27 [院]博士学位申請論文提出期間 10/25 後期中リスト教講演会(午前休講) 10/27 避難訓練(山手)

11月	B	月	火	水	木	金	±
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

11/2~5 大学祭期間(全学休講) 11/3、4 大学祭

11/6、7 補講日 11/10 【院】修士論文・修了レポート題目届提出期間(人文・国際)

11/22~24 後期集中講義履修登録期間 11/23 授業実施日 11/25 補講日

※1 履修登録期間:前期(①4/4 14:00~4/6 14:30 及び ②4/8 10:00~4/17 18:30)

後期(①9/19 9:00~9/20 12:00 及び ②9/22 13:00~10/2 18:30)

※2 AA面談:アカデミック・アドバイザー面談

※3 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

は授業実施日

12月 В 月 火 木 ± 水 2 4 5 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

31

12/6~8 【院】修士研究·修士副論文提出期間(音楽)

12/11、12 卒業論文等*3提出日 12/13 クリスマス礼拝(午後休講)

12/23 授業実施日

12/25~1/4 冬季休業

1月	日	月	火	水	木	金	±
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

1/5 授業再開

1/9~11 【院】修士論文・修了レポート提出期間(人文・国際) 1/12~14 緑園キャンパス入校禁止^{※4}

1/29 授業終了 1/30 補講日

1/31、2/1 卒業試験公開演奏会(4年次)

2月	B	月	火	水	木	金	±
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28			

2/2~5 緑園キャンパス入校業止^{※5}
2/6~8 [院]修士学位書 孟可究免表・演奏会(音楽)
2/6~10 後期集中調義期間(第19-ム)
2月上~中旬 [院]最後試験期間
2/13 追試験日(4年次)
2/14~16 後期実技試験期間(1~3年次)
2/23 卒業・修了者免表
2/26 実技道・再試験日(1~3年次)
2/27、28 追踪験期間(1~3年次)
2/27、28 追踪験期間(1~3年次)
2/27 卒業再試験(4年次)

3月	B	月	火	水	木	金	±
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

3/8~10、12、13 後期集中講義期間(第2ターム)

3

3/22 卒業礼拝 3/23 学位授与式 (2017年度後期成績通知:3月末) (2018年度入学式:4/2)

※3 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

※4 緑園キャンパス入校禁止:大学入試センター試験会場のため。

※5 緑園キャンパス入校禁止:一般入試のため。

は授業実施日

2017年度授業日一覧

の祝日は授業開講日

【前	期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)
	第1回	4月10日	4月11日	4月12日	4月13日	4月14日	4月15日
	第2回	4月17日	4月18日	4月19日	4月20日	4月21日	4月22日
	第3回	4月24日	4月25日	4月26日	4月27日	4月28日	4月29日
	第4回	5月1日	5月2日	5月10日	5月11日	5月5日	5月6日
	第5回	5月8日	5月9日	5月17日	5月18日	5月12日	5月13日
	第6回	5月15日	5月16日	5月24日	5月25日	5月19日	5月20日
	第7回	5月22日	5月23日	5月31日	6月1日	5月26日	5月27日
2017年	第8回	5月29日	5月30日	6月7日	6月8日	6月2日	6月3日
•	第9回	6月5日	6月6日	6月14日	6月15日	6月9日	6月10日
•	第10回	6月12日	6月13日	6月21日	6月22日	6月16日	6月17日
	第11回	6月19日	6月20日	6月28日	6月29日	6月23日	6月24日
	第12回	6月26日	6月27日	7月5日	7月6日	6月30日	7月1日
	第13回	7月10日	7月11日	7月12日	7月13日	7月7日	7月8日
	第14回	7月17日	7月18日	7月19日	7月20日	7月14日	7月15日
•	第15回	7月24日	7月25日	7月26日	7月27日	7月21日	7月22日
【後	期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)
	第1回	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	9月23日
•	第2回	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日	9月30日
	第3回	10月9日	10月10日	10月11日	10月12日	10月13日	10月7日
	第4回	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日	10月20日	10月14日
	第5回	10月23日	10月24日	午前 11月1日 午後 10月25日	10月26日	10月27日	10月21日
	第6回	10月30日	10月31日	午前 11月8日 午後 11月1日	11月9日	11月10日	10月28日
2017年	第7回	11月13日	11月14日	午前 11月15日 午後 11月8日	11月16日	11月17日	11月11日
•	第8回	11月20日	11月21日	午前 11月22日 午後 11月15日	11月23日	11月24日	11月18日
•	第9回	11月27日	11月28日	午前 11月29日 午後 11月22日	11月30日	12月1日	12月2日
	第10回	12月4日	12月5日	午前 12月6日 午後 11月29日	12月7日	12月8日	12月9日
	第11回	12月11日	12月12日	午前 12月13日 午後 12月6日	12月14日	12月15日	12月16日
	第12回	12月18日	12月19日	12月20日	12月21日	12月22日	12月23日
	## 10 E	1月15日	1月9日	1月10日	1月11日	1月5日	1月6日
	第13回						
2018年	第14回	1月22日	1月16日	1月17日	1月18日	1月19日	1月20日

目 次

建学の精神・教育理念	国際交流学部
建学の精神・教育理念・ 人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、	国際交流学部国際交流学科 138
カリキュラム・ポリシー	音楽学部
W 45 H 15 55 55	音楽芸術学科 156
学 部 共 通 事 項	演奏学科 165
履修	単位認定・単位互換
授業14	単位認定・単位互換 182
授業科目の構成と単位制度18	
履修計画・履修指導	学籍
(アカデミック・アドバイザー制度) 20	
履修登録24	修業年限及び在学期間 190
試験 32	休学
成績評価 37	復学・退学・除籍・留学 191
卒業の要件・卒業論文等40	転学部・転学科・再入学
海从短期群修, 阅受, 国内阅受	
海外短期研修・留学・国内留学	資 料 編
海外短期研修・留学44	資 料 編 組織
海外短期研修・留学44	組織
海外短期研修・留学44	組織
海外短期研修·留学 44 国内留学 49	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、
海外短期研修·留学 44 国内留学 49	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者 200
海外短期研修·留学 44 国内留学 49 学 部 教 育 課 程	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、
海外短期研修・留学 44 国内留学 49 学 部 教 育 課 程 全学教養教育機構 (CLA) 共通科目 53 CLA コア科目 54	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者 200 2017年度の主な制度変更 201
海外短期研修・留学 44 国内留学 49 学 部 教 育 課 程 全学教養教育機構 (CLA) 共通科目 53 CLAコア科目 54 基礎教養科目 58	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者 200
海外短期研修・留学 44 国内留学 49 学部教育課程 全学教養教育機構 (CLA) 共通科目 53 CLA コア科目 54 基礎教養科目 58 総合課題科目 59	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者 200 2017年度の主な制度変更 201
海外短期研修・留学 44 国内留学 49 学 部 教 育 課 程 全学教養教育機構 (CLA) 共通科目 53 CLA コア科目 54 基礎教養科目 58 総合課題科目 59 語学科目 66	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者 200 2017年度の主な制度変更 201
海外短期研修・留学 44 国内留学 49 学部教育課程 全学教養教育機構 (CLA) 共通科目 53 CLA コア科目 54 基礎教養科目 58 総合課題科目 59	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者 200 2017年度の主な制度変更 201
海外短期研修・留学 44 国内留学 49 学部教育課程 全学教養教育機構 (CLA) 共通科目 53 CLAコア科目 54 基礎教養科目 58 総合課題科目 59 語学科目 66 留学生科目 92	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者 200 2017年度の主な制度変更 201
海外短期研修・留学 44 国内留学 49 学 部 教 育 課 程 全学教養教育機構 (CLA) 共通科目 53 CLA コア科目 54 基礎教養科目 58 総合課題科目 59 語学科目 66	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者 200 2017年度の主な制度変更 201
海外短期研修・留学 44 国内留学 49 学部教育課程 全学教養教育機構 (CLA) 共通科目 53 CLAコア科目 54 基礎教養科目 58 総合課題科目 59 語学科目 66 留学生科目 92	組織 194 フェリス女学院大学の沿革 195 専任教員一覧 197 役職者 199 教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者・語学責任者 200 2017年度の主な制度変更 201

 日本語日本文学科/日本文学科
 113

 コミュニケーション学科
 123

 社会調査士資格認定
 133

建学の精神・教育理念

建学の精神

フェリス女学院は、キリスト教の信仰に基づく女子教育を行うことを建学の精神としています。

フェリス女学院大学の学則第1条にも、「キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする」と明記されています。

教育理念

さらに、フェリス女学院は「For Others」という教育理念を掲げています。これは、建学以来の永い歴 史のなかで自然に人々の心の中で形をなし、学院のモットーとして受け継がれるようになったものです。

この言葉は「他者のために」と訳すことができます。自分やちかしい人だけではなく、より広い視野から 他者の存在をも考えに入れて、他者のために行動することを、本学で学ぶ一人一人が受け継いでいます。

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

フェリス女学院大学では、人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを次のように 定めています。

ディプロマ・ポリシーは大学から社会に対する約束です。学士課程を修了する時点で最低限できるようになっていることを表しています。したがって、ディプロマ・ポリシーは、卒業時には必ず達成されなければなりません。

カリキュラム・ポリシーは、この達成のために学生が体系性と整合性が担保されたカリキュラムで学べるよう定めるものです。

これら大学としての人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは、各学部、学科で さらに具体化されています。該当ページを参照してください。

大学全体

◆人材養成目的

フェリス女学院大学は、「キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究および教育の機関として、 女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与す る人物を養成することを目的」(学則第1条)としている。

さらに、2020年の学院創立150周年に向けて作成されたグランドデザイン「Ferris Univ.2020」においては、時代に先駆けて「キリスト教の信仰に基づく女子教育」を志した創立者メアリー・E. キダーの建学の精神を教育の基本方針となし、フェリス女学院の長い歴史の中で育まれてきた教育理念「For Others」を実践し、真理と平和および人類の福祉に寄与するとともに、新しい時代を切り拓くことが

できる豊かな教養および芸術的・文化的素養を身に付けた女性を育成することを教育の目的・使命としている。

上記の目的を実現するために、本学は以下の能力および知識・技能を修得・涵養し、総合的に活用できる人材を養成することを教育目標とする。

- (1) 教養および専門的知識・技能
- (2) 言語運用能力
- (3) 課題発見・解決能力
- (4) コミュニケーション能力
- (5) 他者との恊働・共生力
- (6) 新しい価値の創造力

◆ディプロマ・ポリシー

フェリス女学院大学は、人材養成目的の実現のため、以下の能力を修得し、卒業要件を満たした者 に対して学位を授与する。

- (1) 基本的教養および専門分野における様々な知識・技能を修得し、活用する能力。
- (2) 高度な外国語運用能力および専門的な日本語運用能力。
- (3) 批判的な思考力と高い倫理性をもとに、自ら課題を発見・解決し、現代社会に存在する諸問題に 対処する能力。
- (4) 他者と効果的にコミュニケーションを図り、自己を的確に表現し発信する能力。
- (5) 多様な文化・価値観をもつ他者を理解し、他者のために働き、他者と共生する能力。
- (6) 進取の気性に富み、伝統を尊ぶ精神をもち、新しい価値を創造する能力。

◆カリキュラム・ポリシー

フェリス女学院大学は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

(1) 教養および専門的知識・技能を修得させるために、共通科目・専門科目およびその他必要とする 科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講する。

4年間を通して学修の基礎となる共通科目として、必修科目「キリスト教」を中心に、「知のフロンティア科目」、「実践教養科目」、「フェリス教養講義科目」、「健康・スポーツ科目」、「語学科目」、「留学生科目」を開設し、「全学教養教育機構(CLA)」のもとに置く。また、実践的教養を深めることを希望する学生のために「Ferris+実践教養探求課程」を置く。

専門科目に関しては、各学部学科に、専門分野の中核となる知識・技能を体系的に学修できるよう科目を適切に配置する。

科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行い、カリキュラムの構造を分かり やすく示すためにカリキュラムマップを作成する。また、学生一人ひとりが主体的な学びができ るよう適切なアドバイスを行う。

- (2) 各学生が、必要とする言語運用能力を身に付けるために、多彩な語学科目、語学コースを置く。 語学科目には、「英語」、「初習外国語」、「教養外国語」、「日本語」からなる4つの科目群(10言語) を置き、学生が自らの希望に応じて選択することを可能とする。また、語学コースには、「インテンシブ・コース」、「スタンダード・コース」、「2か国語履修コース」を置く。
- (3) 新しい時代を切り拓くことを可能とする課題発見・解決の方法を修得させるために、1年次から4 年次まですべての年次に、批判的な思考を培う少人数編成の演習科目を配置する。
- (4) 研究・就業・生活などで必要とされるコミュニケーション能力を身に付けるために、各演習科目、 学外での実習科目およびアクティブ・ラーニング型の演習科目など、インタラクティブな授業を 置く。
- (5) 他者と協働・共生できる力を身に付けるために、異なる文化や、多様な社会的価値観をもつ他者

を理解し、幅広い視野をもつための授業を置く。

(6) 分析力・理解力・表現力を高め、新しい価値を創造する能力を身に付けるために、各専門分野の 専門的知識・技能を修得させる、双方向的かつ少人数の授業や各種演習科目を置く。

最終学年では、卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクト・卒業演奏などの形で、学生は4年間の学びを総括する。

各科目の授業のシラバスには、受講生に求める課題や学修内容、事前・事後学修の内容等を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記する。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設け、このガイドラインを公表する。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケート、学生満足度調査などを実施 することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

各学部、学科

次の該当ページを参照してください。

文学部	p.99
英語英米文学科/英文学科	···· p.101
日本語日本文学科/日本文学科	···· p.113
コミュニケーション学科	···· p.123
国際交流学部	···· p.137
国際交流学科	···· p.138
音楽学部	···· p.155
音楽芸術学科	···· p.156
演奏学科	p.165

学部共通事項

履修

海外短期研修·留学·国内留学

学部教育課程

全学教養教育機構(CLA)

文学部

国際交流学部

音楽学部

単位認定・単位互換

学 籍

資料編

学部共通事項

履修

海外短期研修・留学・国内留学

履修

授 業

授業時間

緑園校舎

第1時限	第2時限	礼拝(月~金)	第3時限	第4時限	第5時限
9:00 \$ 10:30	10:40	12:20	13:10	14:50 (16:20	16:30 (18:00
山手校舎			/		,
第1時限	第2時限	礼拝(木)	第3時限	第4時限	第5時限
9:10	10:50	12:30	13:50	15:30	17:10

9:10 10:50 12:30 13:50 15:30 17:10 5 5 5 5 5 5 5 15:20 17:00 18:40

スクールバス時刻表

両キャンパスを1日に2往復しています。(定員:26名)

/m		山手	
便	6号館	4号館	緑園
1	12:25	12:30	13:05
3	15:35	15:40	16:15

/m	(4.開	山	手
便 緑園		6号館	4号館
2	13:10	13:40	13:45
4	16:30	17:05	17:10

年間運行日はバス停に掲示します。授業期間外は運休です。

休 講

大学又は各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合、授業を休講とすることがあります。休講情報は、FerrisPassport、掲示にて周知します。

休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても担当者が入室しない場合は、自然休講とします。 休講についての電話照会には応じません。

全学休講措置

交通機関不通の場合

ストライキ、台風又は事故等による交通機関不通の場合、各校舎において次のような措置をとります。

 午前6時までに復旧している
 ア常どおり授業実施

 午前10時までに復旧している
 1・2 限休講

 午前10時までに復旧していない
 終日休講

※1 授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

対象となる交通機関

緑園校舎: 相模鉄道線

山手校舎: JR 根岸線及びみなとみらい線※2

※2 山手校舎については、両線が不通となった場合のみ。いずれかの線が運行している場合は該当しない。

神奈川県下に暴風警報、暴風雪警報又は特別警報が発令された場合

台風接近等により、神奈川県全域又は神奈川県東部(「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」) に暴風警報又は暴風雪警報が発令された場合、次のような措置をとります(警報は「気象庁」もしくは「横浜地方気象台」(045-177) 発表のものとします)。

また、神奈川県全域又は神奈川県東部(「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」) に特別警報(大雨、暴風、 暴風雪及び大雪)が発令された場合も、上記に準じます。

休講措置をとる場合は、本学 Web サイト、FerrisPassport 及び緊急連絡システムにて周知します。

 午前6時までに警報が解除されている
 、
 平常どおり授業実施

 午前10時までに警報が解除されている
 、
 1・2 限休講

 午前10時までに警報が解除されていない
 、
 終日休講**

※1 授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

新型インフルエンザが流行した場合

新型インフルエンザが流行し、厚生労働省から新型インフルエンザ対策行動計画が緑園・山手両キャンパスの近隣地域で発令された場合は、感染防止のため、発令が解除されるまで終日休講とします。

大規模地震の警戒宣言が発令された場合

大規模地震の判定会**1が招集された場合や警戒宣言等が発令された場合には、休校とします。警戒宣言等が解除された時の授業再開については、交通機関が不通になった場合に準じます。

※1「大規模地震対策特別措置法」に基づく「地震防災対策強化地域判定会」

補講

大学又は各授業担当者のやむを得ない事情により、休講となった授業については、原則 として補講を行います。また、担当者の判断により補講を実施することがあります。

補講情報は、FerrisPassport、掲示によって通知します。担当者から直接指示があった場合、その指示に 従ってください。

授業欠席

大学では、授業を欠席する場合、原則として授業担当者に伝達するなどの措置はとりません。ただし、下記の事情により欠席する場合には、「感染症罹患届」又は「欠席届」の手続きを受け付けますので、速やかに申し出てください。出欠の扱いは各授業担当者の判断に委ねられています。

	欠席理由・状況	取扱窓口	必要書類	備考
1	感染症にかかった	教務課	「診断・登校許可証明書」または「医師の診断書」(出席停止 期間が確認できるもの)	※2を参照。
2	傷病等の理由により、2週 間以上続けて欠席する	教務課	「医師の診断書」等、欠席理由・ 期間を証明できるもの	
3	忌引	教務課	欠席日を確認できる「会葬礼状」 または死亡を確認できる公的証 明書(写)	※3を参照。
4	裁判員に選任され、審理に 参加する	教務課	裁判所が発行する証明書	
(5)	その他特別な事情により、2 週間以上続けて欠席する	教務課	理由を証明する書類	

^{*}証明書類は当該科目の授業に出席できなかったことを証明するもの、「〇月〇日~〇月〇日」のように期間が明記されたものでなければなりません。

※2 感染症にかかった場合

学校感染症(学校保健安全法施行規則第18条)にかかっていると疑われる場合には、通学を見合せ、速やかに医師の診療を受けてください。医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。医師の許可がでたら、必要書類を教務課に提出してください。

→[Ferris Handbook2017] (p. 40)

※3 忌引の場合

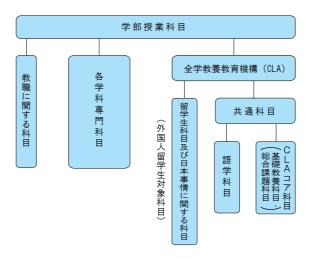
次の続柄の親族が亡くなった場合は、必要書類をもって教務課に申し出てください。忌引日数は、死亡日もしくは葬儀の日を含む次のとおりとします。日数には、土日・祝日を含みます。

続 柄	忌引日数
配偶者、父母、子	連続7日以内
配偶者の父母	連続5日以内
祖父母、孫、兄弟姉妹、配偶者の兄弟姉妹	連続3日以内

授業科目の構成と単位制度

授業科目の構成

学部の授業科目群は、次の区分で構成されています。



また、各授業科目は、次のように分類されます。

必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	一定の科目群の中から選択し、指定された方法で必ず修得しなければならない科目
選択科目	指定された科目群の中から自由に選択して修得する科目

単位制度

単位を修得するには

授業科目の単位の認定のためには、履修登録を行い、毎回の授業に出席し、試験、レポート、平常点評価等により合格すること、すなわち授業科目の到達目標を達成することが必要です。

→大学HP 大学学則第12条、第14条

履修計画 履修登録 成績評価 単位認定 授業出席・試験 担当教員の指示する 授業科目の到達 各学期に登録で 期間内に手続きが完了 シラバスに記さ レスポンスシートや レポート、課題の提 出、試験の受験など。 きる上限の範囲 していないと授業に出 れた成績評価方 目標達成により 内で科目履修を 席し、試験を受けても 法により評価さ 合格すると単位 が付与される。 計画する。 単位認定されません。 れる。

18 2017学生要覧

*授業の出席

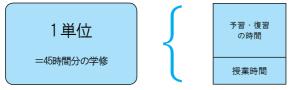
学則第13条に「学生は、履修授業科目について3分の2以上出席しなければ、当該授業科目の試験を受けることができない。」と定められていますが、言うまでもなく3分の1は欠席してもさしつかえないという意味ではありません。また、平常点とは単に出席(教室にいること)を指すのではなく、授業態度やグループワークでの参加度、レスポンスシートの内容などを含みます。

単位制度とは

卒業のために何をどれだけ学修すべきかを定めたルールの一つが単位制度です。

1単位は45時間の学修を必要とする内容で構成することが標準とされています。

この1単位修得に必要な「45時間の学修」には、毎回の授業時間のほかに、授業外学習(予習・復習などの自習時間)が含まれています。

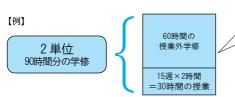


単位の計算

授業の方法により、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を定めています。 なお、本学では1回(90分)の授業を 2時間 として計算しています。

講義科目

15時間の授業をもって1単位とする。



講義科目では、2単位修得のためには60時間分の授業外学修が必要。 この「授業外学修」はシラバスの「教室 外(事前・事後)の学習方法」に明記されており、さらに授業時に教員から具体 的に指示される場合があります。

演習科目

15時間から30時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

実技、実習及び実験科目

30時間から45時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。 ただし、音楽部学部における個人指導による実技については、別に定める。

履修計画·履修指導

アカデミック・アドバイザー制度

学生みなさんの素質と可能性を最大限に生かし、充実した学修生活を送れるよう、専任教員が学生一人ひとりを担当し、履修計画をはじめ学修全般の指導と助言を行う制度です。在学中、成績不振に陥った場合にはともに原因解決に取り組みます。

学期はじめの履修登録前には、アドバイザーによる個別面談を行い、毎学期の履修計画について助言します。授業期間中のアドバイザーへの相談は、オフィス・アワーを利用してください。

1. アカデミックアドバイザー担当教員

アカデミック・アドバイザーは全て専任教員が担当します。原則として、下記の科目担当者がアカデミック・アドバイザーとなります。科目担当者が非常勤講師の場合は、担当者に代わり専任教員(各学科教務委員)がアカデミック・アドバイザーとなります。

学部	学科	1年次		2年次		3年次		4年	次
→ n)	 	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
文	英語英米文学科/ 英文学科 日本語日本文学科/ 日本文学科			て前期			専門-	前期 ^{**2} ビミ A」 当者	
	コミュニケーション学科	「R&R(入門ゼミ)」担当者			3年次前期 ^{*2} 「専門ゼミIA」 担当者				
国際交流	国際交流学科	1年次前期 1年次後期 2年次前期 2年次後期 「導入演習」「基礎演習」「基礎演習」「基礎演習」 1基 担当者 担当者				「専門	前期 ^{**2} 演習」 当者		
音楽	音楽芸術学科	音楽芸術学科専任教員**1				専門-	前期 ^{※2} ビミ I 」 当者		
	演奏学科			演奏学科	専任教員**1				

^{※1} 入学時に学科が個別に定め、1年次前期のオリエンテーション期間に発表します。

2. 面談の実施

(1) 学期始めの面談日(4月・9月)

学期の始めにアカデミック・アドバイザー面談日を設けています。学期ごとの対象者、実施時間等については、FerrisPassport の掲示にてお知らせします。

*特別指導対象学生(p.23参照)は、アカデミック・アドバイザーによる学修支援の一環として学期始めの面談に加え、学期中も面談を数回行います。

(2) オフィス・アワー

めします。

オフィス・アワーとは、学生が教員を個人研究室等に訪ね、自由に質問や相談ができる時間です。講義や履修に関することだけでなく、学生生活や将来の進路に関することについても気軽に相談し、助言を求めることができます。非常勤講師の先生にも、授業前後の休み時間を利用して相談することができます。 専任教員のオフィス・アワーは FerrisPassport の教員時間割表で確認できます。事前予約などの指示がある場合は指示に従ってください。また、連絡手段がある場合は、事前に連絡をとることをお勧

^{※2} 他学部・他学科ゼミを履修する場合は、所属する学科が個別に定めます。各学科教務委員に確認してください。

履修登録できる単位数の上限(CAP制)

十分な学修時間を確保するため、1学期に履修登録できる単位数は24単位までとしています。ただし、成績状況(GPA、修得単位数)に応じて次のとおり例外を設けています。

成績優秀学生**1	28単位
特別指導対象学生**2	17単位

- ※1 直前学期の成績が「GPA3.0以上かつ修得単位数20以上」に該当する学生
- ※2 1年次後期~3年次前期の該当学生 (p.23参照)

登録できる単位数のルール

(1) 登録できる単位数の算出方法

下記の条件で算出され、上限を超えた履修登録はエラーとなります。

上限に含まれる	①通常の授業期間に開講される科目すべて ②卒業要件に算入されない授業科目(教職に関する科目等) ③単位互換制度による履修科目(横浜市内単位互換、同志社女子大学、放送大学) ④他大学等における科目等履修による履修科目
上限に含まれない	集中講義科目、海外短期研修等の科目、上記④のうち本学の休業期間中など通常の授業期間外に履修する科目 詳細は、学期始めに FerrisPassport に掲示します。

(2) 通年科目の取扱い

卒業論文等、通年科目の単位は1/2ずつ各学期の履修登録単位数に加算されます。

(3) 上限を超過しての履修登録の取り扱いについて

特別な事由により、3年次生・4年次生には上記の上限を超えて履修登録を認める場合があります。 上限を超過した履修の許可を得るためには、下記のとおり所定の手続が必要です。

申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ① 「履修登録上限超過顧」(教務課備付)に記入し、所属学科の教務主任または教務委員の確認印(または署名)を受けてください。その際には必ず「FerrisPassport 成績照会画面のコピー」を持参してください。 ② 上記①を経て、必要書類を期限内に教務課に提出してください。
必要書類	① 履修登録上限超過願 ② FerrisPassport 成績照会画面コピー
提出期限	前期 2017年4月6日 (木) 後期 2017年9月20日 (木)
注 意	・上限を超えて履修が許可される場合は、当該履修をしないと卒業延期が確定する、教職等 の資格取得が困難になるなど、特別な事由がある3年次生・4年次生に限ります。なお、こ の場合も、十分な学修時間が確保できることが前提となります。 ・「履修登録上限超過順」に所属学科の教務主任または教務委員の確認印(または署名)がな い場合は受理できません。

責任ある履修とは

学生には、登録した科目に対して最後まで責任をもって履修を続けることが求められます。 登録期間終了後に、取消を希望する科目がある場合は、登録取消制度を利用することができます。ただ し、手続期間や取り消しできない科目等をよく確認してください。(p.31「登録取消」参照)

成績評価

学修の成果は、修得した単位数と共に、その成績評価を数値化した GPA により評価されます。 GPA は成績レベルを質的に計る指標となります。たとえば、登録単位数が多くとも、修得した単位数が少ない場合、GPA は必然的に低くなります。(p.37「GPA 制度」参照)

特別指導対象学生

(1) 対象者

次の条件に該当する学生には、特別指導という形で学修支援を行います。 対象者には、3月・9月に書面でお知らせします。

GPA 1.30以下 特別指導対象

修得単位 15以下 1・2年次前期・後期いずれかの学期に

GPA1.30以下 かつ 修得単位15以下であった学生

特別指導対象学生となった学期の成績が、GPA1.31以上または修得単位が16以上となった場合、次の学期は特別指導対象学生ではなくなります。

(2) 学修支援

アカデミック・アドバイザーが、学期始めの面談に加え、学期中も継続して月1回の定期的な面談を行います。面談を通して、前学期 GPA が低くなった原因をともに考え、履修計画をはじめとした学修全般の指導及び助言を行います。

また、必要な場合には、学生本人の了承を得たうえで、学生支援センター又は保健室への紹介などの対応も行います。

(3) 履修登録の上限

最後まで履修を続けられるよう、その学期の履修登録の上限を17単位とします。当該学期を休学した場合は、復学時にアカデミック・アドバイザー面談を行ったうえで、特別指導対象から外れることにより、17単位の履修登録の上限は適用されません。

(4) 保証人への報告

対象学生の保証人に対しては、アカデミック・アドバイザーとの相談によって、前学期成績不振であったこと、今学期特別指導による学修支援が行われること等を書面で知らせます。 また、指導実施後、その報告書を保証人に送付します。

(5) 学生·保証人面談

2学期以上連続して特別指導の対象となった学生を対象に、アカデミック・アドバイザーが必要と判断 した場合には、成績不振の理由や卒業までの履修計画、退学も含めた進路を視野に入れて今後の方針を話 し合います。

(6) 修学指導

特別指導の実施にも関わらず、成績不振が続き次の条件に該当した学生に対し、必要な場合には、教務 部長による段階に応じた学修姿勢・学生生活の見直しに関する修学指導を行います。

教務部長による指導を経ても、学修姿勢と学生生活の改善等が見られない場合は、進路指導(退学勧告を含む)を行うことがあります。また、当該学期を休学した場合は、復学時に教務部長との面談を行います。

特別指導 対象3学期 以上連続



累積 GPA 0.50以下 1・2年次前期・後期の成績により3学期以上特別指導対象 かつ 累積 GPA が0.50以下である学生

履修登録

2017 年度 履修のスケジュール

	前期	後期	参照・備考
成績通知	3 月末 (2016 年度後期分)	9月13日(水) (2017年度前期分)	p.39 参照
アカデミック・アドバイザー 面談 (希望者、特別指導対象者) 後期は4年次生全員	4月5日 (水)	9月19日 (火)	p.20 参照
成績評価確認願 (希望者のみ)	~4月10日(月)18:00	~ 9月25日(月)18:00 ※卒業学期生は p.41 参照	p.39 参照
履修計画	■所属学科カリキュラム(■所属学科カリキュラム(■年次・クラス指定・ ■再履修・ ■他学部・他学科科目の ■教職科目の履修・ ■集中講義の履修・	の理解(共通科目) の理解(専門科目) 	
履修登録	4月4日(火) 14:00 ~4月6日(木) 14:30 4月8日(土) 10:00 ~4月17日(月) 18:30	9月19日(火) 9:00 ~9月20日(水) 12:00 9月22日(金) 13:00 ~10月2日(月) 18:30	p.29 参照
履修者数制限科目 希望受付	4月4日(火) 14:00 ~4月6日(木) 14:30	9月19日(火) 9:00 ~9月20日(水) 12:00	
履修者数制限科目 履修許可者発表	4月8日(土) 10:00	9月22日(金) 13:00	発表は FerrisPassport 及び 教務課掲示板で行います。
	授業受講	開始	
履修登録確認・訂正申告	4月18日(火) 9:00 ~4月24日(月) 18:00 ※運延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	10月3日(火) 9:00 ~ 10月9日(月) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を合む)	p.30 参照
遅延登録(注)・ 履修科目取消(希望者のみ)	4月18日(火)9:00 ~4月24日(月)18:00	10月3日(火) 9:00 ~10月9日(月) 18:00	この期日を過ぎた申し出は 理由の如何を問わず一切認め られません。
履修登録 (集中講義、海外語学実習等 希望者のみ*)	6月22日(木) 9:00 ~6月26日(月) 18:00	11月22日(水)9:00 ~11月24日(金)18:00	p.27 参照 この期間を過ぎての遅延登録、 履修取消は一切認められません。

^{*}集中講義科目や海外短期研修など、休業期間を利用した授業科目の履修登録期間は、通常の科目とは別に設定されています。 (注):大学が認める理由に該当した場合は遅延手数料が免除されます。

履修上の注意

大学では、学生が自らの責任において各自の学修計画を立て、所定の履修方法に基づいて単位を修得しなければなりません。履修に当たっては、定められた履修方法や履修登録方法に十分注意する必要があります。

1. 履修年次

履修年次が指定されている授業科目は、その年次に履修してください。

2. クラス指定及び変更手続

クラスを指定して開講されている授業は、指定クラスにおいて履修してください。 必修科目の重複によりやむを得ずクラスを変更する必要がある場合は、次の手続を行わなければなりません。

(1) キリスト教 I クラス

原則として、クラス変更を認めません。ただし、キリスト教科目責任者 (p.200) が特に認めた場合は、「クラス変更願」(教務課備付) を提出することができます。

(2) 初習外国語クラス

当該言語の語学責任者(p.200)と変更先のクラスの担当者に申し出て、了承を得てください。

(3) 英語クラス

原則としてクラス変更を認めません。ただし、英語の語学責任者 (p.200) が特に認めた場合は、(2) と同様の手続によって変更が認められます。必ず履修相談を受けてください。

(4) その他の授業科目のクラス

各自が所属する学科の教務委員 (p.200) と変更先のクラスの担当者に、その旨申し出て了承を得てください。

上記の手続を経ないクラス変更は、認められません。

3. 再履修

再履修とは、履修した授業科目の単位を修得できなかった場合に、その科目を改めて履修することをいいます。履修登録とは別の手続きが必要になる場合がありますので、各科目の履修方法にしたがってください。

4. 同一授業科目の重複履修

同一授業科目を重複履修することは原則として認められません。ただし、学科等がカリキュラム上 有益と定めた科目については、重複履修が可能です。重複履修可能な科目は「開講科目表」中に網か け 表示されています。

5. 他学部・他学科の専門科目の履修

(1) 専門科目の他学部・他学科開放/「教職に関する科目」の開放

開講科目表の「開放」欄に次の表示がある科目は、所属する学科や教育職員免許状取得希望の有無にかかわらず履修可能な科目で、卒業に必要な単位として算入されます。

表示	意味	単位が算入される科目区分
•	他学部・他学科の学生が履修可能な科目	自由に選択する科目
	他学科の学生が履修可能な科目	自由に選択する科目

(2) 音楽学部実技科目の他学部・他学科開放

他学部・他学科の学生が履修可能な科目のうち、以下の科目は別途手続きが必要です。

なお、CLA コア科目「音楽実技 (声楽)」「音楽実技 (声楽アンサンブル入門)」「音楽実技 (ピアノ)」「音楽実技 (オルガン)」「音楽実技 (弦楽器)」「音楽実技 (管楽器)」については、p.64を参照してください。

①レッスン科目

レッスン科目	注意事項
PA 副科個人実技 A,B	
PA 副科グループ実技(バレエ)A,B	別途、実技料が必要です。
PA 第2専攻グループ実技(バレエ基礎)A,B	詳細は「実技レッスン(p.174)を参照」。
PA 第2専攻グループ実技(バレエ応用)A,B	

②クラス授業の実技科目

レッスン科目	注意事項
弦楽レパートリー A,B	・オーディションが課せられます。(演奏学科の弦楽器・管楽器生を除く。)
管楽レパートリー A,B	・履修前提条件はシラバスで確認してください。
フルートアンサンブル A,B	・腹形的旋木件はクノバへで確応してくたさい。

(3) 3・4年次演習(ゼミ)科目等の他学部・他学科開放

各自が所属する学部・学科が定める3・4年次演習(ゼミ)科目及び卒業論文等に代えて、他学部・ 他学科の3・4年次演習(ゼミ)科目及び「卒業論文」を履修することが可能です。

なお、演奏学科生は所属学科が定める3・4年次必修科目に加えて、他学部・他学科の3・4年次演習(ゼミ)科目及び「卒業論文」を履修することが可能です。

申込対象者:2017年度2年次生のみ

他学部・他学科に開放する演習 (ゼミ) 科目等は次のとおりです。

学部	学 科	他学部・他学科に開放する科目	
	英語英米文学科	「英米文化専門ゼミ A, B」 「英米文化卒論ゼミ A, B」「卒業論文」	
文	日本語日本文学科	「日本言語文化専門ゼミ A, B」 「日本言語文化卒論ゼミ A, B」「卒業論文」	
	コミュニケーション学科	「コミュニケーション専門ゼミ I A, I B」 「コミュニケーション専門ゼミ II A, II B」 「卒業論文・卒業制作」	
国際交流	国際交流学科	「専門演習」「卒業論文」	
音 楽	音楽芸術学科	「専門ゼミⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「卒業プロジェクト」	

手続の日程及び受け入れ人数・条件等詳細については、掲示でお知らせします。質問がある場合には、 教務課に問い合わせてください。

6. 集中講義科目の履修

授業科目によっては、通常の授業期間外に、集中講義によって授業を行うことがあります。

(1) 日程

実施期間は学事日程(pp.1~3)を参照してください。 科目ごとの日程・授業時間の詳細は、各学期始めに FerrisPassport でお知らせします。

(2) 注意事項

- ① 卒業年次生は卒業学期に集中講義期間 (第2ターム) の科目を履修することはできません。
- ② 日程が重複する複数の集中講義科目がある場合、履修できるのは一科目のみです。
- ③ 集中講義の日程が他の学事と重なることによって、すべての授業に出席できない場合、当該集中 講義科目を履修することはできません。
- ④ 集中講義科目は、各学期に履修登録可能な単位数には含まれません。 (p.21「登録できる単位数の算出方法」参照)

7. 人数に制限のある科目・事前に手続が必要な科目の履修

種類	開講科目表 の表記	事前 手続	履修 登録	注意事項
履修者数制限科目	•	必要	自動*1	履修希望者は、各学期の所定の日時に FerrisPassport で履修希望 申込をしてください。履修優先順位に従い、大学が履修者の選抜及 び履修登録を行います。選抜された科目の履修取消はできません。 履修許可者が定員に満ちていない場合であっても、原則として追加 はありません。ただし、学科等の判断により、追加募集を行うこと があります。その場合には FerrisPassport でお知らせします。
学科選抜科目	学	必要	自動*1	学科等でクラス指定や履修者の決定を行う科目については、各学科等の指示に従って手続きをしてください。学科等の選抜結果に従って、大学が履修登録を行います。
初回授業時選抜科目	初	不要	各自*2	初回授業時に担当教員が選抜を行います。履修を希望する学生は初回授業に必ず出席して、担当教員の指示を受けてください。 選抜の結果履修が許可されなかった科目をすでに FerrisPassport で履修登録を行っている場合は、履修登録期間内に各自で科目の 登録削除を FerrisPassport で行ってください。
要手続科目	要手続	必要	自動*1	実習等で事前に説明会への参加や申込手続が必要な科目です。手 続きについては開講科目表、シラバスの指示、掲示等で確認をして ください。
教員の指示がある科目		不要	各自*2	シラパス等で担当教員から初回授業時に履修者を選抜することが指示されている場合があります。初回授業を欠席して、履修の権利をなくさないよう、事前にシラパスをよく読んでください。
収容人数の超過科目		不要	各自*2	特定の科目に履修者が集中し教室変更によっても教室収容人数を超える状態を解消できないと大学が判断した場合には、当該科目の履修登録を打ち切ることや、履修登録者の選抜をする場合があります。この場合の選抜は、カリキュラム、年次などの面から総合的に判断をしますが、初回授業を欠席した学生には履修の権利がなくなることに気をつけてください。

^{*1:}大学が登録を行うので、履修登録期間及び履修登録確認期間に登録されていることを確認すること。

^{*2:}各学期の履修登録期間に各自が FerrisPassport で履修登録・取消を行うこと。

8. 履修登録

履修登録は、学生がその学期・学年に履修するすべての授業科目を申告する手続です。 定められた期間 に、 履修登録及びその確認を行わない学生は、その学期における履修の権利を放棄したものとみなします。 また、 履修登録及びその確認の手続不備等による不利益は本人の責任となるので、十分注意してください。

(1) 履修登録上の注意

- ① 履修登録は、本人の責任において行うこと。
- ② 履修上の注意に違反して履修登録を行うことはできない。
- ③ 履修登録は、定められた履修登録期間のみ受け付ける。理由なく手続を行わなかった場合は、当該学期・学年の授業科目の履修は一切認められない。
- ④ 通年科目は前期に履修登録を行うこと。
- ⑤ 集中講義科目及び海外研修など、休業期間を利用した授業科目は、通常科目とは異なる日程で履修登録を行うので注意すること。(p.24「2017年度履修のスケジュール」参照)
- ⑥ 履修登録を行った際には、必ず「学生時間割表」を印刷、保存しておくこと。(登録の確認を行う際、「学生時間割表」が唯一の根拠となります。)
- ⑦ 履修登録期間終了後の登録科目の追加·変更は、一部の授業科目を除き、認められません。 (p.30「追加·変更が認められる授業科目」参照)
- ⑧ 学内のPCをはじめ、インターネットに接続できる環境であれば学外からも登録できます。 FerrisPassport はPC 版及びスマホ版がありますので、アクセス機器に応じて適切なサイトを利用してください。なお、学内のPC 以外からの登録については、利用環境により動作保証外の場合があり、システムが正常に動作しない可能性があります。履修登録確定後は、必ずPCサイトから「学生時間割表」を印刷し、保存してください。

履修登録期間中、システムに不具合が生じたり学内でのパソコンの稼動状況に変更があった場合には、次の方法でお知らせします。

- ・本学公式 web サイト (http://www.ferris.ac.jp/)
- · FerrisPassport
- · 学内揭示板
- ⑨ 履修登録期間中には、利用者の集中により、学内 PC 利用の混雑や、システムの動作低下が発生する場合があります。時間に余裕を持って登録してください。

→日程・スケジュールはp. 2-

(2) 遅延登録

やむを得ない理由(追試験許可理由に準ずる。p.34参照)により、履修登録期間に手続できない場合は、最終日の翌日から数えて7日以内(休日を含む。)に必要書類(「遅延登録願」及び証明書等)を提出し、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。

その他の理由で遅延して履修登録を希望する者は、所定用紙(「遅延登録願」)によって願い出て、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。この場合、遅延手数料(5,000円)が徴収されます。

(3) 登録確認·訂正申告

履修登録期間終了の翌日以降、FerrisPassport で登録科目の確認ができます。必ず履修登録時に保存した「学生時間割表」と照合し、その学期に履修すべきすべての科目がもれなく登録されているかを確認してください。

登録されていない科目がある場合は、履修登録時の「学生時間割表」を印刷して持参し、定められた期日までに教務課で訂正申告の手続きを行わなければなりません。

「履修登録訂正申告期間」に履修登録の追加・変更が認められるのは、次の必修(相当)科目等のみです。

追加・変更が認められる科目

【CLA コア科目/基礎教養科目】

「キリスト教II

【語学科目】

当該学生にとっての必修相当語学科目

【文学部専門科目】

「卒業論文」(4年次前期のみ)

「卒業論文・卒業制作」(4年次前期のみ)

【国際交流学部専門科目】

「研究入門」

「卒業論文」(4年次前期のみ)

「海外環境フィールド実習」

「海外エコツーリズム実習」

「農環境体験実習」

【音楽学部専門科目】

「専攻実技 I A·B ~ IV A·B」

「2年次修了公開演奏」

「卒業公開演奏」(4年次前期のみ)

「卒業プロジェクト」(4年次前期のみ)

【教職に関する科目】

「教育実習2」「教育実習3」(4年次前期のみ)

【その他】

当該科目を履修しなければ卒業延期となる授業科目

学科選抜科目(*)

*追加・変更には学科・科目責任者の承認が必要です。

_. →日程・スケジュールはp. 24

(4) 登録取消

履修登録した科目の取消を行う場合には、履修登録取消の期間に各自で FerrisPassport で取消の手続きをしてください。

【注意事項】

① 科目の性格上、次のとおり取り消しできない科目があります。

取り消しがっ	できない科目
【CLA コア科目/基礎教養科目】 「キリスト教 I 」(後期開講科目を除く) 「スポーツ実習(8)」「スポーツ実習(18)」	【語学科目】 英語科目(英語 e 科目を除く) 初習外国語科目(*)
【CLA コア科目/総合課題科目】 「キリスト教Ⅲ(1)」 「キャリア実習(短期インターンシップ)」 「キャリア実習(長期インターンシップ)」	【その他】 履修者数制限科目 学科選抜科目 要手続科目 集中講義科目

- *英語科目及び初習外国語科目については、当該学生にとって必修相当ではない科目のみ、語学責任者 (p.200) の判断により取り消しが認められることがあります。取り消しを希望する学生は、スケジュールに従って「学生時間割表」に語学責任者の承認印を受けた上で教務課で手続きを行ってください。
- ② 取り消した科目に代え、新たに別の科目を登録することはできません。
- ③ 通年科目については、前期・後期のいずれの期間でも取消申請をすることができます。
- ④ 集中講義期間中に、感染症罹患による出席停止になった場合、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。(p.17「授業欠席」参照)

【履修科目取消申請期間】

→日稈・スケジュールはp. 2

試 験

1. 試験の種別

種別	内 訳		掲示	教務課による追加措置			備考
(生 が)			161 小	追試験	再試験	追受理	/用 ² ウ
	教務課取扱	い試験	0	0	_	_	
授業内試験	担当者による試験		×	×	_	_	全て担当者の指示に 従ってください。
	教務課提出	教務課提出		-	-	0	
レポート試験	ト試験 担当者へ		0	-	-	×	全て担当者の指示に
	直接提出 掲示の なかったもの	×	_	_	×	従ってください。	
音楽学部実技試験	実技試験		0	_	0	_	

2. 受験資格

次のいずれかに該当する場合は、試験を受けることはできません。また、受験しても無効となり、当該 科目の成績は取り消されます。

- (1) 履修登録がされていない。
- (2) 履修科目について、出席が3分の2に満たないと担当者が判断した。

3. 教務課取扱い試験

授業中に行われる試験のうち、教務課から掲示で発表される試験を「教務課取扱い試験」と呼びます。 実施期間は授業第14週または第15週です。試験は通常の授業と異なる教室や5限終了後に行うことがあ ります。

(1) 試験に係る日程

学期	授業週	掲示予定日	試験期間
前期	第14週	2017年6月30日(金)	
印典	第15週	2017年7月7日(金)	「極業日」際」(5.4) 会四
₩	第14週	2017年12月18日(月)	「授業日一覧」(p.4)参照
後期	第15週	2017年12月22日(金)	

^{*}音楽学部実技試験については別途掲示します。

(2) 注意事項

試験に関する掲示は発表後に変更される場合があるので、FerrisPassport 等の更新情報に十分注意 してください。また、受験上の注意は下記のとおりとします。

- ① 着席は原則として1人掛けまたは2人掛けとし、2人掛けの場合は各々両端に座ってください。
- ② 試験中は監督者が見やすいように、学生証を机上に置いてください。
- ③ 当日学生証を忘れた場合は、教務課で受験票の交付を受けてください。受験票は交付日当日のみ 有効です。(返却不要です。)
- ④ 下敷きの使用及び筆記具の貸し借りは禁止します。
- ⑤ 科目担当者からの指示がない限り携帯電話・スマートフォン及びパソコン・タブレット端末等の電子機器の使用は禁止します。
- ⑥ 遅刻は試験開始後20分までに限り認められます。ただし、試験時間は延長しません。
- ⑦ その他試験中は全て監督者の指示に従ってください。

4. レポート試験

(1) レポート試験に関する掲示

教員から教務課に届出のあったレポート試験については、下記の日程で掲示により周知されます。

学期	掲示予定日				
前期	2017年6月30日(金)				
後期	2017年12月18日(月)				

(2) 教務課提出のレポート試験

提出	前期	2017年7月21日(金)、24日(月)~27日(木)9:00~18:00
期間	後期	2018年1月23日(火)~26日(金)、29日(月)9:00~18:00
提出	場所	原則として開講校舎とします。ただし、音楽学部3・4年次生については、緑園・山手いずれ の校舎でも提出可能とします。
提出	方法	教務課所定の表紙に必要事項を記入し、ホチキスで綴じて所定のレポートボックスに提出してください。本人提出を原則としますが、病気その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は代理人提出を認めます。 なお、一度提出したレポートは返却できません。また、「7. レポート追受理」を除く遅延提出はいっさい認められません。

(3) 担当者に直接提出するレポート試験

提出方法等すべて担当者の指示に従ってください。教務課ではいっさい取扱いません。

- (4) レポート作成・提出に際しての注意事項
 - レポート作成にあたり他人の文章を引用する際は、その部分を括弧「 」で囲む等引用がわかるようにした上で出典を明記しなければなりません。下記の事項を十分に注意してください。
 - ① 書物、論文及びインターネットから転記したり、それを組み合わせたりしてあたかも自分の文章のように装うことは、引用ではなく「盗用」です。盗用は絶対に許されない行為です。
 - ② ①のような意図はなくても、出典を明記しないで引用を行うと、盗用とみなされる場合があります。
 - ③ 提出されたレポートが上記①・②に基づき盗用とみなされた場合は、「不正行為」とみなします。
 - ④ レポートにおいて不正行為を行った学生には、次項目「5. 不正行為を行った学生への措置」記載 の措置等がとられます。

5. 不正行為を行った学生への措置

筆記試験	当該学期の全科目の履修登録を無効とする措置等がとられます。また、学則に基づく処分 (停学、訓告等) がなされることがあります。
レポート試験	当該科目の評価を不合格 (H) とする措置等がとられます。また、学則に基づく処分(停学、 訓告等)がなされることがあります。

6. 追試験

教務課取扱い試験 (p.32) についてのみ、追試験許可理由 (下記 (1) 参照) のいずれかに該当し、受験資格があると認められた学生は、願い出によって追試験を受けることができます。

音楽学部実技科目の追試験

→n 178「宝技追試験

(1) 追試験許可理由

	欠席理由	必要な証明書類*
1	傷病	医師の診断書
2	感染症にかかった場合の出席停止 詳細は p.17授業欠席①「感染症にかかった場合」 を参照。	感染症罹患届
3	就職試験受験	受験先の証明書等
4	大学院受験	受験票 (写)
(5)	放送大学(特別聴講学生)第1学期の単位認定試験	放送大学の試験日程を証明する書類
6	裁判員招集 詳細は p.17「裁判員に選任され、裁判員として審 理に参加する場合」を参照。	裁判所からの呼び出し状
7	忌引 詳細は p.17「忌引により、欠席する場合」を参照。	欠席日を確認できる「会葬礼状」または死亡を確認できる公的証明書(写)
8	交通機関の事故	当該交通機関が発行する遅延証明書等
9	全国レベルの大会等への出場	当該大会等のプログラム及び参加を証明する書類
10	その他特別な事情により、教務部長が必要と認め た場合	理由を証明する書類

^{*}証明書類は当該科目試験日に受験できなかったことを証明するもの、「○月○日~○月○日」のように期間が明記されたものでなければなりません。

(2) 受験手続

追試験受験を希望する場合は、次の期日までに教務課窓口にて「追試験願」を記入の上、証明書類及び受験料(証紙購入)を添えて、教務課に提出しなければなりません。代理人による手続も認めるので、必ずこの期日までに手続を行ってください。

なお、追試験の許可が得られなかった場合や担当者が追試験を実施しないと判断した場合には、追 試験該当者発表日以降に受験料を返還します。

	追試験許可願
提出物	証明書類
	受験料*
手続期限	前期 2017年8月1日(火) 15:00
十 初 朔 阪	後期 2018年2月1日(木) 17:00

^{*1}科目につき1,000円。追試験許可理由②及び⑥の場合は不要です。

(3) 追試験に係る日程

学期	学年	許可者及び時間割発表予定日	追試験日
前期	1~4年次生	2017年8月4日(金)	
後期	4年次生	2018年2月7日(水)	「学事日程」(pp.1~3)参照
1交刑	1~3年次生	2018年2月14日(水)	

(4) 追試験の注意事項

- ① 音楽学部実技科目の追試験については別途掲示します。
- ② 追試験の成績評価は2割減点とします。(追試験許可理由②及び⑥の場合は減点はありません。)
- ③ 追試験の実施は定められた期日1回限りです。
- ④ 合格・不合格評価科目及び集中講義科目については追試験を実施しません。

7. レポート追受理

レポート追受理とは、やむを得ない理由(追試験許可理由に準ずる。p.34参照)により提出期間内に 教務課提出のレポートを提出できない場合、下記の手続きにより提出することができる制度です。

ただし、この場合の成績評価は、追試験の規定に準じます。

	レポート追受理願	
提出物	証明書類	
	レポート本体	
提出場所	是出場所 教務課	
提出期限	前期 2017年8月1日 (火) 15:00	
1年山 荆 胶	後期 2018年2月1日 (木) 17:00	

8. 再試験

再試験とは、音楽学部の必修・選択必修レッスン科目の試験を受けて不合格 (評価 F) とされた学生が、 願い出て認められた場合、改めて受験の機会が与えられる制度をいいます。 →p.179 [再試験]

9. 卒業再試験

卒業再試験とは、卒業学期に履修した科目(卒業再試験対象外科目を除く)に対し不合格評価「F」を受けたため、卒業要件単位に4単位以内の不足が生じた者に、再度試験の機会を与える制度です(実施日は「学事日程」(pp.1~3) 参照)。不合格評価「G」「H」を受けたため、卒業要件を満たせなくなった者には、受験資格が与えられません。

(1) 卒業再試験受験資格者

- ① 受験資格者は、教授会において確定された後、発表される。
- ② 受験資格者は卒業学期に評価「F」を受けた科目の中から、不足単位数に相当する分の科目の卒業 再試験を受験することができる。

(2) 卒業再試験対象外科目

1	集中講義科目				
2	追試験受験科目				
3	音楽学部専門科目のうち、実技試験期間中に試験を実施する必修・選択必修レッスン科目				
4	合格・不合格評価科目 (p.38)				
	実習科目	CLA コア科目/基礎教養科目	「音楽実技 (声楽アンサンブル入門)」 「音楽実技 (ピアノ)」 「音楽実技 (弦楽器)」 「音楽実技 (香楽器)」 「音楽実技 (声楽)」 「音楽実技 (オルガン)」		
		語学科目	「海外語学実習」		
(5)		英語英米文学科/英文学科専門科目	「Summer Abroad (US)/ アメリカ現地実習」 「Summer Abroad (UK)/ イギリス現地実習」 「Field Study 1,2/ フィールド・スタディ1,2」 「Spring Abroad」		
		日本語日本文学科/日本文学科専門科目	「日本語教育実習1,2」		
		国際交流学部専門科目	「アジア現地実習」「ヨーロッパ現地実習」 「地球環境実習」「オーストラリア現地実習」 「農環境体験実習」「海外エコツーリズム実習」 「北米現地実習」 「海外環境フィールド実習」		
		音楽学部専門科目	「伴奏実習」		
6	⑥ 教職に関する科目のうち、卒業要件算入科目以外の科目				

(3) 卒業再試験手続

卒業再試験の受験を希望する者は、次の期間に教務課で所定の手続きをしなければなりません。この期間に遅れると一切受理されません。代理人による手続も認めるので必ずこの期日までに手続を行ってください。

提出物	卒業再試験受験願
提出物	受験料 5,000円 (1科目につき)
手続期間	前期 2017年9月13日 (水)、14日 (木)
十 続 朔 间	後期 2018年2月23日 (金)、26日 (月)

(4) 卒業再試験の注意事項

- ① 卒業再試験の時間割は、卒業再試験申込時に発表します。
- ② 卒業再試験の成績評価は「C」または「F」とします。
- ③ 卒業再試験の実施は、定められた期日1回限りとします。

成績評価

1. 成績評価

本学における成績評価の基準は、次のとおりです。ただし、大学院学生については、別途定めます。なお、 各科目の詳細な成績評価基準及び成績評価方法はシラバスに記載しています。

	評価		評価基準				
	S	100点~90点	到達目標を達成し、卓越した水準に達している。	4			
合	А	89点~80点	到達目標を達成し、優れた水準に達している。	3			
格	В	79点~70点	到達目標を達成し、良好な水準に達している。	2			
	С	69点~60点	到達目標を達成している。	1			
不	F	59点~ 0点	到達目標を達成していない。	0			
合	G	-	筆記・実技試験を欠席、もしくはレポートを提出しなかった。	0			
格	Н	-	出席が3分の2に満たず受験資格なしと判定された、 もしくはその他の理由による。	0			

2. GPA 制度

GPA(Grade Point Average)とは、各成績評価に対してそれぞれポイントを定め、1単位あたりの成績の平均値を示すものです。したがって、履修科目を多く登録しても、不合格が多いと、GPAの値が小さくなります。科目選択および履修に際しては、各自が責任をもって管理してください。

各成績評価に対するグレードポイントは次のとおりです。(合(P)、不(Q)、N、T は、GPA の算出には含まれません。)

$$S = 4$$
, $A = 3$, $B = 2$, $C = 1$, $F \cdot G \cdot H = 0$

GPA は履修科目の単位数に評価に応じたグレードポイントを乗じ、その合計を履修登録単位数の合計で除して求められます。

授業科目名	単位数	評 価	ポイント数 (QP)
キリスト教 I	2	A	2×3= 6
英語 Is (読む・書く)	1	C	$1 \times 1 = 1$
英語 Is (聞く・話す)	1	H	$1 \times 0 = 0$
スペイン語 I (入門)	1	В	$1 \times 2 = 2$
中国語 I (入門)	1	F	$1 \times 0 = 0$
R & R (入門ゼミ)	1	В	$1 \times 2 = 2$
社会的行為としてのコミュニケーション	4	В	$4 \times 2 = 8$
対人コミュニケーションの心理学	2	В	$2 \times 2 = 4$
放送文化と制度を考える	2	A	$2 \times 3 = 6$
ディベートと自己主張	2	В	$2 \times 2 = 4$
日本語の音声とアクセント	2	A	$2 \times 3 = 6$
日本史の基礎(古代〜近世)	2	C	$2 \times 1 = 2$
合 計	21単位①		41②

 成績通知(FerrisPassport)・成績証明書への表示 成績通知及び成績証明書への評価の表示方法は次のとおりです。

評	価	S	A	В	С	合	F	不	G	Н	単位* 認定	履修 中止	GPA
成績通知		S	A	В	С	P	F	Q	G	Н	N	T	表示
成績証明書	(和文)	S	A	В	С	Р					N		表示
成績証明書		A +	A	В	С	P					N		表示

- ※ 本学以外で修得した単位等の認定は、成績通知及び成績証明書に授業科目名:「単位認定」、評価:「N」と表示されます。
- 4. 成績評価のガイドライン

厳正な成績評価を行うことを目的として、学部の授業科目の成績評価についてガイドラインを設けています。

- 1. S評価とA評価を与える学生の割合は履修登録者数に対して合計50%を上限とする。
- 2. 次のいずれかに該当する授業科目には、担当者の判断によりこのガイドラインを適用しないことができる。
 - (1) 履修登録者9名以下の科目
 - (2) 卒業再試験対象外の実習科目 (p.35「卒業再試験対象外科目」⑤参照)
 - (3) CLA コア科目「音楽実技 (声楽アンサンブル入門)」「音楽実技 (ピアノ)」「音楽実技 (弦楽器)」 「音楽実技 (管楽器)」「音楽実技 (オルガン)」
 - (4) 文学部「R&R (入門ゼミ)」「基礎ゼミ」「専門ゼミ」「卒論ゼミ」
 - (5) 国際交流学部「研究入門(国際交流学部の学び)」「導入演習」「基礎演習」「専門演習」
 - (6) 音楽学部「ソルフェージュ」「音楽家の基礎知識」「音楽基礎理論」「室内楽」「演奏プロフェッショナルスタディ」「学内演奏」「専門ゼミ」
 - (7)「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」「2年次修了公開演奏」
- 5. 合格·不合格評価科目

試験の結果が段階的な評価によらず、合格又は不合格で評価される授業科目は、次のとおりです。

合格・不合格評価科目

CLA コア科目	「ボランティア活動1」「ボランティア活動2」「ボランティア活動3」 「キリスト教Ⅲ (1)」「キャリア実習(短期インターンシップ)」 「キャリア実習(長期インターンシップ)」
文学部専門科目	「文学部とキャリア」
音楽学部専門科目	「学外公開発表Ⅰ」「学外公開発表Ⅱ」「海外音楽研修」「国内音楽研修」 「室内楽の夕べ」「オーケストラ協演の夕べ」「学内公開演奏」 「演奏ボランティア」「フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ [スタンダード]」 「フェリスプレイヤーズ・オン・ステージ [アドヴァンスト]」

6. 成績通知

(1) 学生本人への通知

成績通知は、下記の日程にて FerrisPassport で行います。

【学生本人への成績通知日】

前期	2017年9月13日(水)
後期	2018年3月末

成績通知時には、前学期までに履修したすべての授業科目の成績評価が記載されています。

なお、長期休業期間中に実施する実習科目、集中講義科目や留学・単位互換により他大学等で修得 した単位の認定は上記とは異なる日程で通知することがあります。

(2) 保証人への通知

保証人に対する成績通知は、学期ごとに郵送で行います。ただし、特別な事情によって保証人への 通知を希望しない場合は、所定用紙(教務課、山手事務室備付)をもって通知の停止を願い出ること ができます。願い出が受理された場合、保証人への成績通知を停止し、別途、通知停止となった旨の お知らせをします。

【保証人あて郵送日】

前期	2017年10月下旬(予定)
後期	2018年5月中旬(予定)

7. 成績評価に関する問い合わせ

成績評価基準 (p.37) 及びシラバスに定める成績評価方法に照らし、成績評価について、具体的な根拠に基づく確認事項がある場合には、「成績評価確認願」を提出することができます。該当者は、定められた期日までに、「成績評価確認願」(教務課、山手事務室備付)を教務課又は山手事務室に提出してください。この期日を過ぎた場合、問い合わせは一切受け付けられません。

なお、この問い合わせは、成績評価の確認を依頼するためのものであり、担当者に対して評価への異議 又は再考を申し出るものではありません。

また、以下のような理由による「成績評価確認願」の提出は受け付けることができません。

- ① 再考を求めるもの。
- ② 担当教員に情状を求めるもの。
- ③ 他の履修者との対比のうえ不満を訴えるもの。(「友人は C 評価だが、なぜ自分は F 評価なのか。」等)
- ④ 具体的な内容の記載のないもの。(「単位を落とすほど欠席していない。」等)

→日程・スケジュールはp. 24

卒業の要件・卒業論文等

1. 卒業に必要な単位

卒業のためには、4年(8学期)(2年次編入学者は3年(6学期)、3年次編入学者は2年(4学期))以上在学して、学部・学科ごとに定められた卒業に必要な単位を修得しなければなりません。

2. 卒業者発表、学位

所定の単位を修得した学生は卒業を認められ、卒業証書・学位記が授与されます。卒業者発表の日時及 び授与される学位は以下のとおりです。

卒業者発表	日時	2018年2月23日(金)	
平耒 有 光衣	場所	緑園校舎・山手校舎・FerrisPassport	
「成績評価確認願」提出期限	2018年2月27日 (火) 18:00 2018年2月26日 (月		

	文学部	学士(文学)
学位	国際交流学部	学士 (国際交流学)
	音楽学部	学士 (音楽)

3. 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクト(以下「卒業論文等」と表記)の提出

(1) 日程

	日時	場所
「卒業論文等題目届」提出期限	2017年10月13日(金)	教務課又は山手事務室
在米於立 集目中口	2017年12月11日 (月) 11:00~16:00	掲示によって発表し
卒業論文等提出日	2017年12月12日 (火) 11:00~16:00	ます。

(2)「卒業論文等題目届」提出

所定の期日までに「卒業論文等題目届」(9月中旬に FerrisPassport に掲示)に必要事項を記入し、 指導教員の承認印又はサインを得た上で、教務課又は山手事務室に提出してください。提出する際の 注意事項は以下のとおりです。

記入	記入漏れがないことを確認してください。
捺印	提出票に指導教員の捺印又はサイン漏れがないことを確認してください。
主題	提出後の主題の変更はできません。指導教員の指導により、提出後に変更が生じた場合は、卒業論 文等提出までに、指導教員の確認印又はサイン及び学生本人の訂正印を押印した上で、教務課又は 山手事務室に提出してください。

(3) 卒業論文等提出

	提出方法	指定された日時に所定の場所に本人が提出してください。郵送による提出は一切受理しません。
	代理人提出	病気、その他やむを得ない理由に本人が提出できない場合は、追試験許可理由 (p.34) に準じて代理人提出が認められることがあります。教務課まで連絡し、指示を受けてください。ただし、この場合も提出期限は厳守とします。
	提出媒体	紙に印刷され、所定の方法で綴じられたものでなければ受理されません。機器のトラブルによる遅延提出は一切認めませんので、提出日以前に印刷を済ませておいてください。なお、コミュニケーション学科の卒業制作及び音楽芸術学科の卒業プロジェクトは紙以外の媒体での提出が指示されることがあります。
	用紙・体裁	各学科の指示に従ってください。
	口頭試験等	審査にあたり実施することがあります。詳細は各学科の指示に従ってください。

(4) 卒業論文等の遅延提出

所定の期日に提出できなかった卒業論文等は、遅延提出受付日に遅延扱いとして受け付けます。ただし、この場合遅延手数料が徴収されます。また、成績評価は「C」または「F」とします。 遅延提出受付日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。

遅延提出受付日	2017年12月13日(水) 11:00~13:00
場所	緑園校舎 (詳細は掲示にて発表)
手数料	5,000円

4. 卒業論文等の撤回

卒業論文等を提出した者がその年度に卒業を希望しない場合は、「卒業論文等撤回願」(教務課、山手事務室備付)を教務課に提出することにより卒業論文等を撤回できます。

なお、撤回した場合は H 評価となるので、次の学期に改めて履修登録及び卒業論文等の提出手続きを 行わなければなりません。

「卒業論文等撤回願」提出期限	2018年1月24日(水)
----------------	---------------

5.9月卒業

年度末に卒業資格の認定を得られなかった者が、次年度前期に卒業に必要な単位を修得した場合、9月 末の卒業が認められます。

(1) 9月卒業希望届

2017年度9月卒業を希望する者は、次の期日までに「9月卒業希望届」(教務課、山手事務室備付)を教務課又は山手事務室に提出してください。

「9月卒業希望届」提出期限	2017年4月14日(金)

(2) 2017年度9月卒業論文等提出及び卒業認定に係る日程

	日時	場所
「卒業論文等題目届」提出期限※	2017年5月12日(金)	教務課又は山手事務室
卒業論文等提出日	2017年7月5日(水)、6日(木) 9:00~16:00	教務課
遅延提出受付日***	2017年7月7日(金) 11:00~13:00(手数料:5,000円)	教務課
9月卒業者発表・成績通知	2017年9月13日(水)	緑園校舎・山手校舎・ FerrisPassport
「成績評価確認願」提出期限	2017年9月13日(水)	教務課又は山手事務室
2017年度9月学位授与式日程	2017年9月27日(水)	掲示によって発表します。

※題目届提出の注意事項については上記「3. (2)「卒業論文等題目届」提出」(p.40)を参照のこと。 ※※遅延提出の注意事項については上記「3. (4)卒業論文等の遅延提出」(p.40)を参照のこと。

(3) 9月卒業希望者の履修方法

文学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。 選択必修 I と選択必修IV科目で後期開講科目を未修得の場合は、それぞれ同じ群の 前期開講科目の履修をもって当該未修得科目の履修と見なします。その場合は、「9 月卒業希望届」提出前に、所属学科の教務委員の履修指導を受けなければなりません。
国際交流学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。
音楽学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。 なお、当該学生の未修得科目の履修方法について、学部が特に定める場合があります。 「9月卒業希望届」提出前に、所属学科の履修指導を受けてください。

(4) 9月卒業予定者の卒業論文等撤回

9月「卒業論文等撤回願」提出期限

9月卒業予定者のうち、卒業論文等を提出した者が9月卒業を希望しないという場合は、「卒業論文等撤回願」を教務課に提出することにより卒業論文等を撤回できます。

なお、撤回した場合はH評価となるので、次の学期に改めて履修登録及び卒業論文等の提出手続き を行わなければなりません。

を行わなければなりません。		

2017年7月26日 (水)

海外短期研修·留学·国内留学

海外短期研修·留学

本学では、多様な文化と価値観を理解し、国際社会で活躍できる人材を育成するために海外交流プログラムを豊富に提供しています。

学生を海外に派遣する制度としては、短期の海外短期研修制度と長期の交換留学制度、認定留学制度、セメスター・アブロードがあります。

海外短期研修・留学に関する情報は学生要覧だけでなく、必ず国際課が発行する冊子「STUDY ABROAD」 (当該年度発行) も参照してください。 →「STUDY ABROAD」(国際課にて配付)

海外短期研修

海外短期研修は、夏季または春季休業期間を利用して、海外の大学等において、語学や歴史・文化、また は専門分野を学ぶプログラムです。授業科目として開講しています。要手続科目のため、履修を希望する者 は「STUDY ABROAD」を参照のうえ必要な手続きを行ってください。

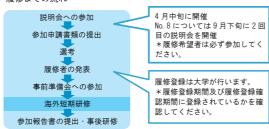
履修にあたっては、下記及び開講科目表、並びにシラバスを確認し、履修が可能な科目であることを確認 してください。

(1) 海外短期研修先(2017年度予定)

_	· / // // // // // // // // // // // //						
No.	科目名*1	研修先(国)	時期*1	期間*1	科目区分*2	単位数*2	履修年次
1	海外語学実習 (フランス語)	西部カトリック大学(フランス)	夏期	約4週間	約43周閏	2	
2	海外語学実習 (ドイツ語)	IIK: 国際コミュニケーション研究所 (ドイツ)	夏期			2	
3	海外語学実習 (スペイン語)	サラマンカ大学 (スペイン)	夏期		共通科目(語学) 初習外国語科目	2	1234
4	海外語学実習 (中国語)	清華大学(中国)	夏期	約3週間		2	
5	海外語学実習 (朝鮮語)	梨花女子大学(韓国)	夏期			2	
6	アメリカ現地実習 / Summer Abroad(US)	ローズモントカレッジ (アメリカ)	夏期	約3週間	英語英米文学科	2	1234
7	イギリス現地実習 / Summer Abroad(UK)	パースカレッジ (イギリス)	夏期	約4週間	専門科目 *3	2	1234
8	Spring Abroad/ 北米現地実習	ビクトリア大学(カナダ)	春期	約4週間	英語英米文学科 / 国際交流学科 専門科目 *3	2	123
9	オーストラリア現地実習	ボンド大学 (オーストラリア)	夏期	約3週間	国際交流学科	2	1234
10	海外エコツーリズム実習*4	(インドネシア)	春期	約2週間	専門科目 *3	2	123

- *1 開講科目、留学時期・期間は年度により変更することがあります。
- *2 修得した単位は履修した科目の「科目区分」に応じて認定されます。 「海外語学実習」(No.1~5) によって修得した単位は、共通科目(語学) の必修相当として認められます。
- *3 他学部開放科目: 開講科目表の「開放」欄「▲」
- *4 初回授業時選抜科目

(2) 履修までの流れ



「海外エコツーリズム実習」(No.10) の履修について

左記の流れと異なります。 初回授業時選抜科目のため、履修 を希望する者は、必ず初回授業に出 席し、履修登録も各自、履修登録期 間に行ってください。

交換留学

本学では、下記の18大学と協定を締結しており、この協定に基づき留学することを交換留学と言います。 留学期間は1学期間、又は2学期間(最長1年間)です。

留学先で修得した単位は、審査により本学において修得した単位として認定することができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。

ただし、留学学期には卒業できません。

全般的な説明会は毎年4月・10月に、その他、留学地域別などの説明会は随時開催しています。出願時期は、年2回(6月・11月)で、留学出発時期によって異なります。

→単位物中については p 192

交換留学の出願条件

交換留学の出願にあたっては、下記の条件を満たす必要があります。

- (1) 留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の留学生としてふさわしい者
- (2) 留学開始時において2学期以上在籍する者
- (3) 出願時の前学期までに、原則として在籍学期数×15単位を修得済みである者

例)2年次後期に出願する場合

1年		2年	
前期	後期	前期	後期
15単位×	3学期=45	単位以上	出願

- (4) 累積 GPA2.10以上の者(一部協定校は累積 GPA2.50以上*)
- (5) 留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有する者。

英語圏	TOEFL iBT 61点以上または IELTS6.0以上(協定校によって異なる *)
初智外国語圏	中級以上。以下に定める条件①もしくは②が出願条件となる。 ①志願時に原則として2学期分以上の留学先言語の語学科目の成績評価が確認でき、平均 B 以上(累積 GPA2.10以上) ②留学先言語の語学検定証明書

*(4)(5)は協定校により異なるので、当該年度発行の「STUDY ABROAD」で確認すること。

交換留学の協定校

国	市・州	大学名	主な出発時期
ab E	北京	清華大学	
中国	上海	華東師範大学	
台湾	台北	輔仁大学	2. 28
	ソウル	梨花女子大学	2~3月
韓国	19970	徳成女子大学	
	釜山	新羅大学	
フィリピン	ドゥマゲテ	シリマン大学	6月
インドネシア	ジョグジャカルタ	ガジャマダ大学	9月
	ミシガン州	ホープカレッジ	
アメリカ	ペンシルベニア州	ローズモントカレッジ	8月
	メリーランド州	ワシントンカレッジ	
イギリス	ブライトン	サセックス大学	5月
フランス	アンジェ	西部カトリック大学	2月
ドイツ	デュッセルドルフ	デュッセルドルフ大学	4月
1111	ブレーメン	ブレーメン芸術大学	9月
スペイン	サラマンカ	サラマンカ大学	3月
スロバキア	ブラチスラバ	コメニウス大学	9月

交換留学実現にむけたロードマップ

交換留学を実現させるためには、計画的に準備を進めていく必要があります。出願までのステップやモデルプランを参考にしながら、早めに目標を設定して行動してください。

出願期間等手続きの詳細は「STUDY ABROAD」を参照してください。

◆出願までのステップ



◆交換留学のモデルプラン

	学年	2年次後期に留学	3年次前期に留学
	前 期	説明会出席	
	夏休み	海外短期	胡研修*
		出願	
1年	後期	書類・面接審査	
	1夜 期	決定	
	春休み	入学手続き	
		渡航準備	説明会出席
	前期		出願
	Di 261	教務面談	書類・面接審査
		留学準備講座	決定
2年	夏休み		海外短期研修*
-			入学手続き
	後期		渡航準備
	54 //4	留学生活	教務面談
		H , L,	留学準備講座
	春休み		
	前 期		
		単位認定手続き	留学生活
3年	夏休み		
	後期		
	春休み		単位認定手続き
	前期		
4年	夏休み		
	後期		
	春休み		

*海外短期研修は必須ではありませんが、長期留学前の参加をお薦めします。

認定留学

学生自ら選んだ海外の大学または大学附属の語学学校に、自ら入学手続きをした上で、本学に申請し許可 を得て留学する制度です。

留学期間は1学期間、又は2学期間(最長1年間)です。

留学先で修得した単位は、審査により本学において修得した単位としてみなすことができ、また留学期間 は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。

ただし、留学学期は卒業できません。

*詳しくは「STUDY ABROAD」を参照してください。

→単位認定については n 183

認定留学の出願条件

認定留学の出願にあたっては、下記の条件を満たす必要があります。

- (1) 留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の留学生としてふさわしい者
- (2) 留学開始時において2学期以上在籍する者
- (3) 出願時の前学期までに、原則として在籍学期数×15単位を修得済みである者
- (4) 累積 GPA2.10以上の者
- (5) 留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有する者。

英語圏	TOEFLiBT54点以上 または IELTS4.5以上
初習外国語圏	中級以上。以下に定める条件①もしくは②が出願条件となる。 ①志願時に原則として2学期分以上の留学先言語の語学科目の成績評価が確認でき、 平均B以上(GPA2.10以上) ②留学先言語の語学検定証明書

セメスター・アブロード

文学部英語英米文学科の学生のみ対象のプログラムです。

2年次前期あるいは3年次前期の1学期、ニュージーランドの協定校に留学します。留学先で修得した単位は本学において修得した単位としてみなすことができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。興味・関心がある学生は、4月以降定期的に開催される説明会に参加し、プログラム内容等についての詳細を理解した上で、9月に出願手続きを行ってください。

*説明会等の案内は FerrisPassport にて国際課から発信します。

セメスター・アブロードの出願条件

セメスター・アブロードの出願にあたっては、下記の条件を満たす必要があります。

- (1) 応募時に英語英米文学科の1年次または2年次である者
- (2) 留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の留学生としてふさわしい者
- (3) 留学開始時において2学期以上在籍する者
- (4) 出願時の前学期までに、原則として在籍学期数×15単位以上を修得済みである者
- (5) 累積 GPA2.25以上の者
- (6) 留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有する者。

TOEFL iBT 44点以上、または IELTS 4.0以上

国	市・州	大学名	留学開始時期の目安
ニュージーランド	ウェリントン	ヴィクトリア大学	3月から

その他の留学方法

交換留学、認定留学、セメスター・アブロードを利用せずに、休学して留学をする方法もあります。ただし、休学して留学する場合は、留学期間は在学期間として扱われないため、4年間で卒業することはできません。

1-9-07 1 100 E 1C 30 C C 184, p. 100

→単位認定については、p. 18-

海外留学に関する相談窓口

相談窓口

留学先で修得した単位の認定、帰国後の履修計画など	教務課
留学の手続き、出願、留学に関する奨学金制度の情報提供、個別相談など	国際課
留学後の就職活動など 就職課	

留学に関する情報

留学準備のための情報収集には、緑園キャンパス CLA 棟2階の国際センター(資料コーナー)を活用してください。協定校に関する資料、先輩の報告書等が閲覧できます。

卒業・進学

国内留学

同志社女子大学での国内交流制度

本学と同志社女子大学は国内留学協定を締結し、相互に派遣・受入を行っています。これを国内交流制度といいます。同志社女子大学で半年ないし1年間、1つの学科に所属して履修します。

応募条件・留学期間の取扱い

1. 募集人員

原則として通年(2学期間)2名。学期単位の派遣も可能です。

2. 出願資格

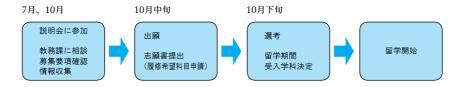
全学部対象。

原則として本学に1年以上在学し、派遣時に2年次生又は3年次生であること。 教職課程履修者が派遣を希望する場合は、派遣時に2年次生であること。

3. 留学期間の取扱い

同志社女子大学での科目履修期間は、本学の修業年数及び在学期間に算入されるので、4年間での卒業が可能です。休学する必要はありません。

留学までの流れ



7月及び10月に説明会を開催します。出願にあたっては説明会への参加が必須条件となりますので、関心のある学生はいずれか一方に必ず参加してください。なお、十分な出願準備のためにも、7月の説明会参加を推奨します。

留学スケジュールの例

下表は、2年次前期に留学した場合の例です。

パターン	1年		2年		3年		4年	
ハダーン	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2年次前期に 説明会	出願・選考	留学期間	単位認定申請		就職活動または			
1学期留学	1学期留学 高明 各種手	R明会 各種手続		半位能定中酮			進学準	備など

受け入れ学科・履修可能科目

1. 受け入れ学科

下記のいずれかの学科に所属します。 履修希望科目が最も多く置かれている学科を希望してください。 学部を超えた履修も可能です。

学部名	所在地		学 科 名	
学芸学部	京田辺キャンパス	音楽学科	情報メディア学科	国際教養学科
現代社会学部	京田辺キャンパス	社会システム学科	現代こども学科	
生活科学部	今出川キャンパス	人間生活学科	食物栄養科学科	
表象文化学部	今出川キャンパス	英語英文学科	日本語日本文学科	

*薬学部医療薬学科及び看護学部看護学科は受入対象外です。

2. 履修可能科目

ほとんどすべての科目が履修できますが、一部予め相談が必要な科目があります。

また、京都周辺の大学・短期大学50校が参加する『大学コンソーシアム京都』の科目及び同志社大学 各学部の開放科目も履修可能です。詳細は説明会で配布する募集要項で確認してください。

出願の手続き

説明会 (7月、10月) に参加した上で、下記のとおり申し込んでください。説明会の日程は、FerrisPassportで掲示します。

提出書類	志願書(志願理由、履修希望科目)
提出期限	2017年10月10日(火)~10月12日(木)
注 意	志願書には本人と保証人の署名、押印が必要です。提出期限までに整えること。

50 2017学生要覧

学部教育課程

全学教養教育機構(CLA)

文学部

国際交流学部

音楽学部

全学教養教育機構(CLA)

共通科目

CLA コア科目

基礎教養科目

総合課題科目

語学科目

留学生科目

全学教養教育機構(CLA)【2017年度以降入学者】

目的、カリキュラム・ポリシー

◆目的

全学教養教育機構(Center for the Liberal Arts: CLA)(以下 CLA)は、学部・学科の専門教育と並行して、新しい時代に主体的な役割を果たすために必要な知識と語学運用能力、課題発見・課題解決の方法を4年間にわたって学ぶリベラル・アーツ教育の拠点です。

◆カリキュラム・ポリシー

CLA のカリキュラムは、語学科目(p.65)、留学生科目(p.92)と下記に説明する CLA コア科目で編成されます。

フェリスの伝統を受け継ぎ、キリスト教的価値観に関する正確な理解を基に、「自分たちが生きる世界」「ボランティア精神がもつ力」「女性のキャリア」「新しい文化創造の可能性」「音楽の力」「女子教育の歴史とその意味」について広く考え、理解を深めます。CLAでの学びを通して、どの学部の学生も「新しい時代を切り拓く」ために必要な現代の教養、能力を身に付けることができます。

CLA コア科目カリキュラムの説明

キリスト教を基盤として、未知の世界や多くの学問領域と出会い、探究、学修することを通じて、幅広い 教養と科学的な思考力を身に付けます。建学の精神、教育の理念を具現化した科目を通じて、みなさん一 人ひとりが本学で学ぶことの意義や価値を自覚することができます。また、学際的、実践的教養科目により、 思考や実践の型を修得したうえで、今日の課題と社会の要請に応える力を身に付けます。

1. 科目群

キリスト教科目	キリスト教の基礎的知識を学び、その価値観・世界観を理解し、キリスト教と人文科学・社会科学・芸術との関係を探ります。
知のフロンティア科目	①思想、②社会、③文化・芸術、④科学の諸分野で、新たな知の世界と出会い、刺激 を受け、科学的な思考力、幅広く深い教養を身につけた、豊かな人間性を涵養します。
実践教養科目	卒業後の実社会での活躍を見据え、教養を応用・活用する具体的な能力の修得を行います。答えがひとつではない課題に積極的にかかわり、根拠に基づく判断、解決のための提案、行動ができるようになることを目標としています。的確に読解し分析する力、多角的に考える力、論理的に表現する力を修得するために、議論の進め方やディベートの方法、意見や価値観の異なる他者との対話や合意形成の方法、協働する姿勢などを実践的に学びます。
フェリス教養講義科目	学生にとって身近なテーマや本学の教育・活動実績を糸口として、現代の世界情勢や 社会問題、現代社会の諸相や文化動向について学際的に考え、世界に視野を広げます。 学生が主体的に提案・デザインする科目もあります。
健康・スポーツ科目	家族や社会、次世代といった諸観点から、自分の身体とその周辺にある問題について 考え、身体を動かすことの意味や効果を体験的に学びます。

2. 課程

54

FERRIS+ 実践教養探求課程

2017年度入学生から、FERRIS+ 実践教養探求課程が履修できます

FERRIS+実践教養探求課程は、フェリスらしいリーダーを育成する、人材養成プログラムです。文学部・ 国際交流学部・音楽学部の全ての学生が履修できます。

主体性、広い視野、実践型のスキルといった力を身に付けることができるプログラムで、修了した学生に は、就職活動開始時期前に「実践教養探求課程修了証」を発行しますので、就職活動に生かすこともできま す。また、FERRIS+実践教養探求課程履修者が優先的に受けられる就職講座や、キャリア形成プログラム なども用意しています。

1. 修了要件

2年前期の「プロジェクト演習」を中心に、関連科目を1年~3年次で13単位履修してください。

区分	科目数·単位数
プロジェクト演習科目	1科目1単位
知のフロンティア科目	2科目4単位
実践教養科目	2科目4単位
フェリス教養講義科目:For Others	2科目4単位
合計	13単位

2. プロジェクト演習(2年次前期履修)

FERRIS+の学びの核となるのが、プロジェクト演習科目です。専任教員の指導のもと、地域社会の産業 振興や環境問題、新しい文化の創造と発信、女性とキャリアなど、実社会と結びついた課題を具体的に設定 し、解決策や企画を立案・提案する方法を体験的に学びます(PBL: Project-Based Learning)。また、み なさんが導きだした解決策やアイディアが実社会で通用するのか、企業や NPO 法人など学外組織からの具 体的なフィードバックを受けることで、今本当に必要とされる教養とは何か、また教養を実践的に活用する にはどうすべきかについて、多角的に学ぶことができます。

2018年度前期に開講されるプロジェクト演習科目は、次のとおりです。

秋岡陽教授 「フェリス女学院150周年記念プロジェクト」

土屋広次郎教授 「横浜と音楽」

佐藤輝教授 「ボランティアと地球」

· 谷知子教授 「若者による文化の創造と発信」

3. 修了証

修了者には、就職活動開始時期前(4年次春)に「実践教養探求課程修了証」を発行します。就職活動に おおいに生かしてください。

4. スケジュール(予定) *詳細は FerrisPassport 等で掲示します。

2017年4月 オリエンテーション

2017年7月 説明会

2017年9月 説明会

2017年11月末 プロジェクト演習履修のためのエントリーシート提出

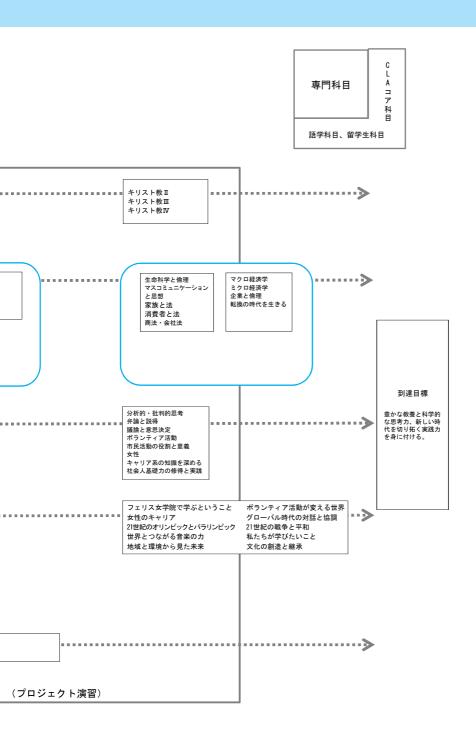
2017年12月から2018年1月 プロジェクト演習履修者決定

2018年度前期 プロジェクト演習履修

2019年度後期までに所定のCLA科目履修

2019年3月「実践教養探求課程修了証 | 発行

キリスト教の基礎的知識を学ぶとともに、 キリスト教の価値観・世界観を理解する。 キリスト教Ⅰ キリスト教と人文科学・社会科学・芸術 との関係を探る。 ボランティア実習等の実践的学びを通し て、フェリス女学院とキリスト教の関わ りについて理解を深める。 ①思想、②社会、③文化·芸術、④科学 哲学 社会科学入門 文学 (日本文学) 数学の基礎 の4つの領域にわたって、新たな学問世界、 文学 (外国文学) 心理学 **近現代中入門** 統計の基礎 知の世界と出会い、知見を広げる。 数的思考の初歩 青年心理 専門教育を多角的に深化する力を身につ 社会経済中 音楽 ジェンダーと教育の歴史 子ども・教育・保育 社会学 音楽実技 環境学入門 ける。 マスコミュニケーション論 美術芸術論 情報科学 現代における法学入門 日本国憲法 現代の経済問題 社会保障論 行政学 経営学入門 社会に積極的に関わり、判断、行動する 読み書きのスキル(文学系) 上で必要とされる手段・議論の進め方・ 読み書きのスキル(社会系) 聞く話すのスキル 合意形成の方法を学び、教養を応用・活 情報とメディアのリテラシー 用する具体的な能力を修得する。 読書とメディア 今年の一冊 ボランティア論 情報リテラシー フェリスの在学生が身近に感じることが できるテーマや活動、トピックを糸口と して、より大きな社会問題や世界につい て学祭的に理解する。 身体への理解を深める。 健康・スポーツ論 家族や社会、次世代といった多角的な視点 スポーツ実習 から、健康やスポーツ、自分の身体の周辺 にある諸問題について理解する。 FERRIS+



基礎教養·総合課題科目【2016年度以前入学者】

カリキュラムの説明

大学生に期待される基礎的な教養、現代的な課題に取り組む力をつけるための全学共通科目です。どの学部の学生も自由に選択し、4年間を通じて活用できます。

例えば、音楽学部の学生が演奏表現をより深めるために歴史や絵画、舞台芸術について知ること、文学部の 学生が数的、科学的思考力を高めること、国際交流学部の学生が専門科目を学ぶ前提として涵養や社会、法律 の知識を身につけるなど、学びの基礎を固めるだけでなく、みなさんの可能性を広げるという機能があります。

専門科目の学びが深化するにつれ、理論や研究手法の必要性を強く感じることになります。

「知識の修得」に加え、応用可能な「手法の獲得」にも重点を置いたカリキュラムです。

基礎教養科目

大学生にとって必要とされる基本的な知識、教養を学ぶ科目群です。

本学の教育に通底する「キリスト教の基礎」と、「社会で生きていくためのチカラ (リテラシー*)」で構成しています。

※リテラシー (Literacy) とは、本来読み書きの能力を指す言葉ですが、自立した個人に必要な、自ら考え 意思決定するための様々な素養を意味するチカラとしても使われています。

カリキュラムの趣旨と構成

群	テーマ	到達目標
キリスト教の基礎	キリスト教の本質を理解する	・宗教の役割を自分の言葉で説明できる・現代の私たちの価値観や思想のルーツを理解できる・国際的な問題、歴史、文学、芸術の背景として捉えることができる
思考リテラシー	論理的に思考する	・科学的な視点と態度で人間の行動を理解できる ・人に伝えるための基本的な技法が身につく
コミュニケーション・ リテラシー	伝える・表現する・読み解く	・読解力、本質をとらえる力がつく ・情報を収集し、まとめ、総合的に活用できる
社会リテラシー	ニュースの背景まで理解する	・市民として、消費者として、生活者として判断する力がつく・政策や経済の動きを、暮らしと結びつけて考えられる・社会における自らの役割や責任を果たせる・保障された権利を知っている
文化リテラシー	深く洞察し、豊かに鑑賞する	・作品の背景にある歴史や社会、思想、宗教を理解して批評できる・好き嫌いや生来の感性だけによらず、創造的な見方ができる・作品を通して語られるメッセージを読み取れる
科学リテラシー	量る・測る・計る …そして発見する	・責任ある市民として、科学技術が社会や生活に与える影響 を理解し、批判的にとらえることができる ・科学的根拠に基づいて情報の真贋を見極め、選択できる ・知識を統合・活用・再構成してアウトプットできる
身体リテラシー	身体への理解を深める	・家族や社会、次世代という視点から、健康やスポーツといった自分の身体の周辺にある問題について考えられる ・身体を動かすことによって得られる解放感、快適さ、楽し さなどポジティブな効果を感じられる

58 2017学生要覧

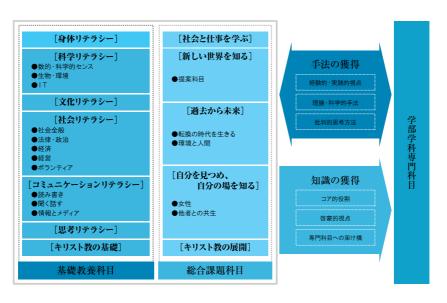
総合課題科目

教育理念「For Others」に根ざしながら、現代的な課題に取り組む基盤をつくります。まずは「女性」「他者」「環境」「変化」というテーマを通して今、世界で起きている問題を自分に引き寄せます。そして、その問題の背景を分析し、どう向き合うのかを自分で判断し、具体的に行動する力を身につけます。

カリキュラムの趣旨と構成

群	到達目標
キリスト教の展開	・宗教が人や社会に与えている影響を理解できる・常識やものの見方の根底にある思想や違いを認識できる
自分を見つめ、 自分の場を知る	・「For Others」を自分の行動や判断の基盤にできる ・女性に関わる制度や権利、法律を、自分の生き方に活用できる ・個人や企業が社会に貢献する意義や方法を提示できる
社会と仕事を学ぶ	・チームで課題に取り組み、これを計画的に進められる・多様な人たちと協力して目標を達成できる・論理的、効果的なコミュニケーションができる
過去から未来	・政治や経済、社会構造の変化を捉え、この変化を身近な問題にひきつけて考えられる・人間活動と環境との関わりに自分の意見をもてる
新しい世界を知る	・社会の変化に適応し、前に踏み出す力がつく ・学び方、研究手法を修得し、ほかの課題に応用できる

基礎教養・総合課題科目カリキュラムマップ



60 2017学生要覧

特色ある科目と目的

自校教育科目「フェリス女学院大学で学ぶということ」

学習活動の基盤となるフェリスの歴史と存在意義、「For Others」の現代的解釈などを扱います。CLA コア科目運営委員長がコーディネイターとなり、卒業生や教職員を含む様々な観点からの講義を展開します。

学生提案科目「私たちが学びたいこと」

学生からの提案をもとに、教員との協働で作る科目です。応募されたテーマ、内容に基づき、CLAコア 科目運営委員会で審査し、大学が決定します。審査結果は掲示により審査委員長からの講評がフィードバッ クされます。応募要領は次のとおりです。

対 象	2018年度 前期 1科目	
講義題目・担当者 採用されたテーマをもとに、大学が決定		
条 件 一人の教員が担当する授業形態であること。 講義科目 (2単位) であること。		
提出期限	2017年11月10日 (金)	
提出書類	提案書(所定の用紙を FerrisPassport からダウンロードすること)	
提出先	教務課	

教職員提案科目「新たな学びの世界を広げる」

既存のカリキュラムにないテーマを教職員から募集し、CLAコア科目運営委員会で審査の上、採択されたテーマに基づき開講する科目です。社会の急激な変化に適応することや、ぜひ学んでほしい内容をタイムリーに提供し、新しいものの見方、取り組み方を修得してもらうことを目的としています。

キャリアに関する学び

社会と仕事を学ぶ

「キャリア形成の理解」から「キャリア系の知識を深める」、「社会人基礎力の修得と実践」の3段階で理解を進めます。

グループワークやプロジェクト学習を通して、社会で求められる力を修得します。



キャリア実習 (短期・長期 インターンシップ)

社会人基礎力の修得と実践

- ・グループワークを通じて、課題解決に必要な知識 と手法を身につける
- ・時間や資源という制約がある中で目的を達成する 活動に取り組める

キャリア系の知識を深める

- ・産業構造や労働形態の変化を理解できる
- ・市場経済のしくみを説明できる
- ・会計情報などの根拠に基づき、企業分析ができる
- ・新しい事業をつくり出す着眼点や方法論を知る

キャリア形成の理解

- ・キャリア開発を取り巻く社会環境を理解できる
- ・将来に向けた目標設定ができる
- ・社会で必要な主体性、コミュニケーション力、チームワークがどのようなものか自覚できる

キャリア実習

- ・大学での学びの意味と組織や社会で求められるコ ミュニケーション力や自己管理力、チャレンジす る力と結び付けて考えられる
- ・自分の課題を発見し、行動につなげることができる

本学のキャリア教育は、いわゆる正課科目(単位が付与される授業科目)のほか、正課外での充実した 講座、サポートプログラムから構成されています。これを包括的に「キャリアに関する学び」と捉え、授 業科目と就職課が主催する就職支援講座、セミナー、ガイダンス、内定者報告会、実践講座などを組み合 わせ、大学のリソースを最大限に活用してください。

キャリアに関する	正 課	総合課題科目 社会と仕事を学ぶ 学部・学科専門科目	キャリア形成の理解 キャリア系の知識を深める 社会人基礎力の修得と実践 キャリア実習 (短期・長期インターンシップ) 実習、演習科目などのほか 産業構造、労働環境を扱う講義科目等
る学び	正課外	就職講座 キャリア形成サポートプログラム 就職支援	就職ガイダンス 低学年対象キャリア講座 内定者報告会 実践講座

1年次 2年次 3年次 4年次

62

卒業に必要な単位数

所属する各学科の「卒業に必要な単位数」を参照してください。

英語英米文学科・・・・・ p.103 日本語日本文学科・・・・・ p.115 コミュニケーション学科・・・・ p.125 国際交流学科・・・・・ p.140 音楽芸術学科・・・・ p.158 演奏学科・・・・・ p.167

キリスト教関連科目【3年時編入学者のみ】

3年時編入学者が「キリスト教 II」「キリスト教 II」「キリスト教III」「キリスト教IV」に代えて履修可能な「キリスト教」関連科目は次のとおりです。

2017年度開講「キリスト教」関連科目

科目種別	科目名
文学部各学科専門科目	キリスト教と文学
英語英米文学科/英文学科専門科目	キリスト教と英米文学1
国際交流学科専門科目	世界の宗教
音楽学部各学科専門科目	キリスト教音楽概論 1
音楽芸術学科専門科目	賛美歌学

科目の詳細は別冊「開講科目表」、シラバスで確認してください。

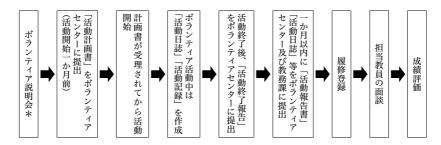
特別な手続きが必要な科目

1.「キリスト教Ⅲ(1)」

夏期集中講義期間中に福祉施設で実習を行う科目です。履修希望者は、前期履修登録期間中に開催される説明会及び選考に出席してください。日程の詳細は FerrisPassport の掲示を確認してください。

2. 「ボランティア活動1」「ボランティア活動2」「ボランティア活動3」

学外でのボランティア活動の実働時間に応じて、卒業に必要な単位として認定される科目です。それぞれ 45時間以上、90時間以上、270時間以上が各科目の基準です。これらの3科目は複数または重複して履修 できます。履修希望者は、シラバスを参照の上、ボランティアセンターが開催するボランティア説明会* (4・5・7・10月) に出席し、「履修の手引き」にしたがって履修手続きをしてください。なお、卒業年 次生が卒業学期に履修登録できるのは、各科目の基準時間を超えている場合に限ります。



3. 「キャリア実習(短期インターンシップ)」「キャリア実習(長期インターンシップ)」

人財育成専門の教員による事前・事後指導等、充実したサポート体制の下インターンシップに参加する 科目です。履修希望者は、就職課主催の説明会(春季:10月、夏季:5月)に出席し、募集要項にしたがって申し込み手続きをしてください。

4. 「音楽実技1A, 1B, 2A, 2B」: 履修者数制限科目

音楽学部を有する総合大学であるフェリスのメリットを活かし、全学部生が通常の時間割の中で実技レッスンを受けられる科目です。レッスンは原則としてグループ形式で行われ、特別な音楽経験がなくても履修可能です。声楽、ピアノ、弦楽器(隔年開講)、管楽器(隔年開講)、オルガンから選択可能です。履修希望者は、前期、後期初めの履修者数制限科目希望受付期間に FerrisPassport で申し込み手続きをしてください。

英語科目・初習外国語科目カリキュラムマップ

語学科目

カリキュラムの説明

学科ごとの詳しい説明は『語学ハンドブック』を必ず確認してください。

1. 趣旨·目的

共通科目と専門科目に大別される本学のカリキュラムの中で、語学科目は共通科目に属します。 現代人にとって必要な言語コミュニケーションの能力だけでなく、専門科目の学習にあたって必要となる基礎的な語学力を習得し、さらにその言語を使用する国々の文化を理解することを目的としています。

2. 語学科目群

本学で開講する科目群は次のとおり構成されています。

革語

初習外国語:フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語

教養外国語:古典ギリシア語、ラテン語、イタリア語

日本語 :日本語

3. 科目の種類

(1) 英語

インテンシブ科目(i 科目)	英語インテンシブ・コースの学生のみが履修できる科目です。英語プレイスメント・テストの結果に基づき $A \sim J$ の習熟度別に履修クラスが指定されます。 (クラス定員18名)
スタンダード科目(s科目)	英語インテンシブ・コース以外の学生が履修する科目です。入学時に実施する アンケート及び英語プレイスメント・テストの結果に基づき習熟度別に履修ク ラスが指定されます。
選択科目(e 科目)	全学生が自由に履修できる科目です。全て初回授業時選抜科目で、履修優先順位はシラバス及び FerrisPassport の掲示にて発表されます。

(2) 初習外国語

「I(入門)」科目	前期のみ開講する入門科目です。各言語の特徴、文化的背景、発音及び文法の 基礎、会話の初歩などを学びます。
インテンシブ科目(i 科目)	主に初習外国語インテンシブ・コースの学生が履修する科目です。
スタンダード科目(s 科目)	初習外国語インテンシブ・コース以外の学生が履修する科目です。
演奏学科優先科目	ドイツ語科目には演奏学科優先科目があります。

(3) 教養外国語

全学生が自由に履修できる科目です。ただし、イタリア語には音楽学部演奏学科を対象としている 科目があります。(開講科目表参照)

(4) 日本語

全学生が自由に履修できる科目です。

履修方法

1. 1年次前期「I | 科目の履修

(1) 英語 (「英語 Is (読む・書く)」、「英語 Is (聞く・話す)」) 入学時の英語習熟度 (学習歴、留学経験、資格など) に基づき、履修するクラスが指定されます。

(2) 初習外国語 (「〇〇語 I (入門)」)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語から2言語を履修します。それぞれ学科ごと にクラス指定がありますので、FerrisPassport の掲示を確認し、初回の授業に必ず出席してください。 履修希望者が多い場合はクラス内で選抜を行うことがあります。

なお、音楽学部生については pp.84~91を参照してください。

2. 履修登録方法

(1) 英語

インテンシブ科目(i 科目)及びスタンダード科目(s 科目)は大学が履修登録を行います。履修登録期間中に、指定された科目が登録されていることを各自 FerrisPassport で必ず確認してください。 なお、指定クラスは1年次7月及び3月、2年次3月に発表されます。

また、e 科目は各自が FerrisPassport で登録する科目です。初回授業時の選抜で履修を許可された場合は、必ず期間中に自分で登録してください。

(2) 初習外国語

全て各自が FerrisPassport で登録すること。自分が指定されたクラスを FerrisPassport の掲示及び 学生要覧で確認の上、間違いのないよう登録してください。なお、指定されたクラス以外で履修する ことは原則として認められません。やむを得ない理由によりクラス変更を希望する場合は、学期始め の履修相談で各語学責任者 (p.200参照) に相談の上、指示を受けてください。

3. 語学コース・言語の選択

所属する学部・学科により、卒業に必要な語学科目の単位数及び選択できる語学履修コース・言語の種類が異なります。(pp.74~91参照)

なお、外国人留学生の語学科目履修方法については pp.94~96を参照してください。

また、履修コース及び言語の種類を選択する際には、『語学ハンドブック』を必ず確認してください。 語学責任者または所属学科の教務委員 (p.200参照) に相談することもできます。

(1) 2017年度入学者の「語学履修コース・言語選択届」提出

各学生の履修コース・言語は、「語学履修コース・言語選択届」に基づき決定されます。「語学履修コース・言語選択届」提出後コース開始前の履修コース・言語の変更は認められません。

【スケジュール】

対象者	期 間	提出先
1年次生全員	2017年5月31日 (水) ~6月2日 (金)	言語センター

(2) 履修許可

英語インテンシブ・コース及び初習外国語インテンシブ・コースについては、希望者が定員を超えた場合は選抜を行い、履修許可者を決定します。

① 英語インテンシブ・コース

希望者が多い場合は、英語プレイスメント・テストの結果に基づき選抜し、履修許可者(定員180名:文学部・音楽学部116名、国際交流学部64名)を決定します。履修が許可された後は、安易な変更は認められませんので注意してください。

② 初習外国語インテンシブ・コース

当該言語の「I (入門)」を履修していることが前提となります。希望者が多い場合は次のとおり選抜し、履修許可者を決定します。履修が許可された後は、安易な変更は認められませんので注意してください。

	方 法	第1希望の段階で25名を超えた場合、選抜を行う。 第1希望の段階で選抜のあった場合、第2・第3希望者が許可されることはない。また、第2希望 の段階で選抜があった場合、第3希望者が許可されることはない。
	条 件 「I (入門)」の出席、成績等。 遅延及び未提出等、手続きに不備があった者は選抜から外れる。	
許可取消 「I (入門)」の成績評価により、履修許可を取り消される場合がある。		「I (入門)」の成績評価により、履修許可を取り消される場合がある。

(3) 英語プレイスメント・テスト

英語プレイスメント・テストは、英語インテンシブ科目及び英語スタンダード科目の習熟度別クラス編成及び理解度・達成度を確認するために実施されます。

① 受験対象者

学年	学期	対象者
	前期	語学履修コースの第1希望〜第3希望のいずれかにおいて英語科目の履修を希望する全学生
1年次生	後期	英語インテンシブ・コース履修者、次年度以降新たに英語インテンシブ科目または英語スタ ンダード科目の履修を希望する学生
2年次生	後期	英語インテンシブ・コース履修者、次年度以降新たに英語インテンシブ科目または英語スタンダード科目の履修を希望する学生

② 実施日程

		日利	₽
第1回](前期)	2017年6月12日 (月)	~18日 (日)
第2回] (後期)	2018年1月26日(金)	~31日(水)

68

(4) 語学履修コース・言語の変更

語学履修コース・言語の変更を希望する場合には、「語学履修コース・言語変更願」の提出により変 更が認められます。年次により提出時期が異なりますので注意してください。

【提出できる期間】

期間	年次	変更対象	変更適用時期	提出先
2017年4月 5日 (水)	2~4年次生	英語インテンシブ・コースから英語 スタンダード・コースへの変更のみ	2017年度前期から	履修相談会場
2017年4月17日 (月) ~4月21日 (金)	4年次生	全てのコース・言語	2017年度前期から	教務課
2017年6月26日 (月) ~6月30日 (金)	2・3年次生	全てのコース・言語	2017年度後期から	· 子文介元录
2017年9月19日(火)	2~4年次生	英語インテンシブ・コースから英語 スタンダード・コースへの変更のみ	2017年度後期から	履修相談会場
2017年10月2日 (月) ~10月6日 (金)	4年次生	全てのコース・言語	2017年度後期から	料· 浆油
2018年1月 5日 (金) ~1月15日 (月)	1~3年次生	全てのコース・言語	2018年度前期から	教務課

インテンシブ・コースに関わる変更については次のとおり注意が必要です。

英語インテンシブ・コースに関わる変更

① 他コースから英語インテンシブ・コースへの変更

定員に欠員が生じた場合のみ、英語プレイスメント・テストの結果に基づき審査の上、可否を決定します。欠員の有無については英語責任者 (p.200) に問い合わせてください。

② 英語インテンシブ・コースから他コースへの変更

英語インテンシブ・コースから他コースへの変更については、英語責任者 (p.200) へ相談の後、許可された場合のみ「語学履修コース・言語変更願」を提出できます。

初習外国語インテンシブ・コースに関わる変更

初習外国語インテンシブ・コースに関わる変更を希望する場合は、「語学履修コース・言語変更願」を提出する前に、必ず当該言語の語学責任者(p.200)と十分相談してください。なお、初習外国語インテンシブ・コースから他のコースへの変更については、当該言語の語学責任者(p.200)へ相談の後、許可された場合のみ「語学履修コース・言語変更願」を提出できます。

4. インテンシブ・コース

(1) 英語インテンシブ・コースの修了

英語インテンシブ・コースを修了するには、下記の表のとおり必修相当として定められた科目を所定の時期に全て修得する必要があります(※)。再履修によるコースの修了は認められません。

※2015年度以降入学者は、交換留学及び認定留学、セメスター・アブロードにより修得した単位が、本学における英語科目の単位として認定された場合、留学により未履修となった英語インテンシブ科目に代えて、英語インテンシブ・コースの修了要件とすることが認められます。

また、英語インテンシブ科目の履修にあたっては、2年次後期までの計3回(1年次6月・1月及び2年 次1月)英語プレイスメント・テストを受験することが必須条件となります。英語インテンシブ・コース履修者のうち、プレイスメント・テストを受験しなかった者については、原則として次学期以降の英語インテンシブ科目の履修を認めません。

インテンシブ・コース修了者として認定されるために、必修相当として修得すべき科目は、次のとおりです。

英語インテンシブ・コース修了者として認定されるために必要な科目

授業科目名	履修方法
初習外国語「○○語 I (入門)」 初習外国語「△△語 I (入門)」 初習外国語「○○語 II s (決法)」 初習外国語「○○語 II s (読む)」 初習外国語「○○語 II s (比1)」	この中から2単位修得 ※外国人留学生は、「留学生日本語」2単位修得で充当可
英語 I s (読む・書く) 英語 I s (聞く・話す)	すべて修得
英語 II i (Reading) 英語 II i (Writing) 英語 II i (Listening) 英語 II i (Speaking) 英語 II i (LanguageDevelopment) 英語 II i (講読)	すべて修得
英語Ⅲ i(Reading) 英語Ⅲ i(Writing) 英語Ⅲ i(Listening) 英語Ⅲ i(Speaking) 英語Ⅲ i(LanguageDevelopment)	すべて修得
英語Vi(Reading) 英語Vi(Writing) 英語Vi(Listening) 英語Vi(Speaking) 英語Vi(講読)	すべて修得
英語 V i(Reading) 英語 V i(Speaking)	すべて修得 ※音楽学部学生は、英語 e 科目2単位修得で充当可

(2) 初習外国語インテンシブ・コースの修了

初習外国語インテンシブ・コースを修了するには、次の表のとおり必修相当として定められた科目を全て本学で修得する必要があります。

なお、再履修によるコース修了も認められます。再履修方法については「5.再履修」を参照してください。

初習外国語インテンシブ・コース修了者として認定されるために必要な科目

例:フランス語インテンシブ・コースの場合

授業科目名	履修方法
英語 I s (読む・書く) 英語 I s (聞く・話す)	すべて修得 ※外国人留学生は、「留学生日本語」2単位修得で充当可
フランス語 I (人門) ドイツ語 I (人門) スペイン語 I (人門) 中国語 I (入門) 朝鮮語 I (入門)	この中から2単位修得
フランス語Ⅱ i (文法) フランス語Ⅱ i (読む1) フランス語Ⅱ i (読む2) フランス語Ⅱ i (LL)	すべて修得
フランス語Ⅲ i (文法) フランス語Ⅲ i (読む) フランス語Ⅲ i (話す) フランス語Ⅲ i (書く) フランス語Ⅲ i (LL)	すべて修得
フランス語IV i (読む1) フランス語IV i (読む2) フランス語IV i (話む) フランス語IV i (話す) フランス語IV i (LL)	この中から4単位修得
フランス語 V i (読む) フランス語 V i (話す) フランス語 V i (書く) フランス語 V i (LL)	この中から1単位修得
フランス語VI i (読む) フランス語VI i (話す) フランス語VI i (書く) フランス語VI i (LL)	この中から1単位修得

(3) インテンシブ・コースの成績証明書及び修了証

英語インテンシブ・コース及び初習外国語インテンシブ・コース履修者のうち、「必修相当として定められた語学科目を全て本学で履修し、単位を修得した者」について、下記のとおり成績証明書に「インテンシブ・コース修了者」である旨記載しています。

また、英語教育運営委員会及び初習外国語教育運営委員会から「修了証」が発行されます。

	英語インテンシブ・コース	初習外国語インテンシブ・コース
記載される内容	英語インテンシブ・コース修了	初習外国語インテンシブ・コース修了 (○○語)
成績証明書	3年次前期までの修得状況に基づき判定される。 自動発行機で出力できる成績証明書には、 3年次後期(11月)以降記載される。	3年次後期までの修得状況に基づき判定される。 自動発行機で出力できる成績証明書には、 4年次前期(6月)以降記載される。
修了証	3年次後期以降、言語センターで交付する。 時期の詳細については FerrisPassport で周 知する。	4年次前期以降、言語センターで交付する。 時期の詳細については FerrisPassport で周 知する。

5. 再履修

語学科目の再履修は次の原則に従うこととします。

(1) 英語科目

未修得科目	再履修等により、 卒業要件を充足 できる対応科目	履修方法	留意事項		
	1) 英語スタンダード 科目 (s)	学期始めの掲示を確認し、指 定された期間に再履修クラス の申し込みをしてください。			
①英語インテンシブ 科目(i)	2) 英語 e 科目	各自シラバス及び優先順位表をよく確認したうえで FerrisPassport から履修登録してください。優先順位表については学期始めに FerrisPassport にて発表されます。	英語インテンシブ科目 (i) は 再履修できません。したがって、 修得できなかった場合はコース の修了は認められませんが、左 記の科目の履修により卒業要件 を充足する必要があります。		
	3) 技能審査の合格に よる単位認定	指定された期間に手続きをしてください。(p.183)			
②茶語マカンド ド	1) 英語スタンダード 科目 (s)	上記①-1) 参照			
②英語スタンダード 科目(s)	2) 英語 e 科目	上記①-2)参照			
тін (3)	3) 技能審査の合格に よる単位認定	上記①-3)参照			

(2) 初習外国語科目

未修得科目	再履修等により、 卒業要件を充足 できる対応科目	履修方法	留意事項
	1) 初習外国語インテ ンシブ科目 (i)	クラス指定のある科目につい ては、履修相談時に申し出て ください。	
①初習外国語インテ ンシブ科目 (i)	2) 初習外国語スタン ダード科目 (s)	学期始めの掲示を確認し、所属 する学部・学科の指定クラスで 履修してください。時間割の制 約上やむを得ない理由により他 のクラスで履修する場合は、履 修相談時に申し出てください。 (FerrisPassport の成績照会画 面を出力し、持参すること。)	初習外国語インテンシブ・コースの修了を希望する場合は、初習外国語インテンシブ科目 (i) で再履修する必要があります。
	3) 技能審査の合格に よる単位認定	指定された期間に手続きをして ください。(p.183)	
②初習外国語スタン	1) 初習外国語スタン ダード科目(s)	上記①-2)参照	
ダード科目 (s)	2) 技能審査の合格に よる単位認定	上記①-3)参照	

初習外国語の再履修については、上位科目での履修をもって代えることが認められます。科目に付されたローマ数字の対応は次のとおりとします。

未修得科目	再履修科目	備考
I	I , II	Ⅲ~Ⅵ科目による再履修も可
II	I 、II	III VI作日による円版修も可
III	III、IV	V、VI科目による再履修も可
IV	III、IV	V、VI科目による円腹修も円
V	V 、VI	
VI	V、VI	

例えば、「 Π 」科目を修得できなかった場合、「 Π 」または「 Π 」科目だけでなく、「 Π 」または「 Π 」科目での再履修により、卒業要件を充足することも可能です。

同様に、「III」科目を修得できなかった場合、「III」または「IV」科目だけでなく「V」または「VI」科目での再履修も可能です。一方下位科目での履修は認められませんので、「III」科目を「I」または「II」科目で再履修し、卒業要件を充足することはできません。

語学検定試験受験料補助

語学検定試験の受験をサポートすることを目的に、受験料の一部を補助する「語学検定試験受験料補助制度」があります。希望者は下記の要件を確認し、指定の期間に手続きを行ってください。

対象者	本学に在籍中の学部生(交換・私費留学生含む) ※対象外:科目等履修生、大学院生、同志社女子交流学生、オープンカレッジ生
補助金額	受験料1万円未満の場合:1,000円 受験料1万円以上、2万円未満の場合:2,000円 受験料2万円以上の場合:3,000円 (同一年度に1人2回まで申請可。合否に関わらず、申請できます。)
人 数	150名(予定) ※定員に達し次第、受付終了
対象とする検定	2017年1月〜2017年12月に受験した検定試験 ※対象は別表参照 ※言語センター受付の団体割引で申し込んだ検定も補助対象に含まれます。
提出書類	①補助申請書 ②受験したことが確認できるスコア等の写し ③振込口座届(通帳等の写し貼付) ④学生証(本人確認のため)
受付期間	第1回:2017年7月10日(月)~ 14日(金) 第2回:2017年10月9日(月)~ 13日(金) 第3回:2018年 1 月15日(月)~ 19日(金) ※振込は、受付期間の翌月末 (8月末・11月末・2月末)の予定です。
受付場所	言語センター(7号館3階)(開室時間9:00~17:00)
問い合わせ先	教務課

〈補助対象となる検定試験〉

英語	実用英語技能検定(英検)、TOEIC、TOEIC S&W、TOEFL-iBT、IELTS、国際連合公用語英語検定試験(国連英検)、観光英語検定 ※ TOEIC-IP, TOEFL-ITP は対象外
フランス語	実用フランス語技能検定試験(仏検)、DELF・DALF・TCF (フランス国民教育省 フランス語資格試験)、TEF (パリ商工会議所 フランス語能力認定試験)
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (独検)、ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験
スペイン語	スペイン語技能検定(西検)、DELE(スペイン文部省認定 スペイン語能力試験)
中国語	中国語検定試験(中検)、HSK (漢語水平考試)、実用中国語技能検定試験、TECC (中国語コミュニケーション能力検定)
朝鮮語	「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験(TOPIK)
イタリア語	実用イタリア語検定試験 (伊検)
日本語	日本語能力試験(JLPT)、実用日本語検定(J.TEST) ※日本語教育能力検定試験、日本語検定は対象外

各学部・学科の語学科目履修方法

外国人留学生の語学科目履修方法については、p.94~ p.96を参照してください。

文学部英語英米文学科/英文学科

(1) 英語インテンシブ・コース

	履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要		卒業要件に算入で	
	腹形言苗	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限	
萝	語	2	6	5	5	2				20	22	22	
袳	1 習 外 国 語	2								2 22		32	

標準履修科目

言語	1年次	前期		1年次後期	2年次前期	2年次後期			
	【英語スタン	ダード科	·目】	【英語インテンシブ科	【英語インテンシブ科目	【英語インテンシブ科目】			
	英語 Is(読む・書く)	[s (読む・書く) [1] 英語II i (Reading) [[1]	英語III i (Reading)	[1]	英語IV i (Reading)	[1]	
英	英語 Is (聞く・話す)		[1]	英語II i (Writing)	[1]	英語Ⅲ i (Writing)	[1]	英語IV i (Writing)	[1]
				英語II i (Listening)	[1]	英語Ⅲ i (Listening)	[1]	英語IV i (Listening)	[1]
語			英語II i (Speaking)	[1]	英語III i (Speaking)	[1]	英語IV i (Speaking)	[1]	
				英語II i (Language Development) [1]		英語III i (Language Development) [1]		英語IV i (講読)	[1]
				英語Ⅱ i (講読)	[1]				
初	【初習外国語 I	(入門)	科目】						
初習外国語	○○語Ⅰ (入門)		[1]						
語	△△語Ⅰ (入門)		[1]						

言語	3年次前期	
英	【英語インテンシブ和	排目】
	英語V i (Reading)	[1]
語	英語V i (Speaking)	[1]
初習外国語		

卒業に必要な単位数

英語科目により 20単位 初習外国語のⅠ,Ⅱが付された科目により 2単位

74 2017学生要覧

(2) 2か国語履修コース

E	夏修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要		卒業要件に算入で	
И	夏沙古市	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限	
英	語	2	2	2	2					10			
英語	語 e 科目			4		•				12 20		32	
初	習外国語	2	2	2	2					8			

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱ s (読む・書く) [1] 英語Ⅱ s (聞く・話す) [1]		【英語スタンダード科目】 英語V s (続む・書く) [1] 英語V s (聞く・話す) [1]	
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語II s (文法) ○○語II s (読む) ○○語II s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲ s (文法) ○○語Ⅲ s (読む) ○○語Ⅲ s (話す) ○○語Ⅲ s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 ○○蓋W s (読む) ○○蓋W s (話す) ○○蓋W s (LL)	

網掛け は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により 12単位 初習外国語のⅠ, Ⅱが付された科目により 4単位 初習外国語のⅢ, IVが付された科目により 4単位

※トル / 網掛け追加

文学部日本語日本文学科/日本文学科、コミュニケーション学科

(1) 英語インテンシブ・コース

	履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要		卒業要件に算入で	
,	投形 昌 iii	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限	
英	語	2	6	5	5	2				20	22	32	
初	習外国語	2								2	22	32	

標準履修科目

言語	1年次	前期	1年次後期		2年次前期	II.	2年次後期		
	【英語スタング	ダード科目】	【英語インテンシフ	ブ科目】	【英語インテンシ	ブ科目】	【英語インテンシブ科目】		
	英語 Is(読む・書く)	[1	英語II i (Reading)	[1]	英語III i (Reading)	[1]	英語IV i (Reading)	[1]	
英	英語 Is (聞く・話す)	[1	英語II i (Writing)	[1]	英語III i (Writing)	[1]	英語IV i (Writing)	[1]	
			英語II i (Listening)	[1]	英語III i (Listening)	[1]	英語IV i (Listening)	[1]	
語			英語II i (Speaking)	[1]	英語III i (Speaking)	[1]	英語IV i (Speaking)	[1]	
			英語II i (Language Develo	pment) [1]	英語Ⅲ i (Language Development) [1		英語IV i (講読)	[1]	
			英語Ⅱ i (講読)	[1]					
初	【初習外国語 I	(入門)科目							
初習外国語	○○語I (入門)	[1							
語	△△語Ⅰ(入門)	[1							

言語	3年次前期	
英	【英語インテンシブ科	目】
語	英語V i (Reading) 英語V i (Speaking)	[1] [1]
初習外国語		

卒業に必要な単位数

英語科目により

20単位

初習外国語のⅠ, Ⅱが付された科目により 2単位

76 2017学生要覧

(2) 初習外国語インテンシブ・コース

ſ	园 /女	屋收号部		1年次		2年次		3年次		4年次		こ必要	卒業要件に算入で	
	履修言語		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限	
	英	語	2								2	22	32	
	初習外国語		2	6	6	4	1	1			20	22	32	

標準履修科目

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前其	Я	2年次往	
英語	【英語スタンダード和 英語 I s (読む・書く) 英語 I s (聞く・話す)	目] [1] [1]						
初習外国語	【初習外国語 I (入門) ○○語 I (入門) △△語 I (入門)		【初習外国語インテンシ ○○語Ⅱi(文法) ○○語Ⅱi(読む1) ○○語Ⅱi(読む2)	ブ科目】 [3] [1] [1] [1]	【初習外国語インテンジ ○○語Ⅲ i (文法) ○○語Ⅲ i (読む) ○○語Ⅲ i (話す) ○○語Ⅲ i (書く) ○○語Ⅲ i (LL)		【初習外国語インラ ○○語IV i (読む1) ○○語IV i (読む2) ○○語IV i (話す) ○○語IV i (書く) ○○語IV i (比)	この中から 4単位以上 を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Vi(読む) ○○語Vi(話す) ○○語Vi(話す) ○○語Vi(書く) ○○語Vi(ILI)	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語VI (続む) ○○語VI (話す) ○○語VI (話す) ○○語VI (LL) ○○語VI (LL)

網掛け は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により		2単位
初習外国語の I,	Ⅱが付された科目により	8単位
初習外国語のⅢ,	IVが付された科目により	10単位
初習外国語のV,	VIが付された科目により	2単位

(3) 英語スタンダード・コース

屋板	尼收号环		1年次		2年次		3年次		4年次		こ必要	卒業要件に算入で	
履修言語		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限	
英	語	2	2	2	2					8	10	10 32	
初習外国語		2								2	10	32	

標準履修科目

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期	
英	【英語スタンダード科目]	【英語スタンダード科	目】	【英語スタンダード科	目】	【英語スタンダード科	排目】
語	英語 I s (読む・書く) 英語 I s (聞く・話す)	[1] [1]	英語II s (読む・書く) 英語II s (聞く・話す)	[1] [1]	英語Ⅲ s (読む・書く) 英語Ⅲ s (聞く・話す)		英語IV s (読む・書く) 英語IV s (聞く・話す)	[1] [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 和 ○○語 I (入門) △△語 I (入門)	月 [1] [1]						

卒業に必要な単位数

英語科目により 8単位 初習外国語のⅠ,Ⅱが付された科目により 2単位

(4) 初習外国語スタンダード・コース

屍 佐	履修言語		次	2年次		3年次		4年次		卒業1	こ必要	卒業要件に算入で	
/復1/多	古苗	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限	
英	語	2								2		32	
初習夕	初習外国語		2	2	2					8	10	32	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]				※トル 網掛け追加
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (八門) [1] △△語 I (八門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語II s (文法) ○○語II s (読む) ○○語II s (LL) ・ ※得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs(文法) ○○語Ⅲs(読む) ○○語Ⅲs(話す)	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語V s (続む) ○○語V s (話す) ○○語V s (LL)	THE TO SEAR

網掛け は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により 2単位 初習外国語の I , II が付された科目により 4単位 初習外国語のⅢ, IVが付された科目により 4単位

78

(5) 2か国語履修コース

尼佐	屋收号訊		1年次		2年次		3年次		4年次		-ス必修	卒業要件に算入で	
履修言語		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	単位数		きる単位数の上限	
英	語	2	2	2	2					8	16 (*)	32	
初習外国語		2	2	2	2					8	10 (*)	32	

*:卒業に必要な単位数10を含む

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期		
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱ s (読む・書く) [1] 英語Ⅱ s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs (読む・書く) [1] 英語Ⅲs (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語IV s (読む・書く) [1] 英語IV s (聞く・話す) [1]		
初習外国語	〇〇語 [(入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語II s (文法) ○○語II s (読む) ○○語II s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs(文法) ○○語Ⅲs(読む) ○○語Ⅲs(話す) ○○語Ⅲs(LL)	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語IV s (読む) ○○語IV s (話す) ○○語IV s (LL)		

※トル 網掛け追加

網掛け は重複履修可能

卒業に必要な単位数

(3) 英語スタンダード・コース (p.78) 又は (4) 初習外国語スタンダード・コース (p.78) のいずれかの履修方法により修得すること。

J- J- J- J-	英語科目により		8単位
すなわち	初習外国語の I ,	Ⅱが付された科目により	2単位
	英語科目により		2単位
または、	初習外国語の I ,	Ⅱが付された科目により	4単位
	初習外国語のⅢ,	IVが付された科目により	4単位

国際交流学部の語学科目履修方法

(1) 英語インテンシブ・コース

	履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要		卒業要件に算入で	
,	投形 昌 iii	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限	
英	語	2	6	5	5	2				20	22	32	
初	習外国語	2								2	22	32	

標準履修科目

言語	1年次	前期	1年次後期		2年次前期	A	2年次後期	
	【英語スタンタ	ブード科目】	【英語インテンシブ	「科目】	【英語インテンシ	ブ科目】	【英語インテンシブ科目】	
	英語 Is(読む・書く)	[1]	英語II i (Reading)	[1]	英語Ⅲ i (Reading)	[1]	英語IV i (Reading)	[1]
英	英語 I s (聞く・話す)	[1]	英語II i (Writing)	[1]	英語III i (Writing)	[1]	英語IV i (Writing)	[1]
1 .			英語II i (Listening)	[1]	英語Ⅲ i (Listening)	[1]	英語IV i (Listening)	[1]
語			英語II i (Speaking)	[1]	英語III i (Speaking)	[1]	英語IV i (Speaking)	[1]
			英語II i (Language Develop	ment) [1]	英語Ⅲ i (Language Develo	opment) [1]	英語IV i (講読)	[1]
			英語Ⅱ i (講読)	[1]				
初	【初習外国語 I	(入門)科目】						
初習外国語	○○語Ⅰ (入門)	[1]						
語	△△語Ⅰ (入門)	[1]						

言語	3年次前期	
英	【英語インテンシブ和	斗目】
語	英語V i (Reading) 英語V i (Speaking)	[1] [1]
初習外国語		

卒業に必要な単位数

英語科目により

20単位

初習外国語のⅠ、Ⅱが付された科目により 2単位

(2) 初習外国語インテンシブ・コース

	履修言語		1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要		卒業要件に算入で
۱			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限
ſ	英	語	2								2	22	32
ľ	初習外国語		2	6	6	4	1	1			20	22	32

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期		
英	【英語スタンダード科目】					
277	英語 I s (読む・書く) [1]					
語	英語 I s (聞く・話す) [1]					
	【初習外国語I(入門)科目】	【初習外国語インテンシブ科目】	【初習外国語インテンシブ科目】	【初習外国語インテンシブ科目】		
初	〇〇語 I (入門) [1]	○○語II i (文法) [3]	○○語Ⅲ i (文法) [2]	○○語IV i (読む1)		
習	△△語Ⅰ (入門) [1]	○○語II i (読む1) [1]	○○語Ⅲ i (読む) [1]	○○語IV i (読む2) この中から		
初習外国語		○○語II i (読む2) [1]	○○語Ⅲ i (話す) [1]	○○語IV i (話す) 4単位以上		
語		○○語II i (LL) [1]	○○語Ⅲ i (書く) [1]	○○語IV i (書く) を修得		
			○○語Ⅲ i (LL) [1]	○○語IV i (LL)		

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Vi(読む) ○○語Vi(話す) ○○語Vi(書く) ○○語Vi(書く) ○○語Vi(LL)	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語VI (読む) ○○語VI (話す) ○○語VI (書く) ○○語VI (書く) ○○語VI (LL)

網掛け は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により		2単位
初習外国語の I,	Ⅱが付された科目により	8単位
初習外国語のⅢ,	IVが付された科目により	10単位
初習外国語のV,	VIが付された科目により	2単位

(3) 英語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要		卒業要件に算入で	
腹形言苗	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限	
英 語	2	2	2	2					8	10	32	
初習外国語	2								2	10	32	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期		
英	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】		
語	英語 I s (読む・書く) [1 英語 I s (聞く・話す) [1			英語IV s (読む・書く) [1] 英語IV s (聞く・話す) [1]		
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目 ○○語 I (入門) [1 △△語 I (入門) [1					

卒業に必要な単位数

英語科目により 8単位 初習外国語のⅠ,Ⅱが付された科目により 2単位

(4) 初習外国語スタンダード・コース

履修言語		1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要		卒業要件に算入で
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限
英	語	2								2	10	32
初習外国語		2	2	2	2					8	10	32

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]				※トル 網掛け追加
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語II s (文法) ○○語II s (読む) ○○語II s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs(文法) ○○語Ⅲs(読む) ○○語Ⅲs(話す) ○○語Ⅲs(LL)	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語IV s (読む) ○○語IV s (話す) ○○語IV s (LL)	MIDDA () AEIDH

網掛け は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により 2単位 初習外国語の I , II が付された科目により 4単位 初習外国語のIII , IVが付された科目により 4単位

82

(5) 2か国語履修コース

DE 1/4	言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要		卒業要件に算入で	
/復1/多	古苗	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数		きる単位数の上限	
英	語	2	2	2	2					8	16	32	
初習外国語		2	2	2	2					8	16	32	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱ s (読む・書く) [1] 英語Ⅱ s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs (読む・書く) [1] 英語Ⅲs (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語IV s (読む・書く) [1] 英語IV s (聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語II s (文法) ○○語II s (読む) ○○語II s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲ s (文法) ○○語Ⅲ s (読む) ○○語Ⅲ s (話す) ○○語Ⅲ s (LL)	【初習外国語スタンダード杆目】 ○○語IV s (読む) ○○語IV s (話す) ○○語IV s (LL)

網掛け は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により 8単位 初習外国語のⅠ, Ⅱが付された科目により 4単位 初習外国語のⅢ, Ⅳが付された科目により 4単位 ※トル 網掛け追加

音楽学部の語学科目履修方法

2017年度入学者

【卒業に必要な単位数】

次の $(1)\cdot(2)\cdot(3)$ いずれのコースも、すべての語学科目の中から英語科目2単位を含む8単位を修得すること。

(1) スタンダード・コース

代表的な履修パターンは、次のとおりです。

教養外国語科目、「日本語Ⅰ・Ⅱ」を選択して履修することも可能です。

① 英語のみで履修する場合

尼收	===	1年	次	2年	次	3年	次	4年	次	卒業に必要	卒業要件に算入で
履修言語		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数	きる単位数の上限
英 語		2	2	2	2					8	32

言語	1年次前其	A	1年次後期		2年次前期		2年次後期	
英	【英語スタンダー	ド科目】	【英語スタンダード	科目】	【英語スタンダード	科目】	【英語スタンダー	「科目】
	英語 I s (読む・書く)	[1]	英語Ⅱ s (読む・書く)	[1]	英語Ⅲ s (読む・書く)	[1]	英語IV s (読む・書く)	[1]
語	英語 Is (聞く・話す)	[1]	英語II s (聞く・話す)	[1]	英語Ⅲ s (聞く・話す)	[1]	英語IV s (聞く・話す)	[1]

② 英語と初習外国語を履修する場合

屋	修言語	1年	次	2年	次	3年	次	4年	次	卒業に必要	卒業要件に算入で
NS	沙古品	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数	きる単位数の上限
英	語	2	2							0	32
初音	習外国語			2	2					•	32

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Is(読む・書く) [1] 英語Is(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 II s (読む・書く) [1] 英語 II s (聞く・話す) [1]		
初習外国語			【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語II s (文法) ○○語II s (誌t) ○○語II s (LL) 2単位を修得 [1]

※英語または初習外国語「Ⅲs」以降を引き続いて履修することもできます。 網掛け は重複履修可能

84

③ 英語とイタリア語を履修する場合

	履修言語	1年	次	2年	次	3年	次	4年	次	卒業に必要	卒業要件に算入で	
	復修言苗	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数	きる単位数の上限	
1	英 語	2	2							0	32	
Γ	イタリア語	2	2							0	32	

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】		
語	英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	英語Ⅱ s (読む・書く) [1] 英語Ⅱ s (聞く・話す) [1]		
イタリア語		イタリア語Ⅱ (文法) [1] イタリア語Ⅱ (読む) [1]		

※英語「Ⅲs」以降を引き続き履修することもできます。

網掛け は重複履修可能

④ 英語、イタリア語とドイツ語を履修する場合(演奏学科)

	尼 /女-	= ==	1年	次	2年	次	3年	次	4年	次	卒業に必要	卒業要件に算入で	
	履修言語		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数	きる単位数の上限	
ſ	英 語		2	2									
ſ	イタリ	ア語	2	2							8	32	
ſ	ドイ	ツ語			2	2							

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1]	【英語スタンダード科目】 英語II s (読む・書く) [1]		
語	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 II s (聞く・話す) [1]		
イタリア語	イタリア語 I (文法) [1] イタリア語 I (読む) [1]	イタリア語Ⅱ (文法) [1] イタリア語Ⅱ (読む) [1]		
ドイツ語				ドイツ語II s (文法) [1] ドイツ語II s (読む) [1]

%ドイツ語を1年次に、イタリア語を2年次に履修することもできます。 網掛け は重複履修可能

(2) 英語インテンシブ・コース

DE N	/ = = ==	1年	次	2年	次	3年	次	4年	次	コース	ス必修	卒業要件に算入で	
履修言語		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	単位数		きる単位数の上限	
英	語	2	6	5	5	2(**)				20 22		32	
初習外国語		2								2	(*)	32	

*:卒業に必要な単位数8を含む。

**: 音楽学部の学生は、上記科目のうちVi科目2単位を、3年次前期までの間に英語e科目を2単位修得することにより満たすことができます。

標準履修科目

言語	1年次前	前期	1年次後期		2年次前期	1	2年次後	期
	【英語スタンタ	「一ド科目】	【英語インテンシブ	「科目】	【英語インテンシブ科目】 【英語インテ			/ブ科目】
	英語 I s (読む・書く)	[1]	英語II i (Reading)	[1]	英語III i (Reading)	[1]	英語IV i (Reading)	[1]
英	英語 I s (聞く・話す)	[1]	英語II i (Writing)	[1]	英語III i (Writing)	[1]	英語IV i (Writing)	[1]
1			英語II i (Listening)	[1]	英語III i (Listening)	[1]	英語IV i (Listening)	[1]
語			英語II i (Speaking)	[1]	英語III i (Speaking)	[1]	英語IV i (Speaking)	[1]
			英語II i (Language Develop	ment) [1]	英語III i (Language Develo	pment) [1]	英語IV i (講読)	[1]
			英語Ⅱ i (講読)	[1]				
初	【初習外国語I((入門) 科目】						
初習外国語	○○語Ⅰ (入門)	[1]						
語	△△語Ⅰ (入門)	[1]						

言語	3年次前期	
英	【英語インテンシブ科	目]
	英語V i (Reading)	[1]
語	英語V i (Speaking)	[1]
初習外国語		

(3) 初習外国語インテンシブ・コース

ĺ	履修言語		1年次		2年次		3年	次	4年	次	コース必修		卒業要件に算入で
	復16	古苗	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	単位	立数	きる単位数の上限
ſ	英	語	2								2	22	32
ľ	初習外	国語	2	6	6	4	1	1			20	(*)	32

*:卒業に必要な単位数8を含む。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1]			
語	英語 I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Ⅱ i (文法) [3] ○○語Ⅱ i (読む1) [1] ○○語Ⅱ i (読む2) [1] ○○語Ⅱ i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Ⅲ i (文法) ○○語Ⅲ i (読む) ○○語Ⅲ i (読む) ○○語Ⅲ i (話す) ○○語Ⅲ i (話す) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語IVi (読む1) ○○語IVi (読む2) ○○語IVi (話す) ○○語IVi (書く)
			○○語Ⅲ i (LL) [1]	○○語IV i (LL)

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Vi(読む) ○○語Vi(話す) ○○語Vi(話す) ○○語Vi(書く) ○○語Vi(LL)	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語VI (読む) ○○語VI (話す) ○○語VI (話す) ○○語VI (書く) ○○語VI (LL)

網掛け は重複履修可能

2016年度以前入学者

【卒業に必要な単位数】

次の(1)・(2)・(3) いずれのコースも、すべての語学科目の中から選択した科目により8単位を修得 すること。

(1) スタンダード・コース

代表的な履修パターンは、次のとおりです。 教養外国語科目、「日本語Ⅰ・Ⅱ」を選択して履修することも可能です。

① 英語のみで履修する場合

层收	===	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要	卒業要件に算入で
履修言語		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数	きる単位数の上限
英	語	2	2	2	2					8	32

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	
英	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】	
1	英語 Is (読む・書く) [1]	英語II s (読む・書く) [1]	英語Ⅲ s (読む・書く) [1]	英語IV s (読む・書く) [1]	
語	英語 Is (聞く・話す) [1]	英語 II s (聞く・話す) [1]	英語Ⅲ s (聞く・話す) [1]	英語IV s (聞く・話す) [1]	

② 初習外国語のみで履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要	卒業要件に算入で	
腹形言語	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数	きる単位数の上限	
初習外国語	2	2	2	2					8	32	

言語	1年次	前期		1年次後期	2年次	前期	2年次征	- ※トル 網掛け	
初習外国語	【初習外国語 I ○○語 I (入門) △△語 I (入門)	(入門)科	[1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語II s (文法) ○○語II s (読む) ○○語II s (LL)	【初習外国語スタ ○○語Ⅲ s (文法) ○○語Ⅲ s (読む) ○○語Ⅲ s (話す) ○○語Ⅲ s (LL)	マンダード科目】 この中から 2単位を修得	【初習外国語スタン ○○語IV s (読む) ~ ○○語IV s (話す) ○○語IV s (LL)		M-3 3±1°¥

網掛け は重複履修可能

網掛け追加

③ 英語と初習外国語を履修する場合

履修	= = = =	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要	卒業要件に算入で	
復修	古苗	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数	きる単位数の上限	
英	語	2	2							0	32	
初習外	国語	2	2								32	

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語II s (文法) ○○語II s (読む) ○○語II s (LL)		

※英語又は初習外国語「Ⅲs」以降を引き続いて履修することもできます。 網掛け ■ は重複履修可能

88

④ 英語とイタリア語を履修する場合

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英	【英語スタンダード科目】	【英語スタンダード科目】		
語	英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	英語Ⅱ s (読む・書く) [1] 英語Ⅱ s (聞く・話す) [1]		
イタリア語		イタリア語Ⅱ (文法) [1] イタリア語Ⅱ (読む) [1]		

※「英語Ⅲs(読む・書く)」「英語Ⅲs(聞く・話す)」「英語Ⅳs(読む・書く)」「英語Ⅳs(聞く・話す)」を引き続き履修することもできます。 網掛け ■ は重複履修可能

⑤ イタリア語とドイツ語を履修する場合(演奏学科)

履修言語	1年次		2年次		3年	次	4年	次	卒業に必要	卒業要件に算入で	
腹形言語	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	な単位数	きる単位数の上限	
イタリア語	2	2							0	32	
ドイツ語			2	2					•	32	

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
イタリア語	イタリア語 I (文法) [1] イタリア語 I (読む) [1]	イタリア語Ⅱ (文法) [1] イタリア語Ⅱ (読む) [1]		
ドイツ語				ドイツ語Ⅱ s (文法) [1] ドイツ語Ⅱ s (読む) [1]

※ドイツ語を1年次に、イタリア語を2年次に履修することもできます。

網掛け は重複履修可能

(2) 英語インテンシブ・コース

履修言語		1年	次	2年	次	3年	次	4年	次	コース	ス必修	卒業要件に算入で
//RE/19	多言語	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	単位	立数	きる単位数の上限
英	語	2	6	5	5	2(**)				20	22	32
初習	外国語	2								2	(*)	32

*:卒業に必要な単位数8を含む。

**: 音楽学部の学生は、上記科目のうちVi科目2単位を、3年次前期までの間に英語e科目を2単位修得することにより満たすことができます。

標準履修科目

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期		
	【英語スタン	ダード科	·目】	【英語インテンシブ和	十目】	【英語インテンシフ	「科目】	【英語インテン	シブ科目】
	英語 I s (読む・書く)		[1]	英語II i (Reading)	[1]	英語III i (Reading)	[1]	英語IV i (Reading)	[1]
英	英語 Is (聞く・話す)		[1]	英語II i (Writing)	[1]	英語III i (Writing)	[1]	英語IV i (Writing)	[1]
1				英語II i (Listening)	[1]	英語III i (Listening)	[1]	英語IV i (Listening)	[1]
語				英語II i (Speaking)	[1]	英語III i (Speaking)	[1]	英語IV i (Speaking)	[1]
				英語II i (Language Developm	nent) [1]	英語III i (Language Develop	pment) [1]	英語IV i (講読)	[1]
				英語Ⅱ i (講読)	[1]				
初	【初習外国語 I	(入門)	科目】						
初習外国語	○○語Ⅰ (入門)		[1]						
語	△△語Ⅰ (入門)		[1]						

言語	3年次前期
英	【英語インテンシブ科目】
	英語V i (Reading) [1]
語	英語V i (Speaking) [1]
初習外国語	

90 2017学生要覧

(3) 初習外国語インテンシブ・コース

ĺ	履修言語		1年	次	2年	次	3年	次	4年	次	コース必修		卒業要件に算入で
	復16	古苗	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	単位	立数	きる単位数の上限
	英	語	2								2	22	32
	初習外	国語	2	6	6	4	1	1			20	(*)	32

*:卒業に必要な単位数8を含む。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	
英	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1]				
語	英語 I s (聞く・話す) [1]				
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Ⅱi (文法) [3] ○○語Ⅱi (読む1) [1] ○○語Ⅱi (読む2) [1] ○○語Ⅱi (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Ⅲ i (文法) [2] ○○語Ⅲ i (読む) [1] ○○語Ⅲ i (話す) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Vi (読む1) ○○語Vi (読む2) ○○語Vi (読む2) ○○語Vi (語す) ○○語Vi (書く)	
			○○語Ⅲ i (LL) [1]	○○語IV i (LL)	

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Vi(読む) ○○語Vi(話す) ○○語Vi(話す) ○○語Vi(まく) ○○語Vi(は)	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語VI (読む) ○○語VI (話す) ○○語VI (書く) ○○語VI (書く) ○○語VI (書く)

網掛け は重複履修可能

外国人留学生の履修

履修の進め方

外国人留学生 *1 のカリキュラムは、原則として一般学生のものに準じます。ただし、下記のとおり一部異なる部分があるので注意してください。

*1 ここでは、大学教育を受ける目的をもって入国し、本学1年次に入学した外国人留学生(私費留学生)を 指します。本学が外国の協定校から一定期間受け入れる学生(受入交換留学生)の履修については p.97 を見てください。

日本語科目	外国人留学生の日本語運用能力を高めることを目的とします。修得単位は語学 科目の単位となります。(p.93参照)
日本事情に関する科目	外国人留学生の日本に対する理解を深めることを目的とします。修得単位は 基礎教養科目(2016年度以前入学者)、CLA コア科目(2017年度入学者)の 単位となります。

トル

卒業に必要な単位数

(1) 文学部英語英米文学科/英文学科

科目区分	単位数	備考	参照
日本事情に 関する科目	4	「日本事情 A,B」から4単位	
	10	「留学生日本語」から10単位	*2
語学	語学コースによる: ① 20 ② 12	①英語インテンシブ・コース ②2か国語履修コース	

(2) 文学部日本語日本文学科/日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学部、音楽学部

科目区分	単位数	備考	参照
日本事情に 関する科目	4	「日本事情 A,B」から4単位	
語学	10	「留学生日本語」から10単位	*2

*2 日本語検定試験及び日本語プレイスメント・テストの結果、留学生の日本語能力が非常に高い と留学生科目委員会が認めた場合、必修単位のうち2単位を他の専門科目で読み替えることが できます。該当者には、1年次後期以降の学期末に通知がありますので、手続きを行ってください。

留学生日本語カリキュラム・マップ



日本語科目の履修方法

留学生日本語の履修年次と単位数

科目	1年	次	2年	次	3年	次	4年	■次	卒業に必要な
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	単位数
留学生日本語 I 留学生日本語 II	2	2	2	2	2				10

具体的な履修モデル

	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期
講義題目	レポート作成の基礎	アカデミック・ライティング -文章表現の基礎-	上級作文(テーマ別)	アカデミック・ライティング - 論説文読解・意見文作成 -	時事日本語
神 我咫日	講義と発表の聴解・ ノートテイキング	読解ストラテジー養成	上級会話 (コミュニケーション力養成)	プレゼンテーション	ビジネス日本語
単位数	2	2	2	2	2

上記以外にも、「留学生日本語」では、日本の文化に触れるフィールドワークや日本語能力試験対策を行っています。

日本語以外の語学科目

文学部英語英米文学科/英文学科

①英語インテンシブ・コース(必修20単位)または② 2 か国語履修コース(必修12単位)で英語科目を履修します。

2016年度以降入学者

一般学生に準じて、英語科目を履修します。

英語科目のクラスは、語学履修コースにかかわらず入学時に実施するアンケート及び英語プレイス メント・テストの結果に基づいて指定されます。指定されたクラスの英語科目は、自動で履修登録されます。

→英語プレイスメント・テストについてはp.6

① 英語インテンシブ・コース

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期		
英語	【英語スタンダード科目】 英語Is(読む・書く) [1] 英語Is(聞く・話す) [1]	英語II i (Reading) [1] 英語II i (Reading) [1] 英語II i (Writing) [1] 英語II i (Istening) [1] 英語II i (Speaking) [1] 英語II i (Inguage Perelopment) [1] 英語II i (講説) [1]	英語Ⅲi (Reading) [1] 英語Ⅲi (Reading) [1] 英語Ⅲi (Writing) [1] 英語Ⅲi (Listening) [1] 英語Ⅲi (Speaking) [1] 英語Ⅲi (Language Development) [1]	英語(Vi (Reading) [1] 英語(Vi (Reading) [1] 英語(Vi (Writing) [1] 英語(Vi (Listening) [1] 英語(Vi (Speaking) [1] 英語(Vi (講読) [1]		
言語	3年次前期					
英語	【英語インテンシブ科目】 英語Vi (Reading) [1] 英語Vi (Speaking) [1]					

② 2か国語履修コース

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱ s (読む・書く) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲ s (読む・書く) [1]	【英語スタンダード科目】 英語[V s (読む・書く) [1]	
类 品	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語II s (聞く・話す) [1]	英語Ⅲs (聞く・話す) [1]	英語IV s (聞く・話す) [1]	

上記の他に英語e科目を1年次前期から3年次前期までの間に、4単位追加の選択履修が必要です。

英語インテンシブ・コースの修了要件

英語英米文学科(2016年度以降入学者)の外国人留学生は上記①のとおり、必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した場合、英語インテンシブ・コース修了とします。修了判定は3年次前期までの修得状況に基づいて行われ、自動発行機で出力できる成績証明書には、3年次後期(11月)以降に修了の旨が記載されます。

2015年度以前入学者

2年次以降は、一般学生に準じて「語学履修コース・言語選択届」の提出用必要な手続きを行ってください。

履修時期	履修可能科目	クラス指定方法
1年次前期	英語スタンダード科目	入学前に実施するアンケートに基づき指定されます。
1年次後期	英語スタンダード科目	6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。「語学履修コース・言語選択届」を提出の上、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。
2年次前期	英語スタンダード科目	1年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。英語プレイスメント・テスト未受験の場合は、語学責任者との履修相談に基づき指定されます。
2年次後期	英語スタンダード科目 英語インテンシブ科目	2年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。「語学履修コース・言語選択届」を提出の上、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。

ー英語プレイスメント・テストについてはp.6

① 英語インテンシブ・コース

言語	1年次前期	1年次前期 1年次後期		2年次後期	
英 語			【英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 I (Reading) [1] 英語 II (Reading) [1] 英語 II (Writing) [1] 英語 II (Listening) [1] 英語 II (Speaking) [1] 英語 II (Rapuage Development) [1] 英語 II (講読) [1]	
言語	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期	
英語	【英語インテンシブ科目】 英語Ⅲi (Reading) [1] 英語Ⅲi (Writing) [1] 英語Ⅲi (Listening) [1] 英語Ⅲi (Speaking) [1] 英語Ⅲi (Janguage Development) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語IVi (Reading) [1] 英語IVi (Writing) [1] 英語IVi (Listening) [1] 英語IVi (Speaking) [1] 英語IVi (講義) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語Vi (Reading) [1] 英語Vi (Speaking) [1]		

② 2か国語履修コース

言語			2年次前期	2年次後期	
英 語			【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱ s (読む・書く) [1] 英語Ⅱ s (聞く・話す) [1]	
言語	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期	
英 語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs (読む・書く) [1] 英語Ⅲs (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語IV s(読む・書く) [1] 英語IV s(聞く・話す) [1]			

上記の他に英語e科目を2年次前期から4年次前期までの間に、4単位追加の選択履修が必要。

英語インテンシブ・コースの修了要件

英語英米文学科/英文学科 (2015年度以前入学者) の外国人留学生は上記①のとおり、必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した場合、英語インテンシブ・コース修了とします。修了判定は4年次前期までの修得状況に基づいて行われ、自動発行機で出力できる成績証明書には、4年次後期 (11月) 以降に修了の旨が記載されます。その他の取扱いについては、一般学生と同じとします。

文学部日本語日本文学科/日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学部、音楽学部

日本語以外の語学を履修する場合、一般学生に準じて「語学履修コース・言語選択届」の提出等必要な手続きを行ってください。

1. 英語科目の履修を希望する場合

外国人学生は、次のとおり英語科目を履修することができます。なお、「英語 e 科目」は学年を問わず 履修することができます。

履修時期	履修可能科目	クラス指定方法
1年次前期	英語スタンダード科目	入学前に実施するアンケートに基づき指定されます。
1年次後期	英語スタンダード科目	6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。「語学履修コース・言語選択届」を提出の上、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。
2年次前期	英語スタンダード科目	1年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。英語プレイスメント・テスト未受験の場合は、語学責任者との履修相談に基づき指定されます。
2年次後期	英語スタンダード科目	1年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。英語プレイスメント・テスト未受験の場合は、2年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。「語学閥修コース・言語選択届」を提出の上、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。
	英語インテンシブ科目	2年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。「語学履修コース・言語選択届」を提出の上、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。

→英語プレイスメント・テストについてはp.(

2. 初習外国語の履修を希望する場合

2年次前期以降、初習外国語の履修を希望する場合は、あらかじめ語学責任者に相談してください。

3. 母語の履修

外国人留学生が母語を語学科目の履修言語として選択することは、原則としてできません。特別な事情 により履修を希望する場合には、当該言語の語学責任者、指導教員に申し出て、指示にしたがってください。

専門科目の履修方法

専門科目の履修方法については、すべて一般学生と同一です。不明な点がある場合には学科教務委員に相談してください。3・4年次演習(ゼミ)科目は、あらかじめ『履修が望ましい、あるいは必須の語学科目・コース』を定めている場合があります。

受入交換留学生の履修

受入交換留学生は、原則としてすべての共通科目(CLAコア科目、語学科目) 及び専門科目を履修できます。不明な点は、教務課に問い合わせてください。

(1) GPA 制度及び履修登録科目の取り消し制度 受入交換留学生は、この制度は適用されません。

(2) 履修者数制限科目

通常科目の登録期間より早い時期に設定された受付期間に手続きを行う必要があります。許可された科目の変更及び取り消しはできません。pp.24、29を参照してください。

(3) 語学科目

履修相談で履修する科目・クラスの指定を受けてください。ただし、英語科目は、原則として「英語 e 科目」に限るものとします。

(4) 学科選抜科目

履修を希望する場合は、教務課まで相談に来てください。

(5) 日本語科目(「留学生日本語 I・Ⅱ」)及び日本事情に関する科目(「日本事情 A, B」) 受入交換留学生にも配慮して開講されているので、開講科目表を参照の上、積極的に履修してくだ さい。履修を希望する場合、必ず日本語プレイスメント・テストを受験してください。

日本語科目のクラス編成

日本語プレイスメント・テストの結果に基づいて、習熟度別のクラス編成となります。

日本語プレイスメント・テストは、私費留学生及び受入交換留学生それぞれを対象に受け入れ学期開始前に実施します。

文学部

英語英米文学科/英文学科日本語日本文学科/日本文学科

文学部の人材養成目的

人文科学の領域に関する高度の教育研究を行い、多様化する社会で他者と共生し、主体的 に表現できる豊かな素養を身に付けた人材を養成する。

文学部について

フェリス女学院大学は、メアリー・キダーの私塾の頃から、英語圏の「ことば」と文化についての教育と日本文学の教育に力を入れてきました。これに伝統ある音楽教育を加えれば、フェリスは「表現」や「文化」について追求し、優秀な女性たちを社会に輩出してきたと言うことができると思います。

沿革にもあるように、1950年に短期大学として英文科を設立、65年には四年制大学を開設し文学部において英文学科と国文学科を擁します。88年には文学部に国際文化学科を開設(のちの国際交流学部国際交流学科)、国文学科は93年から日本文学科と名称変更し、99年には英文・日文の両者にまたがる「コミュニケーション科目」を設置して、2004年にはコミュニケーション学科を開設し、伝統的な文学部の中でも常に時代の先端を切り拓いてきました。

そのような変遷をたどりながら文学部は、2014年度から英文学科と日本文学科の名称を変更し、 英語英米文学科、日本語日本文学科、コミュニケーション学科の三学科体制となりました。

文学は、人間の言語による表現行為であるとともに、社会や文化の営為でもあります。想像力を行使し、思考・思想等を表現し、発見をおこなう主体である人間は、社会や文化の影響を受けており、一方で表現=コミュニケートすることで社会や文化を変容させていきます。しかもそれが世界レベルで生じ、入り交じっている現在こそ、人間のいとなみである「文学」行為や表現を学び、研究することは、非常に重要なことであり、そこにこそ文学部の存在意義があるとフェリスは考えます。また、人間の不幸や対立、社会の貧困などについても、文学は深い関心を抱き続け、その対象化作業がこれからも必要なことは言うまでもありません。さらに文学は現在、言語による表現のみならず、広く映像表現や音楽表現、身体表現、デザインなどの形をとるとともに、出版物だけでなく放送や通信などの新しいデジタル・メディアを通じても人びとに伝えられてもいます。

このように、私たちの想像力や文化を活性化し、社会を柔軟性に富んだものにするためにも、いまほど大学において文学部が必要とされている時代はありません。

本学の英語英米文学科は、コミュニケーションの手段としての英語運用能力を養うとともに、イギリス、アメリカなど英語圏の文学や文化、社会のあり方について研究します。

日本語日本文学科は、オーソドックスに、時代区分ごとの分野を網羅し、日本語で書かれた文学や表現、日本の文化を研究するとともに、コミュニケーション手段としての日本語について追究します。

コミュニケーション学科は、共生コミュニケーション、多文化社会、メディアと表現などの切り 口から、多様化する現代社会と人間関係を社会科学的・文化学的にとらえる力をつけます。

また、三学科共通するものとして、1年次の「R&R (入門ゼミ)」や、最新の文学理論・文化理論を学べる科目群も揃っています。

いずれも、その分野で一流の研究者や実務家である専任教員や非常勤の先生方が、講義をしたり 討論をうながしたり、研究のヒント、また人生のヒントを与えてくれたりします。授業は概して少 人数で行われ、ワークで進行するもの、教室の外へ出るものも少なくありません。学生のみなさんが、 このようにめぐまれた条件の下で学び、社会へ旅立ってくれることを願っています。

英語英米文学科/英文学科



◆人材養成目的

英米および英語圏の言語・文学・文化などを多角的な視点で学び、それらの知的遺産を引き継ぎ、また海 外での学びを通して語学力を身に付け、さらに情報を収集、整理、分析できる実務能力を備えた、国際社会 に貢献する有為な人材を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、英語英米文学科の人材養成目的を踏まえた以下の知識・能力を身に付けた者に「学士(文学)」の学位を授与する。

- (1) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する専門的知識を主体的な学習・研究を通じて修得している。また上記領域を中心とする幅広い人文・社会系の教養が身に付いている。
- (2) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏における研究・就業および長期の生活に必要な英語運用能力が身に付いている。また、日本の社会において主導的・指導的な役割をはたすのに必要な日本語運用能力が身に付いている。
- (3) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想の専門的理解に基づく多角的な視点および幅広い視野・思考をもって、国際社会・地域社会に生ずる様々な課題を発見し、その解決に貢献することができる。
- (4) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する諸問題に ついて自らの視点で考え、それを他者に伝える能力(言語運用能力を含む)、および他者と共同でおこ なう作業・活動に必要な人間性・社会性が身に付いている。
- (5) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏のものを中心に、多様な文化・価値観に対する専門的な理解が身に付いている。また、国際社会・地域社会において他者と協働・共生する能力が身に付いている。
- (6) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する学習・研 究経験をもとに、新たな人文・社会系の価値を見出すことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

英語英米文学科では、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げた知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

- (1) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する高度な知識の修得のため「英語圏の文化と社会」、「英語圏の文学と芸術」、「英語学」の各科目群を設け、系統的な学修ができるよう講義・演習科目を配置する。これらは、(a)少人数クラスによる演習科目、(b)各専門領域の基礎知識を修得するための科目、(c)各領域の専門科目、(d)分野を横断する複合領域的な科目、から構成されており、カリキュラムマップが示すようにこれらを段階的に履修することにより、英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する幅広い知識を得ながら、徐々に専門性を深めていくことができる。その他、幅広い教養を身に付けるために全学共通の教養教育を選択必修として課し、また自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。
- (2) 全学共通の英語および初習外国語 (フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・朝鮮語) 科目20単 位以上の必修により、専門分野の学修および英語圏における研究・就業・生活に必要な英語運用能力 を身に付ける。外国語閥修は2コース (英語インテンシブ、2か国語履修) から選択できる。外国語科

目に加えて専門科目にも配置された英語運用能力を発展させるための科目の履修を通じて、また海外 語学研修科目・プログラムにより、英語圏における情報収集・発信能力を養う。

- (3) 1年から4年まですべての年次において少人数による演習科目(ゼミ)を設置することにより、イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する調査・研究に必要な知識および課題発見・解決能力を養う。その成果を示すものとして卒業論文を必修とする。
- (4) 少人数クラスの講義・演習科目(英語によるものも含む)を設置し、イギリス・アメリカをはじめと する英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想を扱いながら、研究・就業・生活など社会の様々 な場面で求められる言語(英語)コミュニケーション能力を養う。
- (5) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する学習・研究を通じて、多様な文化・価値観をもつ他者に対する専門的な理解を養う。また英語圏における就学や英語のみでおこなわれる授業内の諸活動など、英語による学習および情報収集発信の経験を通じて、国際社会・地域社会において他者と積極的に関わり、協働・共生する能力を養う。
- (6) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する主体的かつ多角的な学習・研究を実現すべく多種多様な講義・演習科目を設置し、現代・過去の社会を批判的に比較検証する力、および新たな人文・社会系の価値を見出す力を養う。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

102

卒業に必要な単位数

2017年度入学者

	科目区分	単位	Z数		備考	参照
	CLA コア科目	キリスト教科目		4	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」、 「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位、	*1
共	OLN J/AH	4			キリスト教科目以外から4単位、合計8単位以上	
通	語学	語学履修コースによる: ① 22 ② 20			①英語インテンシブ・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者	*2
		選択必修 I	2)	「R&R(入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3
		選択必修Ⅱ-A	12	合計 44単位	Ⅱ 群 - Aから12単位以上	
車	選択必修	選択必修Ⅱ-B	6		Ⅱ 群 - Bから6単位以上]
1		選択必修Ⅲ	20		Ⅲ群から20単位以上	
門		選択必修Ⅳ	4)	専門ゼミA, B、卒論ゼミA, Bを各1単位、合計4単位	
	選択					
	卒業論文	6				
		語学履修コー		こよる:		*4
	その他	1 2	44 46			
	A 51					
L	合 計	12	4			

2015~2016年度入学者

;	科目区分	単位	立数		備考	参照
	基礎教養	2			「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
共	総合課題		2		「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位	*1
通	語 学	語学履修コースによる: ① 22 ② 20		こよる:	①英語インテンシブ・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者	*2
		選択必修I	2	1	「R&R(入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3
		選択必修Ⅱ - A	12		Ⅱ 群 - Aから12単位以上	
車	選択必修	選択必修Ⅱ-B	6	合計 44単位	Ⅱ 群 - Bから6単位以上	
		選択必修Ⅲ	20	11-12	Ⅲ群から20単位以上	
門		選択必修Ⅳ	4	J	専門ゼミA, B、卒論ゼミA, Bを各1単位、合計4単位	
	選択					
	卒業論文	6				
その他		語学履修コースによる: ① 48 ② 50		こよる:		*4
	合 計	12	24			

2014年度以前入学者

;	科目区	分	È	単位数		備考	参照
	基礎教養		2			「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
共	総合	課題		2		「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位	*1
通	語	学	語学履修:	コースI D 22 D 20	こよる:	①英語インテンシブ・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者	*2
			選択必修Ⅰ	2	1	「R&R(入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3
	選択必修	.N. M	選択必修Ⅱ	12	合計	Ⅱ群から12単位以上	
専		選択必修Ⅲ	14	32単位	Ⅲ群から14単位以上		
門			選択必修Ⅳ	4	J	専門ゼミA, B、卒論ゼミA, Bを各1単位、合計4単位	
	選	択					
	卒業	論文	6				
	その	他	語学履修コースによる: ① 60 ② 62				*4
٠.	合 計		124				

2017年度入学者

「キリスト教 I」2単位、「キリスト教 II~IV」から2単位、キリスト教科目以外から4単位、計8単位が必修です。 *1 FERRIS *実践教養探求課程の修了に必要な単位は p.55を見てください。

2016年度以前入学者

「キリスト教 I」2単位、「キリスト教 II~IV」から2単位、計4単位が必修です。

*2

語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の履修方法は、pp.74~75英語英米文学科/英文学科の「語学科目の履修」を見てください。

2015年度以降入学者

選択必修 I 群から2単位、選択必修 II -A 群から12単位以上、選択必修 II -B 群から6単位以上、選択必修 Ⅲ群から20単位以上、選択必修IV群から4単位、合計44単位以上を修得してください。

2014年度以前入学者

*3

選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ群から12単位以上、選択必修Ⅲ群から14単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計32単位以上を修得してください。

次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。

- ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(語学科目の上限:*2のとおり)
- *4 ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目
 - ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目
 - ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:8単位まで)

2012年度以降入学者

1年次〜4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。

外国人留学生は、前頁の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.92を参照してください。

- ① 「日本事情 A、B | から4単位
- ②「留学生日本語」10単位
- ③英語科目12単位 (2か国語履修コース) または20単位 (英語インテンシブ・コース)

^{*3}年次編入学者の卒業に必要な単位数は pp.134~135を参照してください。

カリキュラムの説明

英語英米文学科では、イギリスとアメリカなど英語圏について、また英語という言語そのものについて、 あらゆることがらを学ぶことができます。

専門科目各部門 (カリキュラム・マップを参照してください)

英語英米文学科の専門科目は、以下の七部門に分かれています。

- (1) みずから調査・研究をする力を養う科目(少人数クラスによる演習)
- (2) イギリス・アメリカなど英語圏の政治、歴史、思想、宗教に関する科目
- (3) イギリス・アメリカなど英語圏の文学、視覚芸術、映画に関する科目
- (4) 英語の歴史や構造を扱う英語学系の科目
- (5) 高度な英語運用能力および深い思考を養う科目
- (6) (イギリス・アメリカ・英語の枠をこえる) 文学・文化理論に関する科目
- (7) イギリス・アメリカ・カナダでおこなわれる現地実習科目
- (1) の演習科目は、各学年に設置されています。1年前期の演習科目は「R&R (入門ゼミ)」(必修)です。 ("R&R"とは "Research & Report"の略です。)この科目で、大学における学習・調査・研究の基礎――学術資料の探しかた、発表資料(レジュメ)の作りかた、小論文(いわゆる「レポート」)や論文の書きかた、など――を学びます。また、1-2年次には、この「R&R」担当教員が「アカデミック・アドバイザー」(AA)として、みなさんの相談を受け、必要なアドバイスをします。

1年後期の演習科目は「英米文化基礎ゼミ」(必修)、2年前期の演習科目は「英米文化発展ゼミ」です。 それぞれ、関心のあるクラスをみずから選び、各専門分野の調査・研究の基礎を学びます。

3年次の演習科目は「英米文化専門ゼミ」(必修)です。1-2年次の演習科目よりもさらに少人数のクラス(ゼミ)に分かれ、担当教員の指導を受けながら、各自特に関心のある分野・テーマについての調査・研究をおこないます。4年次の演習科目は「英米文化卒論ゼミ」(必修)です。3年次のゼミから継続して研究してきた成果を「卒業論文」(必修)にまとめる作業をします。

- (2) (4) 各領域については、特に1-2年次にさまざまな科目を履修して関心を広げるともに、少しずつ自分の専門とする分野・テーマを選んでいってください。(5) については、「英語インテンシブ」あるいは「2 か国語履修」という共通語学コースの各科目に加えて履修することにより、さらに高度な英語運用能力を修得してください。(6) は文学部三学科共通の科目です。関心にしたがって自由に履修できます。
- (7) は、休暇期間中に実施される科目で、イギリス・アメリカの社会・文化に直接ふれることを目的とする「Field Study」と、イギリス・アメリカ・カナダで短期語学研修をおこなう「Summer Abroad」、「Spring Abroad」があります。本学の「認定・交換留学」制度による留学や、英語英米文学科2-3年次生を対象とするニュージーランドへの留学プログラム「セメスター・アプロード」への準備などとして、ぜひ履修してください。

4年間の履修の指針 (「卒業に必要な単位数」表および開講科目表を参照してください)

前ページ(1)演習科目を除く講義等の科目は選択必修科目です。

2015年度以降入学者

「選択必修 II-A」の「イギリス研究入門」、「アメリカ研究入門」、「英語学研究入門」のなかから12単位が必修です。各専門分野の基礎を扱う科目ですので、1-2年次に履修してください。(3-4年次でも履修でき、卒業単位に含まれますので、必修12単位修得後も各自の関心にしたがって履修をつづけてください。)

「選択必修 II-B」の各科目は3-4年次対象の高度な英語科目です。3科目(6単位)を必ず履修してください。 語学科目の英語インテンシブ・コースは3年前期で、2か国語履修コースは2年後期で、修了します。それ 以降の英語力維持・発展のために、これらの科目を活用してください。

「選択必修 III」の各科目は1年次または2年次から4年次まで履修できる講義科目で、そのなかから20単位が必修です。

2014年度以前入学者

2015年度から、選択必修Ⅲ群に「専門講読」を、選択必修Ⅲ群には3-4年次対象の高度な英語科目を新設しました。語学履修コース修了後の英語力発展・維持のために履修してください。なお、選択必修各群に定められた必修単位数は従来どおりです。

2015年度以降入学者、2014年度以前入学者共通

開講科目表およびカリキュラム・マップを参照し、各自の関心にそって履修を進めてください。(卒業単位に含まれますので、必修単位修得後も各自の関心にしたがって履修をつづけてください。)

「選択必修 II-A」(「選択必修 II」)の「研究入門」および「選択必修 III」各科目の履修においては、特定の分野・テーマにかたよらない履修を推奨します。フェリスの英語英米文学科(2013年度入学者までは英文学科)で学び、社会・世界に出ていく者としてふさわしい、広く深い学識を身につけることを心がけてください。

106 2017学生要覧

卒業論文 英米文化卒論ゼミ A 英米文化卒論ゼミ B カリキュラムマップ (2015年度以降入学者) 1 英米文化専門ゼミA 英米文化専門ゼミB 英米文化専門講読6 英米文化専門講読7 1 1 アメリカの政治と社会2 現代アメリカ論2 オーストラリアの社会と文化2 イギリスの政治と社会2 英米文化特論5 現代イギリス論 アメリカの政治と社会1 現代アメリカ論1 オーストラリアの社会と文化1 カナダの社会と文化 英米文化発展ゼミ イギリスの政治と社会1 アメリカの思想と宗教 英米文化特論4 英米文化特論6 イギリス史3 1 1 1 英語英米文学科/英文学科 アメリカ研究入門2 アメリカ央2 英米文化基礎ゼミ イギリスの思想・宗教 イギリス史2 R&R (入門ゼミ) アメリカ研究入門1 イギリスの文化 アメリカの文化 イギリス史1 アメリカ史1 イギリス・アメリカなど 英語圏の政治、歴史、思想、宗教に関する社会科学的な学識を修得する。 * ユゾン みずから調査・研究をす る力を養う。 (2) 英語圏 の文化と社会

(1) 演習科目

英米文化専門講読2	英米文化専門講読5	英米文化専門講読4	英米文化専門講読3	英米文化専門講読1	英米文化専門講說9	英米文化専門講読8
1	1	1	1	†	1	†
			イギリス伝承文学4		アメリカ演劇1 アメリカ演劇2	英語圏の映画と映像2 英語圏の映画と映像4
イギリス詩3	イギリス演劇3	→ イギリス小説3	イギリス伝承文学3	英米芸術史 イギリスの文化と芸術2	英米文化特論1 英米文化特論2 英米文化特論3	英語圏の映画と映像1 英語圏の映画と映像3
1	1	1	1	1	1	†
イギリス文学史1(詩) イギリス詩2 ィギリっ 本学中3(庫)	イギックスナズ(駅) イギリス演劇2	4キリスス字史3(小副 イギリス小説2	イギリス伝承文学2		アメリカ文学史 アメリカ詩2 アメリカ小説2	
イギリス研究入門2 イギリス詩1 ィギリス語1	イギリス演劇 1	イギリス研究人口4イギリス小説 1	イギリス研究入門3 イギリス伝承文学1	イギリス研究入門1 イギリス文化史 イギリスの文化と芸術1	アメリカ研究入門4 アメリカ詩1 アメリカ小説1	アメリカ研究入門3
(3) 英語圏の文学と芸術 イギリス・アメリカなど	英語圏の文学、視覚芸術、映画に関する人文系の学舗を体縄する。	· 6 . 6 . 6 . 6 . 6 . 6 . 6 . 6 . 6 . 6				

キリスト数と英米文学1 キリスト数と英米文学2

英語と社会・文化1 英語と社会・文化2 英米文化専門課録10 English Inquatics I English Inquatics 2 英米文化専門課録11 English Ingwasen English Ingustrics 2 英米文化専門課録11 英語学特論1 英語学特論2		カルキュラルスケチーズA おかキュラルフティーズB 市事と実施でないA 古事と実施などEB テラスト生成と批評 A テラスト生成と批評 B ポピュンーカルチャーA ポピュラーカルチャーB 所の文化と文グの文化A 即の文化と文グの文化 B ジュケーフェニム系MA ジンゲーフェニルスポリ リロ歌文学論 A 知歌文学論 B	
英米文化胡門講戲10 英米文化胡門講戲11	Academic Writing 1 Academic Writing 2 Global Issues 2 Global Issues 2 Bothol Issues 2 Bothol Issues 2 Bothol Issues 2 Literature and culture 1 Literature and culture 1 Literature and culture 2		して こ ま ず ず
英語と社会・文化2 English Linguistics 2 英語学特論 2	翻形技法之 通界技法之 国時過票技法之 Wrting Workshop 2 English for Children 2	カルチュラルステチィーズB 古典と表象文化 B テスト とは北非 B ポピュラーカルチャー B 期の文化と文学の文化 B ガンゲーフェニム大浦下B 児童グープエニム大浦下B	Summer Abroad (UK) Field Study 1 Spring Abroad Spring Abroad (おり) 重要な ためい 重要な ためい 重要な ためい 重要な ためい 関連 を持が 想定するレベル (離易度) です。1:導入、2:基礎、3:発展、4:卒業論文等を表しています。 壁積が 想定するレベル (離易度) です。1:導入、2:基礎、3:発展、4:卒業論文等を表しています。
英語と社会・文化1 English Linguistics 1 Insglad Equesion 自由数 英語学特飾 1	翻形技法1 通影技法1 间序通影技法1 Writing Workshop 1 English for Children 1	カルチュラルスタディーズム 古典と変象文化 A テタスト生成と 計画 ポピュラーカルテャー A 声の文化と文字の文化 A タング・フェニム大部列 児童文学論 A キリスト 教と文字	:基礎、3:発展、4
英語学研究入門2 英語学2 英語の歴史2 英語の発音2	英語集中セミナー2 framishing all belieg 4 Academic Skills 2		Field Study 1 Field Study 2 です。1:導入、2 表のとおりです。
英語学研究人門1 英語学1 日英語の発想と表現 英語の歴史1 英語の発音1	英語集中セミナー 1 Now to Isengan Padag Academic Skills 1		Summer Abroad UKO Field Study 1 (学品を大・大リカの大・学品を大・大・リー Spring Abroad UKO Field Study 2 Spring Abroad は Spring Abroad は Spring Abroad は まま
英語学 英語の歴史や構造に関す る専門的な学識を修得す る。	English Skills / Advanced English 高度な英語運用能力及び 級い風毒力を修得する。	文学・文化理論 イギリス・アメリカ・英 高の枠をこえる人文派・ 社会系の調査・研究に責 する文学・文化理論を学 ぶ。	現地集習 Summer Abn Art イギリア・アメリカの大 サにおける語学研修や、 Spring Abn 大のでい 社会的に関する人が発展しまり、実語を分が発展しまり、実語を得するより深い学識を修得する。 ビベルキ 学科が想定するレベル (順度を終すする)
49	(9)	9	8

英語英米文学科/英文学科 カリキュラムマップ (2014年度以前入学者)

_		卒樂齡文										
	4	英米文化卒論ゼミA 英米文化卒論ゼミB										
		†										
(1) 漢語科目 R&R (人門ゼミ)	3	英米文化專門ゼミ A 英米文化專門ゼミ B		英米文化専門講読6 英米文化専門講読7 *アメリカの思想・宗教B			英米文化専門講読2	英米文化専門講読5	英米文化専門講読4	英米文化専門講読3	英米文化専門講読 1	英米文化專門講読9
(3) 漢語科目 R&R (人間せき) 英米文化基礎せき ★ 英米文化発展せる ・ 女子リスを語み解く * 本語の支援を認る * 本年リス党を認る解く * 本語の支援を認る * 本年リス党を認る解く * 本語の支援を認る * 本年リスの盟・ ** 株 → (ギリスの盟・ ** 株 → (ギリスの国・ ** * * * * * * * * * * * * * * * * *		1		1			1	†	1	1		1
(1) 演習科目 R&R (入門セミ) 英米文化基礎セミ 英米文化基礎セミ マギリスセム イギリスセ語 イギリスの変化 イギリスの変化 イギリスの変化 イギリスの変化 イギリスの変化 イギリスの変化 イギリスの変化 イギリス酸酸 アメリカ酸 アメリカ酸酸 アメリカ酸 アメリカ酸 アメリカ酸 アメリカ酸 アメリカ酸 アメリカ酸 アメリカ酸 カリカ酸 カリカカ酸 カリカカカ酸 カリカカ酸 カリカカ	2	*アメリカを読み解く * イギリスを読み解く * 英語の実像を探る * 英語文献を読み解く	現代イギリス論 イギリスの政治と社会 B * イギリスの思想・宗教 B	アメリカの政治と社会 B アメリカの 思想・宗教 現代 アメリカ 3輪2 *アメリカン・スクディーズ	オーストラリア地域文化研究B	英米文化特論6				イギリス伝承文学4	英語圏の文学と芸術B	英米文化特論3 英語圈文学 B * 英米文学特論 B アメリカ演劇の世界 B
(1) 演習科目 R&R (人門セミ) 英米文化基礎セミ (1) 演習科目 R&R (人門セミ) 英米文化基礎セミ (4 **) 大と社会 (4 **) 大とは無 (4 **) 大とは難 (4 **) 大とは難 (4 **) 大とは難 (4 **) 大とは難 (4 **) 大とは (4 **) 大きのと (4 **) 大きを (4			イギリス史3 イギリスの政治と社会A *イギリスの思想・宗教A	アメリカの政治と社会A * アメリカ史 現代アメリカ論 * 現代アメリカ論	オーストラリア地域文化研究 A カナダの政治と社会	英米文化特論4 英米文化特論5	イギリス詩3	イギリス演劇3	イギリス小説3			英米文化特論2 * 英語圏文学 A * 英米文学特論 A アメリカ演劇の世界 A
(1) 演習科目 R&R (入門セミ) 英米文化基礎セミ (1) 演習科目 R&R (入門セミ) 英米文化基礎セミ イギリスと社会 イギリス化議権限人 ・イギリスの原理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	_		-				1	-				_
(1) 演習科目 R&R (人門セミ) (2) 英語圏の イギリスセル A 文化と社会 イギリスを確認人門2 アメリカ研究人門1 アメリカ研究人門2 アメリカ規究人門2 アメリカ規究人門2 マメリス規念人門2 イギリス解別人門4 イギリス解別人門4 イギリス解別人門4 イギリス解別人間4 イギリス解別人間4 イギリス解別人間4 イギリス解別人間4 イギリス解別人間4 イギリス解別人間4 イギリス解別人間4 イギリス解別人間4 イギリス研究人間5 イギリスが取る人間4 イギリスが取る人間4 イギリスが取る人間4 イギリスが取る人間4 イギリスが取る人間4 イギリスが取る人間4 イギリスが取る人間4 イギリスが取る人間4 アメリカ解別人間4 アメリカ肺の世界人 アメリカが影響を表現る アメリカが影響を表現る アメリカが影響を表現る アメリカが影響を表現る アメリカ小線を膝は1		英米文化基礎ゼミ	イギリス史 B イギリスの思想・宗巻 * イギリス文化論総説	* アメリカ研究入門 アメリカの文化 アメリカ史2 * アメリカの文化 B			イギリス文学史1(詩) イギリス詩2 * イギリス詩8	イギリス文学史2(題) イギリス演劇2 * イギリス強働の事界 1	イギリス文学史3(小説) イギリス小説2 *イギリス小説を読む E * イギリス文学史 B	* 英語文化研究入門 フォークロアの世界 B	* イギリス研究入門 英語圏の文学と芸術A	アメリカ文学史 アメリカ詩2 アメリカ計の世界 B アメリカ小説2 アメリカ小説を続き B
(1)		R&R (ሊሥせミ)	イギリス史 A イギリス文化輸総説 A	アメリカ研究入門1 アメリカ研究入門2 アメリカ史1 *アメリカの文化A			イギリス研究入門2 イギリス誌1 *イギリス詩の世界 A	イギリス研究入門5イギリス演劇1・イギリス演劇1	イギリス研究入門4 イギリス研究入門4 イギリス小説 *イギリス小説を読むA *イギリス小説を読むA	イギリス研究入門3 フォークロアの世界A	イギリス研究入門1 イギリス文化史	アメリカ研究入門4 アメリカ齢1 アメリカ齢の世界 A アメリカ小説1 アメリカ小説を読む A
2 €	* 1.	演習科目	英語圏の 文化と社会				英語圏の 文学と芸術					
	Ϋ́ Δ	Ê	(2)				(3)					

110 2017学生要覧

	英米文化専門開設 10	英語語集中をミナー2 翻訳技法A A MBR技法 B Academic Writing 1 Academic Writing 2 Academic Skills 2 阿野瀬副野技法A 同野海副野技法 B Clobal Issues 2 Clobal Issues 3 Clobal Issues 3 Clobal Issues 4 Clobal Issues 5 Clobal Issues 5 Clobal Issues 6 Clobal Issues 6 Clobal Issues 7 Clobal Issues 6 Clobal Issues 6 Clobal Issues 7 Clobal Issues 8 Clobal Issues 7 Clobal Issues 8 Clobal Issues 8 Clobal Issues 8 Clobal Issues 9 Cloba		(7) 現地実習 イギリス現地実習 フィールド・スタディ1
英 米	* * *	Acade Globs Globs Busines Busines Literati		
w 44 01	英語と社会・文化2 英語学物論2 English Linguistics 2 ・英語のとまざまな開語B・英語のしくみを知るB	棚形技技法 B 一	カルキュラルスティーズ目 市場 と表彰など化 B テクスト生成と批評 B ポピュラーカルチャー B ポピュラーカルチャー B ジェッチーフェミュル語 B 児童文学論 B	
	英語と社会・文化 英語と社会・文化2 英語学特論2 English Linguistics I English Linguistics I Thogtad Eurosconing(s) ・英語のさぎまな順品 ・英語のさまざまな順面 ・英語のしくみを知る 3 ・英語のしくみを知る 1	制形技法 A 国研技法 A 同時調評技法 A Writing Workshop 1 English for Kids A "Academic Writing A "Ciobal Issues A "Tearing Jance Laguaga A	カルキュラルスラディーズA 古典と変象な代え テクスト生成と批評A ポピュラーカルチャーA オピュラーカルチャーA フェンゲーフネミムな指数 ソロ酸文学館 A キリスト校と文学	
	英語学母先人門。 英語学2 英語の展史 B	英語ないできますー2 Academic Skills 2 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	(6) 文学・	フィールド・スタディ1
アメリカ研究入門3** 英米文学研究入門		(5) English Millighter 3 7—1 Skills / Keen liengendlandig Advanced Academic Skills 1 English Internet English A The English Internet English A 10 1944 Skillshiff of A Tens Specil English Papan	文学部とキャリア	イギリス現地実習
	(4) 沖韶学	(5) English Skills / Skills / English	(6) 大学· 文化理論	(7) 現地実習

レベル* 学科が想定するレベル (雕易度)です。1:導入、2:基礎、3:発展、4:卒業論文等を表しています。履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

*…2014年度以前開講科目

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.25~31) 及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目(CLA コア科目/基礎教養・総合課題、語学)の履修 pp.54~75を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履 修してください。

2. 専門科目の履修

カリキュラムマップ、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して 履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

- (1)「R&R (入門ゼミ)」: 1年次前期に履修
 - ① 選考:クラスは学科が決定します。
 - ② 再履修:「R&R (入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「英米文化基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R (入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員 (p.200) の指示を受けてください。
- (2)「英米文化基礎ゼミ」: 1年次後期に履修
 - ① 選考:クラスは、学生の希望に基づき、定員等にあわせて学科が決定します。
 - ② 再履修:「英米文化基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。
- (3)「英米文化発展ゼミ」: 2年次前期に履修【2014年度以降入学生】 クラスは、学生の希望に基づき、定員等にあわせて学科が決定します。
- (4)「英米文化専門ゼミ」: 3年次に履修
 - ① 選考:所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・ 選抜がおこなわれますので、掲示および学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。
 - ② 再履修:「英米文化専門ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「英米文化卒論ゼミ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

【履修条件】「R&R(入門ゼミ)」または「英米文化基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであること

- (5)「英米文化卒論ゼミ」: 4年次に履修
 - ① 所属ゼミは原則として3年次の「英米文化専門ゼミ」と同一担当者のものとし、その担当者のもとで卒業論文指導を受けることとします。
 - ② 再履修:「卒論ゼミ A」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「卒論ゼミ B」を重複して履修し、 「卒論ゼミ A」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。
- (6) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学、セメスター・アブロード及び国内交流により、規定された履修年次・学期に 上記ゼミを履修することができない学生については、「英米文化専門ゼミ」「英米文化卒論ゼミ」を並 行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。なお、派遣・ 交換留学の学期には卒業できません。

(7)「卒業論文」

卒業論文は、4年次に提出することとします。提出方法等については pp.40~41を参照してください。

日本語日本文学科/日本文学科



◆人材養成目的

日本語・日本文学・日本文化に関する学びを通して、調査・研究・創作に関する能力を身に付け、ことば と表現に関する豊かな感性と知性を育み、歴史性・社会性を伴う幅広い視点をもち、社会に貢献する有為な 人材を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、日本語日本文学科の人材養成目的を踏まえた以下の知識・能力を身に付けた者に「学士(文学)」の学位を授与する。

- (1) 日本語・日本文学・日本文化の領域に関する専門的知識、すなわち各分野の資料論と方法論を十分に 修得し、それに基づいて実践的に研究する力がある。また日本語日本文学を中心とする人文系の分野 について幅広い教養がある。
- (2) 外国語については、日本文化を伝え外国文化を理解するに充分な程度の運用能力を身に付け、日本語 については、古典から近現代のあらゆる文献の読解能力をもち、単語選択の文体的差異を理解し、適 切な日本語文章作成能力が身に付いている。
- (3) 日本語日本文学分野において自ら発見した問題点に関し、先行する研究を網羅的に把握し、主要なものについては学術的に論理的に批判し、よりよい調査結果・解釈を記述し研究発表会や卒業論文という形で公に問うことができる。
- (4) 他者に意図が理解されるような分かりやすい資料作りと、口頭発表およびその質疑応答が充分にできる。すなわち文書においても口頭においても洗練された日本語で自己表現できるコミュニケーション能力が身に付いている。
- (5) 日本語日本文学研究において、一つの対象・方法に固執せず、様々な研究方法・着眼点から人間社会の現象の多様性を観察し、理解して、個々の立場の尊重と所属社会内でのバランスを考えることができる。
- (6) 日本語・日本文学の領域に関するオーソドックスな学問体系を理解した上で、新しい研究の動向を学び、対象を最新の文学、言語、文化理論によって再解釈し、文化事象の新たな捉え方の可能性を示すことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

日本語日本文学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた知識・技能などを 修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

(1) 科目体制は日本語学・日本文学を柱として体系的に構成されている。日本語学は、日本語学と日本語教育学に、日本文学は上代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近現代文学に専門・細分化される。その授業科目は、(a) 少人数の演習形式の科目、(b) 専門を学んでいくための基礎力を養成する科目、(c) 各専門分野の学問体系に沿った科目、(d) 分野を横断した学習や実習によって視野を広げる科目、から構成されており、これらを、カリキュラムマップが示すように段階的に履修することにより、日本語日本文学に関する幅広い知識を得ながら、徐々に専門性を深めていくことができる。特に(b)として1,2年次に必修単位を設け、(c) に各分野の研究法を据えることで主体的・実践的な研究力を養成する。その他、幅広い教養を身に付けるために全学共通の教養教育を選択必修として課し、また自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。

- (2) 日本の言語文化を多角的に捉えて世界に発信し、また日本語教育の現場で貢献できるよう、基本的な 外国語運用能力を身に付けさせる。英語、中国語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、朝鮮語のい ずれかの言語を中心に履修するスタンダード・コースとインテンシブ・コースがあり、英語と初習外 国語を均等に学ぶ2か国語履修コースも選択できる。また日本語表現能力向上のため、専門科目で1年 次後期に論文作成方法の実践的授業を開講し、クラス指定で履修させる。
- (3) 1年から4年のすべての学期にゼミを配置し、日本語日本文学分野特有の調査・研究を進めるための実践的な基礎力を修得させる。専門分野の知識、理解を基にした課題発見と調査報告を繰り返すことにより、一般的・客観的な議論の能力を身に付ける。
- (4) 毎学期のゼミは少人数クラスの演習形式で、口頭発表と質疑応答に充分な時間をかける。他者に理解されるような資料作りと口頭説明を心掛け、自己表現を洗練していくことでコミュニケーション能力が磨かれるようにしている。
- (5) 様々な時代とジャンルからなる日本語・日本文学の研究対象と研究のスタンスとが、個別に排他的に存在するのではなく、周辺領域たる別分野との有機的連関を意識してこそ成果が上がることを科目体制やゼミ履修方法などから認識させる。
- (6) 日本語・日本文学の領域に関するオーソドックスな学問体系を理解した上で、ジャンル・分野ごとの 各論履修に進み、専門の教員から新しい研究の動向を学ぶ。低学年から古典などの資料性について段 階的に修得させ、先入観なく一次資料に臨めるよう養成する。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

卒業に必要な単位数

2017年度入学者

;	科目区分	単位	数		備考	参照
	014 = 7510	キリスト教科目		4	「キリスト教Ⅱ」2単位、「キリスト教Ⅱ」、	*1
共	CLA コア科目	4			「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位、 キリスト教科目以外から4単位、合計8単位以上	
通	語学	語学履修コースによる: ① 10 ② 22			①スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	*2
	選択必修	選択必修I	2		「R&R (入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3
		選択必修Ⅱ-A	12		Ⅱ 群一Aから12単位以上	
車		選択必修Ⅱ-B	3	合計	Ⅱ 群一Bから3単位以上	
	医扒处形	選択必修Ⅱ−C	2	37単位	Ⅱ群一Cから2単位以上	
門		選択必修Ⅲ	14		Ⅲ群から14単位以上	
		選択必修Ⅳ	4]	専門ゼミA, B、卒論ゼミA, Bを各1単位、合計4単位	
	卒業論文	6				
		語学履修コー		よる:		*4
'	その他	9	63 51			
-	A 51					
	合 計	12	4			

2016年度入学者

;	科目区分	単位	数		備考	参照			
	基礎教養	2			「キリスト教Ⅰ」 2単位				
共	総合課題	2			「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位	*1			
通	語 学	語学履修コー ① ②	-スに。 10 22	よる:	①スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	*2			
	選択必修	選択必修Ⅰ	2	1	「R&R (入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3			
		選択必修Ⅱ-A	12		Ⅱ 群一Aから12単位以上				
専		選択必修Ⅱ-B	3	合計	Ⅱ 群一Bから3単位以上				
-	医八少形	選択必修Ⅱ−℃	2	37単位	Ⅱ群一Cから2単位以上				
門		選択必修Ⅲ	14		Ⅲ群から14単位以上				
		選択必修Ⅳ	4	1	専門ゼミA, B、卒論ゼミA, Bを各1単位、合計4単位				
	卒業論文	6							
	その他	_	-スに。 67 55	よる:		*4			
	合 計	12	4						

2015年度以前入学者

;	科目	区分	Ĭ	単位数		備考	参照			
	基	楚教養		2		「キリスト教Ⅰ」 2単位				
共	総	合課題		2		「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位	*1			
通	語	学	,	コース ① 10 ② 22	による:	①スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者				
		選択必修	選択必修 I	2)	「R&R(入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位				
	\22.		選択必修Ⅱ	12	合計	Ⅱ群から12単位以上				
専	进:		選択必修Ⅲ	18	36単位	Ⅲ群から18単位以上				
門			選択必修Ⅳ	4	J	専門ゼミA, B、卒論ゼミA, Bを各1単位、合計4単位				
	選	択								
	卒:	業論文		6						
	その他		語学履修コースによる: ① 68 ② 56				*4			
٦.	 合	計		124						

2017年度入学者

「キリスト教 I」2単位、「キリスト教 II \sim IV」から2単位、キリスト教科目以外から4単位、計8単位が必修です。 *1 FERRIS *実践教養探求課程の修了に必要な単位は p.55を見てください。

2016年度以前入学者

「キリスト教 I」2単位、「キリスト教 II~IV」から2単位、計4単位が必修です。

卒業に必要な語学科目の単位数は、スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者は10単位、インテンシブ・コース選択者は22単位です。語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の履修方法は、pp.76~79日本語日本文学科/日本文学科の「語学科目の履修」を見てください。

2016年度入学者

選択必修 I 群から2単位、選択必修 II 群 - Aから12単位以上、選択必修 II 群 - Bから3単位以上、選択必修 II 群 - Cから2単位以上、選択必修 II 群 - Cから2単位以上、選択必修 II 群の614単位以上、選択必修 IV群から4単位、合計37単位以上を修得してください。

2015年度以前入学者

選択必修 I 群から2単位、選択必修 II 群から12単位以上、選択必修 II 群から18単位以上、 選択必修Ⅳ群から4単位、合計36単位以上を修得してください。

次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。

- ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(語学科目の上限:*2のとおり)
- *4 ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目
 - ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目
 - ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:8単位まで)

2012年度以降入学者

1年次〜4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。

外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.92を参照してください。

- ①「日本事情 A、B」から4単位
- ②「留学生日本語」10単位
- *3年次編入学者の卒業に必要な単位数は pp.134~135を参照してください。

116

カリキュラムの説明

日本語日本文学科のカリキュラムは、日本語学・日本文学を柱として組み立てられています。日本語学は、 日本語学と日本語教育学に、日本文学は上代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近現代文学に専門・細 分化されます。その授業科目は、

- ・少人数の演習形式の科目
- ・専門を学んでいくための基礎力を養成する科目
- ・各専門分野の学問体系に沿った科目
- ・分野を横断した学習や実習によって視野を広げる科目

から構成されています。これらを段階的に(カリキュラムマップのレベル1から順に)履修することにより、 日本語日本文学に関する幅広い知識を得ながら、徐々に専門性を深めていくことができます。

学科専門科目のいくつかは、同時に教職課程(国語)や日本語教員養成講座の必修科目でもあります(学生要覧「別冊」の当該ページ参照)。

●4年間の履修の指針

【1年次】に履修が指定されている科目は選択必修 I 群の「R&R (入門ゼミ)」と「日本語日本文学基礎ゼミ」*1です。前期の「R&R」は Research & Report の略で、学術資料の調べ方やレジュメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなど、大学ならではの研究方法を全員が身につけられるようトレーニングをします。このクラスの担当教員が、原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー (AA)」としてみなさん方に種々のアドバイスを行います。後期の「日本語日本文学基礎ゼミ」は、学科の各専門分野における研究の初歩を学ぶ科目で、前期の終わりに希望調査を行った上でクラス分けをします。これら2つの演習により、日本語日本文学科で調査・研究発表をしていくための実践的な基礎力を身に付けます。

同時に、1,2年次には選択必修 II A $\#^{*2}$ の〈概論・文学史〉の講義科目を履修することによって、各専門分野の全体的知識を学びます。幅広く学ぶことが大切な時期です。

また、選択必修Ⅱ B 群*3〈日本語日本文学の基礎〉の科目群は、専門分野の理解を助ける基礎的な知識をつけるためのものです。1,2年次のうちにできるだけ多くの科目を履修するようにしてください。なかでも「基礎論文演習(文章表現)」は、専門分野についてのレポートや卒業論文を書いていくために必ず必要となる技能を養成するための科目ですので、1年次の後期にクラス分けをして全員が履修します。

【2年次】選択必修Ⅱ C 群の「日本語日本文学プレ専門ゼミ」^{*4}は「基礎ゼミ」同様、前後期とも希望調査を行った上でクラス分けを行う演習科目で、週2回の授業により一気に実践力を高め、3年次の「専門ゼミ」につなげます。2年次以降は選択必修Ⅲ群の科目が多く履修できるようになります。講義内容や研究方法論の専門性が増し、調査・整理・分析・発表という主体的な受講が求められるものもあります。また、それらゼミに直結する専門的な科目の他に、日本文化に関する視野を広げる科目も開かれています。これらの科目を選択することで、専門についてもより深い探究、より広い展望を獲得できます。2年次の12月までには「ゼミ分け」が完了し、進むべき専門の分野が決まります。

【3年次】は選択必修IV群の「日本語日本文学専門ゼミ」**5を履修し、各自の研究テーマを本格的に学ぶことになります。さらに、【4年次】には同じIV群の「日本語日本文学卒論ゼミ」**6を履修し、卒業論文作成に向けて研鑚を積むことになります。卒業論文のテーマは、平生の履修の中で常に考え、早めに見つけるよう心がけてください。

- *1 2015年度以前入学者用カリキュラムでは「日本言語文化基礎ゼミ」。
- *2 2015年度以前入学者用カリキュラムではⅡ群。
- *3 2015年度以前入学者用カリキュラムではⅢ群。
- *4 2015年度以前入学者用カリキュラムではⅢ群の学科選抜「~を読む」科目。
- *5 2015年度以前入学者用カリキュラムでは「日本言語文化専門ゼミ」。
- *6 2015年度以前入学者用カリキュラムでは「日本言語文化卒論ゼミ」。

●教職(国語)資格、日本語教員

日本語日本文学科の専門科目を履修しつつ、教職課程の規定科目の単位修得をすることで、国語の教員免許状が取得できます。「教職入門」「国語科教育法」などの〈教職に関する科目〉は卒業要件124単位に算入されませんが、学期ごとの登録単位数(上限24単位)には含まれるので、教育実習に行く前までの3年間で〈教科に関する科目〉の最低修得単位数(中学28,高校36)は満たせるよう、1年次から科目を選んで計画的に履修しましょう。また、国語学、国文学、漢文学をバランスよく修得することも大切です。

日本語教員養成講座は、講座カリキュラムの主要部分が日本語日本文学科の専門科目(日本語教育学、日本語学)で構成されているので、学科の卒業要件を満たしつつ効率的に講座を修了することができます。

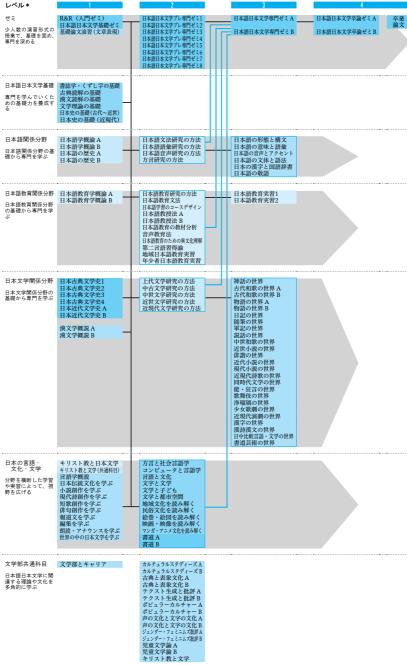
それぞれのカリキュラム表 (学生要覧別冊) をよく読み、専門科目の履修を資格取得に生かしてください。

●その他

選択必修Ⅲ群には、文学部3学科に共通の科目が用意されています。最新の文学理論や文化理論を自身の研究に生かしましょう。他学科の開放科目も、日本語日本文学科の「卒業に必要な単位数」の「その他」の区分としてカウントされます。まずは必修の共通科目と本学科専門科目で時間割を組むのが基本ですが、興味をひくものがあれば、他学科の専門科目を(シラバスを熟読した上で)受講してみるものよいでしょう。卒業要件の124単位を、4年間(8学期)かけてどのように修得していくのか一必要最小限の単位修得ということだけ考えれば、次のように配分することが可能です:

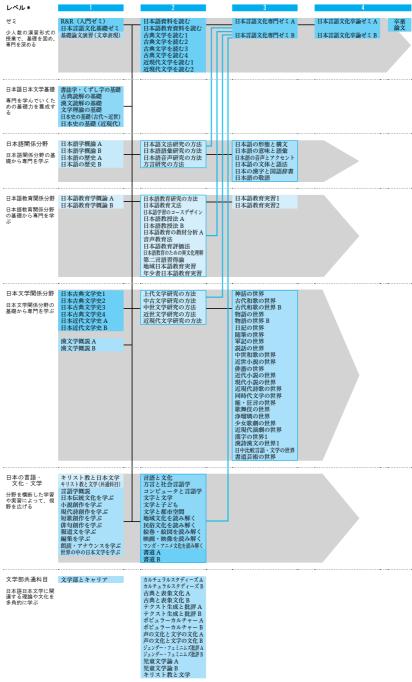
※1年(前19+後19)+2年(前19+後19)+3年(前20+後20)+4年(ゼミ2+卒論6)+ α =124+ α しかし、教職履修・語学留学・進学等々により必要単位数や適切な配分は変わってきますし、そもそも、修練を重ねてきてもっとも理解力・実践力の高まった4年次こそ、専門講義科目の教員の示す学術的ディテールまで判るので、より楽しく、充実した受講になるのです。8学期を存分に利用して、専門を広く、深く、学んでください。

日本語日本文学科 カリキュラムマップ (2016年度入学者)



レベル* 学科が想定するレベル(難易度)です。1: 導入、2: 基礎、3: 発展、4: 卒業論文等を表しています。 履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

日本語日本文学科/日本文学科 カリキュラムマップ (2015年度以前入学者)



レベル* 学科が想定するレベル (難易度) です。1:導入、2:基礎、3:発展、4:卒業論文等を表しています。 履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.25~31) 及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目 (CLA コア科目/基礎教養・総合課題、語学) の履修

pp.54~73、76~79を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2. 専門科目の履修

カリキュラムマップ、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して 履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

- (1)「R&R (入門ゼミ)」: 1年次前期に履修
 - ① 選考:クラスは学科が決定します。
 - ② 再履修:「R&R (入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「日本言語文化基礎ゼミ/日本語日本文学基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R (入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員 (p.200) の指示を受けてください。
- (2)「日本言語文化基礎ゼミ/日本語日本文学基礎ゼミ」: 1年次後期に履修
 - ① 選考:クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。なお、「R&R (入門ゼミ)」 担当者とは、異なる担当者のもとで履修することとします。
 - ② 再履修:「日本言語文化基礎ゼミ/日本語日本文学基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、 翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。
- (3)「基礎論文演習(文章表現)」:1年次後期に履修【2012年度以降入学者】 1年次の後期に1単位を履修することとします。クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学 科が決定します。
- (4) 選択必修Ⅲ「~を読む」について【2015年度以前入学者】

2年次に、選択必修Ⅲのつぎの科目群(2年次ゼミ)の中から前期後期それぞれ1科目4単位ずつ、合計8単位を履修してください。クラスは学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

「日本語資料を読む」「日本語教育資料を読む」

「古典文学を読む1」「古典文学を読む2」「古典文学を読む3」「古典文学を読む4」

「近現代文学を読む1」「近現代文学を読む2」

「中国文学を読む」

(5) 選択必修 II-C「日本語日本文学プレ専門ゼミ」: 2年次に履修【2016年度以降入学者】 2年次に、選択必修 II-Cの中から前期後期それぞれ1科目2単位ずつ、合計4単位を履修してください。 クラスは学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

- (6)「日本言語文化専門ゼミ/日本語日本文学専門ゼミ」: 3年次に履修
 - ① 選考:所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・ 選抜がおこなわれますので、掲示及び学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。
 - ② 再履修:「日本言語文化専門ゼミ/日本語日本文学専門ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、 4年次に「日本言語文化卒論ゼミ/日本語日本文学卒論ゼミ」と並行して履修することが認められま す。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

【履修条件】: 2016年度以降入学者

- (A)「R&R (入門ゼミ)」または「日本語日本文学基礎ゼミ」のいずれか1単位が修得済みであること
- (B)「日本語日本文学プレ専門ゼミ」1科目2単位を含む、合計28単位を2年次後期終了時点で修得済みであること
- *「交換留学」「認定留学」「国内留学」によって2年次前期・後期ともに「日本語日本文学プレ専門ゼミ」の履修ができなかった学生については、「日本語日本文学専門ゼミ」の履修を認め、あわせて3年次前期に「日本語日本文学プレ専門ゼミ」を履修することを必修とします。なお、留学先において修得した演習科目が「日本語日本文学プレ専門ゼミ」の単位として認定される場合があります。

2015年度以前入学者

「R&R(入門ゼミ)」または「日本言語文化基礎ゼミ/日本語日本文学基礎ゼミ」のいずれ か1単位を修得済みであること

- (7)「日本言語文化卒論ゼミ/日本語日本文学卒論ゼミ」: 4年次に履修
 - ① 所属ゼミは原則として3年次の「日本言語文化専門ゼミ/日本語日本文学専門ゼミ」と同一担当者とし、その相当者のもとで卒業論文指導を受けることとします。
 - ② 再履修:「卒論ゼミ A」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「卒論ゼミ B」を重複して履修し、 「卒論ゼミ A」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。
- (8) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ぜミを履修することができない学生については、「日本言語文化専門ゼミ」と「日本言語文化卒論ゼミ」、あるいは「日本語日本文学専門ゼミ」と「日本語日本文学卒論ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。なお、交換・認定留学の学期には卒業できません。

(9)「卒業論文」

卒業論文は、4年次に提出することとします。提出方法等については pp.40~41を参照してください。 提出する「卒業論文」本文(注を含む)の量的条件は、A4判1200字詰めで20枚以上(ただし、創作ゼミナールについては、指導教員の指示による。)です。書式等に関する詳細は学科による卒論オリエンテーションの配付資料を見てください。

コミュニケーション学科



◆人材養成目的

多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアの領域における科学的アプローチによる学びを通 して、科学的論理に基づく理解と実践力をもち、多文化共生社会の構築に貢献する有為な人材を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、コミュニケーション学科の人材養成目的を踏まえた以下の知識・能力を身に付けた者に「学士(文学)」の学位を授与する。

- (1) 幅広い教養と多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアの領域に関する専門的知識が身 に付いている。
- (2) 国際化の時代に必要となる英語およびその他の諸言語の運用能力が身に付いている。
- (3) 多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアなどの多様な専門分野を研究することにより、 多角的かつ幅広い視点・視野をもち、データに基づいた理論分析・批判的思考を通して社会において 生ずる様々な課題を発見し、それを解決する能力が身に付いている。
- (4) 現場へ出て実社会の人々と出会い、様々な意思疎通のスキルを獲得することにより、社会に貢献できるコミュニケーション能力が身に付いている。
- (5) 学びを通して社会や人間の多様性および他者との連帯の重要性を理解し、他者と協働・共生することができる能力が身に付いている。
- (6) 多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアなどの切り口から、多様化する現代社会と人 間関係を社会科学的・文化学的にとらえ、考察することにより、文学・芸術・社会・人間に関する新 しい価値を見出すことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

コミュニケーション学科では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

- (1) 1年次には導入ゼミを置き、2年次には専門性を加味したゼミを置き、そして、3年次と4年次には専門を深めるための専門ゼミを配置し、すべての学生が少人数のゼミに所属して連続性のある指導を受けられるようにしている。専門分野の科目については、コミュニケーションの「全体像を知る」、「研究方法に取り組む」、「専門と出会う」の科目群を通して学ぶ。「専門と出会う」においては「多文化理解」、「共生コミュニケーション」、「表現とメディア」の3領域を柱として、理論と実践の観点から、さらには調査・研究方法の習得をも重視して学ぶことにより、コミュニケーション研究に関する専門知識の修得を図る。その他、幅広い教養を身に付けるために全学共通の教養教育を選択必修として課し、また自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。
- (2) 全学共通の英語および初習外国語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語)科目により、基本的な言語運用能力を身に付けさせる。その際、学生は5つの語学コース(英語インテンシブ・コース、英語スタンダード・コース、初習外国語インテンシブ・コース、初習外国語スタンダード・コースおよび2か国語履修コース)から選択することができる。加えて、言語コミュニケーションに関する専門科目も開設している。また、日本の社会において主導的・指導的な役割をはたすのに必要な日本語運用能力を身に付けさせる。
- (3) 1年次から4年次まですべての学科生が所属する少人数編成の演習科目(R&R(入門ゼミ))、コミュニケー

ション基礎ゼミ、コミュニケーション学探求ゼミ、コミュニケーション専門ゼミ I およびコミュニケーション専門ゼミ II 等を通して、課題発見・解決能力の向上を図る。

- (4) 各演習科目およびアクティブ・ラーニング型の授業など、インタラクティブな授業や意見交換を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。
- (5) 多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアなどの切り口からコミュニケーション学の領域に関して広く学ぶ(研究する)ことを通して、異なる価値観をもつ他者を理解し、他者との協働・共生能力の向上を図る。その際、国・民族だけでなく、性別・世代・セクシャルマイノリティ等の問題も多文化として捉え、これらの問題の理解と改善とに取り組んでいく力を養う。
- (6) コミュニケーション学の領域に関する知識を身に付け、演習科目などによる教員や他の学生との討論 などを通して、新たな価値を見出す能力を養う。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

124

卒業に必要な単位数

2017年度入学者

;	科目区分	単	単位数		備考	参照
	CLA コア科目	キリスト教科目		4	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」、 「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位、	*1
共	OLA = 7 14 E		4		キリスト教証」、「キリスト教IV」が62単位、 キリスト教科目以外から4単位、合計8単位以上	
通	語学	語学履修:	D 10	による:	①スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	*2
	選択必修	選択必修 I	2	1	「R&R (入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3
		選択必修Ⅱ	12	合計	Ⅱ 群から12単位以上	
専		選択必修Ⅱ	18	36単位	Ⅲ群から18単位以上	
門		選択必修Ⅳ	4)	専門ゼミIA,IB、専門ゼミⅡA,ⅡBを各1単位、合計4単位	
	卒業論文 · 卒業制作		6			
		語学履修		による:		*4
	その他	① 64 ② 52				
	合 計 124					

2016年度以前入学者

	科目区分	È	単位数		備考	参照	
	基礎教養		2		「キリスト教Ⅰ」 2単位		
共	総合課題		2		「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位	*1	
通	語 学	語学履修:	D 10	による:	①スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	*2	
	選択必修	選択必修 I	2		「R&R (入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3	
		選択必修Ⅱ	12	合計	Ⅱ 群から12単位以上		
専		選択必修Ⅲ	18	36単位	Ⅲ群から18単位以上		
門		選択必修Ⅳ	4)	専門ゼミIA,IB、専門ゼミⅡA,ⅡBを各1単位、合計4単位		
	卒業論文 · 卒業制作		6				
	語学履修コースによる: その他 ① 68 ② 56					*4	
	 合 計		124				

*1	②017年度入学者 「キリスト教 I 」 2単位、「キリスト教 II ~IV」から2単位、キリスト教科目以外から4単位、計8単位が必修です。 FERRIS [†] 実践教養探求課程の修了に必要な単位は p.55を見てください。 ②016年度以前入学者 「キリスト教 I 」 2単位、「キリスト教 II ~IV」から2単位、計4単位が必修です。
*2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の 履修方法は、pp.76~79コミュニケーション学科の「語学科目の履修」を見てください。
*3	選択必修 I 群から2単位、選択必修II群から12単位以上、選択必修III群から18単位以上、選択必修IV群から4単位、合計36単位以上を修得してください。
*4	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(語学科目の上限:*2のとおり)・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:8単位まで)
	2012年度以降入学者 1年次~4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.92を参照してください。 ①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」10単位

^{*3}年次編入学者の卒業に必要な単位数は pp.134~135を参照してください。

126 2017学生要覧

カリキュラムの説明

コミュニケーション学科の目ざすもの

コミュニケーション学科は、みなさん方が21世紀の多文化・共生時代を生きるため、多様化する社会や 人間、文化などを総合的にとらえた上で、社会関係をスムーズにし、対人スキルを身につけ、豊かな表現能 力が獲得できるよう、現状把握・調査・分析・理論、そして実習・実践などを重視する学科として2004年 度に新しく開設されました。

人は、動物とは異なり一人では生きてゆけず、「社会」を構成してしか生きられません。その際、人は「ことば」で思考し、書きことば・話しことば・しぐさ・音・画像などの記号を駆使し、情報の乗り物であるメディアという道具を用いて自己表現や他者とのコミュニケーションを行っています。その繁雑さと「個」というエゴのため、ときとして人間は他の動物よりもはるかに非合理的な争いを生じさせもし、身近なところでは誤解や「いじめ」、他者の人権や生命の侵害、グローバルにみれば差別や貧困、大量殺戮や戦争などの悲しくかつ憂慮すべき事態を繰り返してきました。人間がもっと賢くなり、「憎しみ」の連鎖を断ち切り、多様な人びとと平和的に暮らせるようになる世界を構築するためには、私たち全員がもっともっと人間の心や社会のシステム、様ざまな文化、表現のしかたなどについて学び、むしろ「違い」を楽しむような実践が求められます。そのときのキーワードが「コミュニケーション」にほかなりません。

カリキュラムの構成

本学のコミュニケーション学科は、以上のような問題意識の上に立って、カリキュラム構成に他大の同じような学科にはない数多くの特徴をそなえています。

まずカリキュラムの構造(pp.130~131のカリキュラムマップ参照)ですが、(1) 入学したての大学生としてトレーニングを少人数のゼミで積む 基礎を学ぶ、(2) コミュニケーション研究の入門編として 全体像を知る、(3) 実証的研究方法編としての 研究方法に取り組む、(4) 各論の基礎編である コミュニケーションの基礎を学ぶ、そして(5) 各論の専門科目である 多文化理解・共生コミュニケーション・表現とメディアの3領域からなる 専門と出会うが、階梯性をもって配置され、(1) 専門を深める 科目として、2年次生全員が履修しなければならない、ゼミ風のコミュニケーション学探求も用意されています。また(6) コミュニケーション研究の解釈実践ともいえる 現代文化を読み解く が加わり、最後に卒業論文・卒業制作に結実するゼミナールとしての 専門を深める 専門を極める ((1) 参照)でしめくくられるよう組み立てられています。カリキュラムのハイライトである(5) は、さらにそれぞれ 知と出会う とフィールドへ出る とで構成されており、前者は主として現状や先行研究について理論的に学び、後者は主として学内外でのワークショップや実習によって実践的に学びます。

4年間の履修の指針

コミュニケーションに関連する授業内容は多岐にわたっており、どれもまんべんなく履修することをお勧めします。最低限の取得単位で卒業するのは、もったいないことです。しかし、「あれもこれも」と欲張りすぎても、「コミュニケーション学科でどんな勉強をしたの?」と他人や就職面接で訊かれて答えられないことになりかねません。自分の興味や研究テーマ、進路などにそって、自分なりのカリキュラムを構造化する必要があります。また、基礎教養・総合課題科目、他学部・他学科の開放科目、語学などもできるだけ関連させて履修したいものです。そのかわり、かなりハードな学生・学習生活になることを覚悟する必要があり、4年間・8セメスターの計画(履修計画のみならず留学や就職活動の予定)や、長期の夏休み・春休みなどの計画(資格や免許の取得など)をしっかり立てておくことが肝要です。

1年目に全員必修で履修する選択必修 I 基礎を学ぶ は、「R&R(入門ゼミ)」と「コミュニケーション基礎ゼミ」からなっています。前期の「R&R(入門ゼミ)」は、Research & Report の略で、文学部共通のゼミナールとして設置されています。大学ならではの、学術資料の調べ方やレジュメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなどを全員が身につけることによって大学での学習が実りあるものになるよう、トレーニング

をします。少人数制のこのクラスは、担当の先生が原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー(AA)」として、みなさん方に種々のアドバイスを行います。続く1年後期の「コミュニケーション基礎ゼミ」では、様ざまな領域にわたるコミュニケーション研究のいずれかひとつの"入り口"を経験してもらいます。どちらも単位を取得しないと卒業できない必修科目です。配当された1年次生のうちに修得するようにしてください。

選択必修 II 全体像を知る としては、1、2年次に、コミュニケーションの概念や諸相に関する入門編である「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」のうちのいくつかと、多様な広がりを持つコミュニケーションに関する研究方法の入門編である「コミュニケーション研究方法の全体像」がおかれています。この6科目について学年指定はありませんが、1、2年次のうちに履修しておくことを推奨します。また 研究方法に取り組むの8科目のうちいくつかを、やはり2年次までに履修してください。今後4年間の授業で、なかでもゼミと卒業論文・制作の場では、これらの授業で得た知識が「身についていることを前提」として授業が進みます。これらII 群の単位は、合計12単位以上満たしていないと卒業できません。「研究方法に取り組む」の8科目のうちのいくつかは「社会調査士」の資格科目ともなりますので、詳細は学科からの説明をよく聞いてください。

選択必修Ⅲ 専門と出会うでは、まずコミュニケーションの基礎を学ぶで、コミュニケーション研究における各論の専門的知識が講じられます。心理学や社会学、言語学などの専門的な研究領域において、コミュニケーションという概念がどうとらえられ、どのように研究されてきたのかについての基礎を学んでいきます。

また2年次生は、前期に、この中のコミュニケーション学探求から、必ず1科目を履修してください。学科の専任教員が、それぞれの専門性をゼミ形式で鍛えます。

選択必修Ⅲのメイン科目は、多文化理解 共生コミュニケーション 表現とメディアの3ジャンルで、現状 や先行研究について理論的に学ぶ 知と出会う くくりと、主に学内外におけるワークショップや実習によって実践的に学ぶ フィールドへ出る くくりがそれぞれラインナップされています。3ジャンルまんべんなく履修することをお勧めしますが、自分なりの専攻・ピークを作ってもいいでしょう。科目によっては現地実習などで参加費が必要な場合やパスポートが必要な場合などがあり、授業時間外の参加が求められることも少なくありませんので、初回授業時には必ず出席して担当教員の説明や指示をよく聞いてください。また、多くの科目で毎回のようにレポートや制作物の提出が課題とされ、グループワークやホームワークが求められるでしょう。

これらの選択必修Ⅲは、<mark>現代文化を読み解く</mark>と合わせて18単位以上履修すれば卒業要件を満たしますが、できるだけ多くの科目を学ぶに載したことはありません。

選択必修IV 専門を深める の「コミュニケーション専門ゼミ I A, I B」は、コミュニケーション学科全専任教員がそれぞれ研究テーマを掲げてゼミナール生を募集し、3年次に学生全員がいずれかのゼミナールに所属して、発表や討論や文献講読、フィールドワーク、調査などをしながら少人数で研究を行います。それは、4年次の「コミュニケーション専門ゼミ II A, II B」に橋渡しされ、最終的な「卒業論文・卒業制作」をまとめます。これらIV群はいずれも必修です。3年次からはゼミ担当の教員が「アカデミック・アドバイザー」となります。

4年間・8セメスターの履修は、次のモデル図をよく参考にして組み立ててください。また、2年次後期に募集され3年次から始まるゼミナールは、次頁のような研究内容のゼミが予定されています。早い学年のうちから履修計画を立てておくようにしてください。

4年間の履修モデル

科目群/セメスター	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	
語 学	磨く/記	川練する	実践力を	とつける	語学力を維持する/発展させる				
「全体像を知る」 基礎編	「社会コミュニケ 「文化コミュニケ 「心理コミュニケ 「コミュニケーシ	アーション概論」 ション概論」 ション研究法の							
プレゼミ	R&R	基礎ゼミ	コミュニケー ション学探求						
「研究方法に取り組む」	「研究方法」	科目群の履修	(上記を含む1	2単位以上)					
「コミュニケーションの 基礎を学ぶ」	「基礎を学ぶ	」 科目群の履信	修(なるべく)	まんべんなく)					
コミュニケーション科目 専門		「多文化理解」「共生コミュニケーション」「表現とメディア」科目群の履修 (まんぺんなく又は分野をしぼって履修)							
その他の履修			留学、インタ・	学、インターンシップ、ボランティア実習					
ゼミ・卒論・卒制				ゼミ選び	研究テーマづくり	研究テーマ決定	調査、フィー ルドワーク	執筆・制作	

^{*}履修にあたっては、web上のシラバスおよび学生要覧を必ず熟読して登録・授業に参加してください。またシラバス上で使用されているテクニカルタームについては、各自で調べておいて履修に臨むほか、R&Rテキストの「用語集」なども熟読してください。

ゼミナール担当(指導可能)分野

Г	都	女 員	名	潮村公弘	齋藤孝滋	渡辺浪二	諸橋泰樹	髙田明典	藤巻光浩	井上惠美子	高橋京子	小ヶ谷千穂	相澤一
\vdash									カルチュラル・				
L	専	į	攻	文化心理	社会言語学	心理学	マスコミ社会学	メディア文化論	スタディーズ	教育学	身体論	多文化共生	異文化コミュ
	心	理・社	会心理	0	0	0	0	0					
	異	文化・	多文化	0	0				0			0	0
推	i	語			0								0
迫	身	体			0				0		0		
L		族・着				0				0		0	
15	゚ヹ	ェンタ	<i>'</i> _	0			0			0		0	
里	思	想・社	会					0	0	0	0	0	0
	メ	ディア	•	0		0	0	0	0				
	2)	ンピュー	ター・情報			0		0					
			しておく	データを数 量から読み 解く	話しことばを 分析する	実験の研究 計画をたてる	アンケート・ 社会調査の 方法	文献・情報 の集め方	ワークとエス		ワークとエス	多文化・多 言語社会を 考える	
(2	科目	F究方注 1のうち 珍してお	どちらか	アンケート・ 社会調査の 方法	データを数 量から読み 解く	量から読み	データを数 量から読み 解く	マルチメディ ア制作IA	文献・情報 の集め方	アンケート・ 社会調査の 方法	文献・情報 の集め方	フィールド ワークというラ イフヒストリー 分析を学ぶ	
				文化の心理 学	ことばのフィ ールドワーク	ケーションの	ジェンダー問 題と男女共 同参画社会		批評理論	子 どもの発 達とこれから の教育問題	身体表現論	する人の移動	異文化のコ ミュニケー ション
	履修してお 望ましい科		1	コンピュータ による調査 データの解 析 A	言語コミュニ ケーション概 論	コンピュータ による調査 データの解 析 A,B	メディアリテ ラシーを身に つける	アンケート・ 社会調査の 方法	多人10円10	これからの家 族問題 A,B	身体としぐさ の心理学	フィールド ワークとエス ノグラフィー	
				対人コミュニ ケーションの 心理学	日本語文法 論とコミュニ ケーション	組織の中の 人間関係	ケーションと	文化コミュニ ケーション概 論		ジェンダー問 題と男女共 同参画社会	スポーツ文化	共生のフィー ルドワーク	アジアとの出 会いと異文 化体験

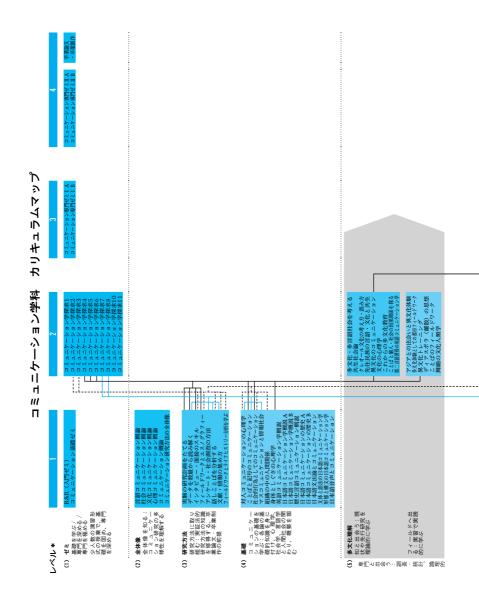
*表の見方…教員ごとに、指導可能分野に丸印がついています(◎は「かなり専門的に指導可」、○は「指導可」)。表をヨコに見ると分野ごとの ゼミが浮かび上がります。たとえば、「言語」関係のゼミ志望でしたら、第1希望商齢先生、第2希望相漂先生などのように希望す ることができます。もちろん、第1希望高橋ゼミ、第2希望高田ゼミ、第3希望小ケ谷ゼミなどのように、一貫しない志望でもかま いませんが、その分事前の最低限履修しておくべき研究方法科目や履修しておくことが望ましい科目が増えることになります。

その他

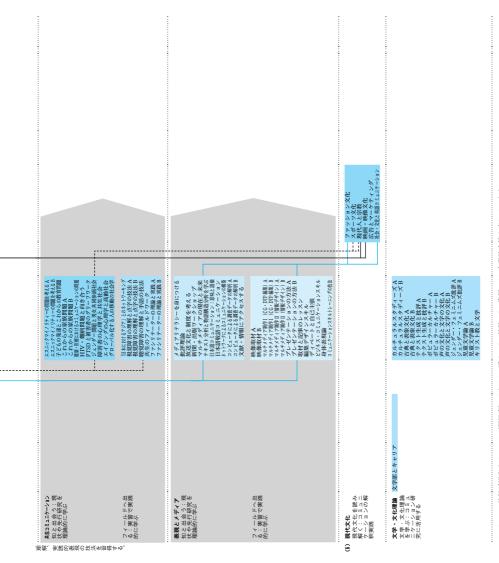
Ⅲ群には、文学・文化理論を学ぶとして、文学部の全学生を対象にした共通科目が用意されています。最 新の文学理論や文化理論を、コミュニケーション研究に大いに活かしてください。

科目名には、これまでみなさんが聞いたことのない、横文字や最新用語が使われているものがあります。 履修前・登録前に、必ずシラバスをよく読んで授業に臨んでください。

なお本学科には、設備の関係や学習効果を上げるため、受講者数を少人数に絞っている科目が少なからずあります。履修申し込みを学生本人が「履修者数制限科目希望受付期間」に行うか、授業の第1回目に出席して当該教員による選抜を受けなければなりません。卒業要件や入ゼミ条件にかかわる科目であるにもかかわらず、申し込みを怠ったり1回目の授業を休んだりすると、履修できずに本人の不利益になりますので、充分注意してください。



130 2017学生要覧



レベル* 学科が想定するレベル (職易度) です。1:導入、2:基礎、3:発展、4:卒業論文等を表しています。 履修登録可能な年火は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.25~31) 及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目 (CLA コア科目/基礎教養・総合課題、語学)の履修 pp.54~73、76~79を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2. 専門科目の履修

カリキュラムマップ、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して 履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

- (1)「R&R (入門ゼミ)」: 1年次前期に履修
 - ① 選考:クラスは学科が決定します。履修登録は学科で行います。
 - ② 再履修:「R&R (入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「コミュニケーション基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R (入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員 (p.200)の指示を受けてください。
- (2)「コミュニケーション基礎ゼミ」:1年次後期に履修
 - ① 選考: クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。前期末に希望票提出・ 選考を行う予定です。詳細は掲示で知らせます。履修登録は学科で行います。
 - ② 再履修:「コミュニケーション基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年 度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。
- (3)「コミュニケーション学探求」:2年次前期に履修
 - ① 選考:クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。
 - ② 2年前期のオリエンテーション時に希望票提出・選考を行う予定です。詳細は掲示で知らせます。 履修登録は学科で行います。

【履修条件】「R&R (入門ゼミ)」または「コミュニケーション基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであること

(4) 選択必修Ⅱについて

- ① 1年次または2年次に、選択必修Ⅱ「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」と「コミュニケーション研究方法の全体像」および「実験の研究計画をたてる」「アンケート・社会調査の方法」「インタビュー・面接のスキル」「話しことばを分析する」「文献・情報の集め方」「データを数量から読み解く」「フィールドワークとエスノグラフィー」「フィールドワークとライフヒストリー分析を学ぶ」の中から12単位以上を修得すること。
- ② 上記のうち「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」「コミュニケーション研究方法の全体像」は必修指定にはなっていませんが、重要な基礎科目です。各「概論」は1つ以上、「研究方法の全体像」は是非履修するようにしてください。
- (5) 「コミュニケーション専門ゼミ I A, I B」:3年次に履修
 - ① 選考:所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・ 選抜がおこなわれますので、掲示および学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。

- ② 再履修:「コミュニケーション専門ゼミ I A, I B」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「コミュニケーション専門ゼミ II A, II B」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員 (p.200) の指示を受けてください。
- (6)「コミュニケーション専門ゼミ II A, II B」:4年次に履修
 - ① 所属ゼミは原則として3年次の「コミュニケーション専門ゼミIA, IB」と同一担当者とし、その担当者のもとで卒業論文・卒業制作の指導を受けることとします。
 - ② 再履修: 「コミュニケーション専門ゼミ II A」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「コミュニケーション専門ゼミ II B」を重複して履修し、「コミュニケーション専門ゼミ II A」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。
- (7) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「コミュニケーション専門ゼミ IA, IB] と「コミュニケーション専門ゼミ IIA, IB] と「コミュニケーション専門ゼミ IIA, IIB]を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。なお、交換・認定留学の学期には卒業できません。

(8)「卒業論文・卒業制作」

卒業論文・卒業制作は、4年次に提出することとします。提出方法等については pp.40~41を参照してください。

「卒業論文・卒業制作」の題目提出時に、卒業論文もしくは卒業制作のうちいずれか一方を選択しなければなりません。また、原則として題目提出後の変更は認められません。卒業論文および卒業制作として認められるものには、それぞれ必要となる要件が設定されています。要件などの詳細に関しては4年次前期に開催される「卒業論文・卒業制作オリエンテーション」において説明されるので、掲示等に留意してください。

社会調査十資格認定について

「社会調査士」とは、日本教育社会学会・日本行動計量学会・日本社会学会の三学会が連携協力して設立した「社会調査士認定機構」が認定する資格であり、所定の科目群の履修を通して社会調査に関する基礎的な知識と技能および応用力と倫理観を身につけた者に対して認定されます。コミュニケーション学科では、この「社会調査士」の資格取得のために必要となる科目の認定を受けています。ただし、資格認定のためには、所属するゼミナールや、履修する科目に関して、条件があります。社会調査士資格の取得を希望する人は、学科から配布される資料や、文学部共同研究室の掲示に注意するようにしてください。社会調査士資格の詳細に関しては、一般社団法人社会調査協会のホームページで見ることができます。(http://jasr.or.jp)

3年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に次の授業科目・単位を含む62単位を修得することが卒業要件となります。

英語英米文学科

2017年度入学者

科目区分		単位数		備考	参照
共	基礎教養 総合課題	4		「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」 から4単位	*1
通	語 学	-		語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。	
		選択必修Ⅰ	-		
		選択必修Ⅱ-A	-		
専	選択必修	選択必修 II-B	6	Ⅱ 群-B から6単位以上	
Ħ	選択必修Ⅲ	選択必修Ⅱ	-		
L.3		選択必修IV	4 {	「英米文化専門ゼミ A」1単位、「英米文化専門ゼミ B」1単位 「英米文化卒論ゼミ A」1単位、「英米文化卒論ゼミ B」1単位	
	卒業論文	6			
2	その他	42		次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(語学科目の上限:32単位) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目・1教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:8単位まで)	
1	 合 計	62			

2016年度以前入学者

1	科目区分	単位数		備考	参照				
共	基礎教養 総合課題	- 4		「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、 「キリスト教Ⅳ」から4単位	*1				
通	語 学	-		語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。					
		選択必修Ⅰ	-						
		選択必修Ⅱ	-						
専	選択必修	選択必修Ⅲ	-						
門		選択必修Ⅳ	4 {	「英米文化専門ゼミ A」1単位、「英米文化専門ゼミ B」1単位 「英米文化卒論ゼミ A」1単位、「英米文化卒論ゼミ B」1単位					
	卒業論文	6							
2	その他	48		次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(語学科目の上限:32単位) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:8単位まで)					
1	合 計	62							

日本語日本文学科

7	科目区分	単位数		備考	参照			
	基礎教養	4		「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、	*1			
井	総合課題			「キリスト教Ⅳ」から4単位				
通	語 学	-		語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。				
		選択必修I	-					
١.		選択必修Ⅱ	-					
専	選択必修	選択必修Ⅲ	-	「キリスト教 I 」、「キリスト教 II 」、「日本言語文化専門ゼミ A」 1単位、「日本言語文化専門ゼミ B」 1単位「日本言語文化卒論ゼミ A」 1単位、「日本言語文化卒論ゼミ B」 1単位 次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目・				
門		選択必修Ⅳ	4 {	「日本言語文化専門ゼミ A」1単位、「日本言語文化専門ゼミ B」1単位 「日本言語文化卒論ゼミ A」1単位、「日本言語文化卒論ゼミ B」1単位				
	卒業論文	6						
その他		48		・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目 (語学科目の上限:32単位) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目・ ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:				
1	合 計	62						

コミュニケーション学科

	科目区分	単位数		備考	参照			
共	基礎教養総合課題	4		「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、 「キリスト教Ⅳ」から4単位	*1			
通	語 学	-		語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として 認められます。				
		選択必修Ⅰ	-					
		選択必修Ⅱ	-					
		選択必修Ⅱ	-					
専	選択必修			「コミュニケーション専門ゼミ I A」(1単位)				
門		選択必修Ⅳ	4	「コミュニケーション専門ゼミ I B」(1単位)				
		选択必修IV	4	「コミュニケーション専門ゼミⅡ A」(1単位)				
				「コミュニケーション専門ゼミ I B」(1単位)				
	卒業論文・卒業制作	6						
その他		48		次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(語学科目の上限:32単位) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目 (上限:8単位まで)				
	合 計	62						

*1 「キリスト教 I \sim IV」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。 (p.63 「キリスト教関連科目」参照)

国際交流学部

国際交流学科

国際交流学部の人材養成目的

国際交流の領域に関する学際的かつ高度の教育研究を行い、総合的知識を身に付けた人材を養成する。

国際交流学部 国際交流学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

国際交流の領域に関する高度の教育研究を行い、グローバリゼーションの時代にふさわしい、専門分野の 枠を越えた総合的知識を身に付けた人材、すなわちこれからの社会に貢献できる知性と行動力をもった人材 を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、国際交流学科の人材養成目的を 踏まえた以下の知識・能力を身に付けた者に「学士(国際交流学)」の学位を授与する。

- (1) グローバルな視点で発想・行動するための基礎となる幅広い教養と国際交流の領域に関する十分な専 門的知識が身に付いている。
- (2) 国際交流に必要となる言語運用能力が身に付いている。
- (3) グローバル化した現代社会・文化に関する専門知識を修得し、それを批判的に研究することにより、 多角的かつ幅広い視点・視野をもち、課題発見・解決能力が身に付いている。
- (4) 多様化する環境の中で国境や文化の違いを越えて人々と結びつき、国際的に活躍するために必要な行動力やコミュニケーション能力が身に付いている。
- (5) 世界や諸地域の現状を探り、文化・思想・言語が異なる人々を理解し、他者と恊働・共生する能力が 身に付いている。
- (6) 国際交流に関わる専門知識や専門分野の枠を越えた総合的知識を得てグローバルな視点から考え、自由な発想力から新しい価値を見出すことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

国際交流学科では、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げた知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

- (1) 全学共通の教養教育における多彩な科目を通して、幅広い教養を身に付ける。また、専門教育は、学際的な広い分野を体系的に学べるよう「プログラム制」で専門科目を編成する。プログラム所属前となる1年次対象に、幅広い専門分野を学ぶための指針を得させるための学科専任教員全員によるコラボレート科目「研究入門」を前期の必修科目として置く。またプログラムに共通する専門基礎知識を学ぶ科目を1、2年次対象に配置する(基幹科目群)。2年次以降学生が専門分野を系統的に学ぶことによって国際交流に関する十分な知識を修得できるよう「国際協力」、「文化交流」、「人間環境」の3プログラムを展開し、各プログラムの学修目標に沿った科目を編成する。また、自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。
- (2) 全学共通の英語および初習外国語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語)科目により、基本的な言語運用能力を身に付けさせる。その際、学生は3つの語学コース(インテンシブ・コース、2か国語履修コース、スタンダード・コース)から選択することができる。また、本学科の目的である国際交流、多文化理解のために、外国語で専門分野を学ぶ科目や海外での現地実習を行う科目を専門科目の「実践科目」および各プログラム科目として設定し、国際交流の領域で通用する言語運用能力の向上につなげる。
- (3) 1年次から4年次まですべての学科生が所属する少人数編成の演習科目(導入演習、基礎演習、専門演習等)を段階的に配置し、さらに PBL 科目を個別に専門科目に設けることにより、アカデミック・ス

138 2017学生要覧

キルの修得から専門知識の深化、とりわけ、課題発見・解決能力を習得させる。

- (4) 各演習科目およびアクティブ・ラーニング型の授業など、インタラクティブな授業や意見交換を通して、 コミュニケーション能力の向上を図る。
- (5) 各国の歴史・文化・思想・宗教などについて広く学ぶことを通して、異なる価値観をもつ他者を理解し、 他者との協働・共生能力の向上を図る。
- (6) 学際的な知見を広め、演習科目などによる教員や他の学生との討論などを通して、新たな価値を見出 す能力を養う。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

卒業に必要な単位数

2017年度入学者

:	科目区分		単位	数		備考	参照
#	CLA ⊐	ア科目	キリスト教科目 4		4	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」、 「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位、 キリスト教科目以外から4単位、合計8単位以上	*1
通	語	学	2	: る: 10 16 22		①スタンダード・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者 ③インテンシブ・コース選択者	*2
	必	修	10)		「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位	*3
専			基幹科目	12		基幹科目から12単位	*4
門	選択	必修	所属するプログラ ムの推奨科目	6	合計で 20単位	国際協力、文化交流、人間環境プログラム のうち、所属するプログラムの推奨科目	*5
			所属プログラムの科目		以上	最低6単位を含む合計20単位以上を修得	
	卒業	論文	6				*6
	その	他	2	る: 58 52 46			*7
合 計			12	4			

2014~2016年度入学者

:	科目区分		単位	数		備考	参照
	基礎	教養	2			「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
l	総合	課題	2			「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位	*1
共通	語	学	2	る: 10 16 22		①スタンダード・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者 ③インテンシブ・コース選択者	*2
	必	修	10	10		「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位	*3
車			基幹科目	12		基幹科目から12単位	*4
門	選択	必修	所属するプログラムの推奨科目	6	合計で 20単位	並位 のうち、所属するプログラムの推奨科目	
			所属プログラムの科目		以上	最低6単位を含む合計20単位以上を修得	
	卒業	論又	6				*6
語学履 その他		2	る: 62 56 50			*7	
	合 i	Ħ	124	4			

140 2017学生要覧

2009~2013年度入学者

	科目区分	単位数	備考	参照
	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
l	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位	*1
共通	語 学	語学履修コースによる: ① 10 ② 16 ③ 22	①スタンダード・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者 ③インテンシブ・コース選択者	*2
専	必修		③卒業論文コースを選択した場合 「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位 ⑩6単位コースを選択した場合 「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」2単位	*3
門	選択必修	A 群から4単位以上 B 群から4単位以上 C 群から4単位以上 以上 り以上		*5
	③卒業論文または⑤指導教員の指定する国際交流学科専門科目	6		*6
	その他	語学履修コースによる: ① 62 ② 56 ③ 50		*7
	合 計	124		

2017年度入学者

「キリスト教 I」2単位、「キリスト教 II~IV」から2単位、キリスト教科目以外から4単位、計8単位が必修です。 *1 FERRIS *実践教養探求課程の修了に必要な単位は p.55を見てください。

2016年度以前入学者

「キリスト教 I | 2単位、「キリスト教 II ~ IV | から2単位、計4単位が必修です。

卒業に必要な語学科目の単位数は、スタンダード・コース選択者は10単位、2か国語履修コース選択者は 16単位、また、インテンシブ・コース選択者は22単位です。語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位 まで卒業に必要な単位として認められます。

なお、語学の履修方法は、pp.80~83を見てください。

「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位の計10単位が必修です。 また、2014年度以降入学者は「研究入門(国際交流学部での学び)」が必修です。

なお、卒業論文に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修が認められた場合、「導入演習」1単位、「研究 *3 入門」2単位、「基礎演習」3単位、「専門演習」2単位の計8単位が必修です。

「研究入門」の修得単位は、2013年度以前入学者は4単位まで、2014年度以降入学者は修得した単位全てが卒業に必要な単位として認められます。(必修単位2単位を含む。) 履修方法は、「専門科目の履修」を見てください。

*4 2014年度以降入学者

*5

基幹科目から12単位が必修です。

2014年度以降入学者

2年次前期から、国際協力プログラム、文化交流プログラム、人間環境プログラムのうち1つに所属します。 所属するプログラムの推奨科目から6単位以上、かつプログラム内で合計20単位以上となるように修得してください。

2009~2013年度入学者

A群、B群、C群から各4単位以上、かつ合計で32単位以上となるように修得してください。

卒業論文に代えて、指導教員の指定する国際交流学科専門科目(6単位)の履修を認められる場合があります。 アカデミック・アドバイザーと相談の上、所定の手続きが必要です。(「導入演習」、「研究入門」、「基礎演習」、「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目は対象外です。)

全学生対象

次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。

- ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(語学科目の上限: *2のとおり)
- ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目
- ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目
- *7 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:8単位まで)

2014年度以降入学者のみ適用

- ・必修として規定された以上に、基幹科目から自由に選択した科目
- 国際交流学科実践科目
- ・選択必修として規定された以上に所属するプログラムから選択した科目
- ・国際交流学科の所属外プログラムの科目

1年次~4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。

外国人留学生は、前頁の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.92を参照してください。

- ①「日本事情 A、B」から4単位
- ②「留学生日本語」から10単位

編入学者の卒業に必要な単位数

2015年度以降入学者

2年	次編入学者					
	科目区分	単位数	ţ		備考	参照
共	基礎教養総合課題	4			「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、 「キリスト教Ⅳ」から4単位	*1
通	語 学	6			英語または初習外国語科目から6単位	*2
	基礎演習	2				
		基幹科目	8	1	基幹科目から8単位	
専	選択必修	所属するブログラムの 6 合計で 20単位 以上 日際協力、文化交流、人間環境プログラムのうち、所属するプログラムの推奨科目最低6単位を含む合計20単位以上 2 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10				
門		所属プログラムの科目)~-	を修得	
	専門演習	4				*3
	卒業論文	6				*4
	その他	44				*5
	合 計	94				

2014年度以前入学者

2年	次編入学者			
科目区分		単位数	備考	参照
共	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、	*1
通	総合課題		「キリスト教Ⅳ」から4単位	
进	語 学	6	英語または初習外国語科目から6単位	*2
	基礎演習	2		
専	選択必修	A 群から4単位以上 かつ合計 B 群から4単位以上 で28単位 C 群から4単位以上 以上		
門	専門演習	a 4 b 2	③卒業論文コースを選択した場合 ⑤6単位コースを選択した場合	
	卒業論文	6		
	その他	a 44 b 46		*5
合 計		94		

3年次編入学者				
	科目区分	単位数	備考	参照
共	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」	*1
	総合課題	4	から4単位	↑
通	語学	-		*2
専	選択必修	-		
-	専門演習	4		*3
門	卒業論文	6		*4
	その他	48		*5
	승 計	62		

2年次編入学者·3年次編入学者

「キリスト教 I ~IV」から計4単位が必修です。

*1 3年次編入学者のみ適用

「キリスト教 $I \sim IV$ 」 に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。 (p.63「キリスト教関連科目 | 参照)

- 2年次編入学者は、英語または初習外国語科目の中から合計6単位が必修です(教養外国語は除く)。 *2 履修方法の詳細は、オリエンテーションで配布される資料を参照してください。なお、語学科目の修得単位は、 必修科目も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。
- *3 卒業論文に代えて、アカデミック・アドバイザーの指定する国際交流学科専門科目(6単位)の履修が認め られた場合、「専門演習」は2単位が必修です。
- ×44 卒業論文に代えて、アカデミック・アドバイザーの指定する国際交流学科専門科目(6単位)の履修が認め られる場合があります。

全学生対象

*5

次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。

- ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(語学科目の上限:*2のとおり)
- ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目
- ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目
 - ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:8単位まで)

2015年度以降入学の2年次編入学者、2016年度以降入学の3年次編入学者のみ適用

- ・必修として規定された以上に、基幹科目から自由に選択した科目
- · 国際交流学科実践科目
- ・選択必修として規定された以上に所属するプログラムから選択した科目
- ・国際交流学科の所属外プログラムの科目

2015年度以降入学の2年次編入学者のみ適用

*6 「研究入門」は修得した単位全てが卒業に必要な単位として認められます。

2014年度以前入学の2年次編入学者、3年次編入学者

「研究入門」は4単位まで卒業に必要な単位として認められます。

*7 3年次編入学者は、「基礎演習」を履修することはできません。

カリキュラムの説明

国際交流学部での学びとねらい

問題はなにか

われわれは日々、新聞やテレビ、インターネットなどによって多くの情報に接しています。しかしその中で見聞きする世界の出来事がどのような意味を持ち、どのような背景をもっているのかを理解することは容易ではありません。メディアを通して世界の様々な地域の様子も伝えられますが、それぞれの地域で人々はどのような生活を送り、どのようなことを考え、どのような文化をはぐくみ、どのような社会を形づくっているのでしょうか。現在、世界は数々の深刻な問題を抱えています。それらに対してどのような取り組みがなされ、対策が講じられているのでしょうか。世界の問題は、いまやわれわれの生活とも密接に結びついています。そして、世界の人々とふれあい、理解し合うためには何が必要なのかを考えることが求められています。

グローバルな視点、発想、行動力を修得

グローバリゼーションの流れがより本格化した21世紀の社会では、世界各地との交流を深め、文化・思想・言語が異なる人々と"共生"することが大きなテーマです。しかし現実には、環境・社会問題や民族紛争、経済格差など多くの課題に直面しており、理想と現実の落差はきわめて深刻です。それゆえ世界や諸地域の現状を探り、過去にさかのぼり、未来のあり方を考察し、とりわけ、国境や文化の違いを超えた、人と人の結びつきについて学び、考えるのが国際交流学部での学修です。

国際交流学部では、世界で日々起こっている問題を地球市民としてとらえ、グローバルな視点から考え、 国境にとらわれない視点・発想を学び、世界で活躍できるコミュニケーション能力と行動力を身につけます。

3つのプログラム制

本プログラム制では、「国際協力」、「文化交流」、「人間環境」の3つのテーマを軸に国際交流について学びます。初年次には、「研究入門」「導入演習」などの科目によって大学での学び方と現代世界に関する問題意識を身につけながら、「基幹科目」で国際交流について理解するために必要な基本的知識を学びます。そこから、各自の関心に従ってプログラムを選択し、それぞれに適切に配置された科目群の系統的な履修を通じて専門科目を学びます。基礎から専門へ、プログラム制でわかりやすく、しっかり階段を上るように学びます。

履修の指針

大学ではさまざまな分野の学修に関心をもち、視野と思考の幅を広げてください。重要なことは、できるだけ早いうちに自分が何を学びたいかを見つけ、自分が研究したいテーマが何かを明確にすることです。そのためにも必修科目に留意しながら、自分が学びたいことを4年間に配分し、有機的かつ総合的に学習することが大切です。

2014年度以降入学者

国際交流学科では、国際交流における総合的知識を自らの特性や志向に合わせて体系的に学べるよう、2014年度からプログラム制を導入しました。

1年次は基幹科目群を中心に、各専門分野の基礎を学びます。2年次以降は3つのプログラムのいずれかを 選択し、各プログラムの学修目標にそって知識を深めます。各プログラムの学びの特徴は下記のとおりです。

プログラム	概 要
国際協力	国際的な政治・経済・法のしくみを学び、国際協力のあり方を理解し、国際的な関係を有する内外の場で社会貢献をするために必要な能力を身につけます。 グローバル化する現代社会において、国際協力は普通の市民にとっても遠い存在ではありません。私たちの何気ない日々の生活や行動が、遠くの国・地域で暮らす人々の生活とさまざまな形でつながっています。しかし、多様な国・地域からなり複雑化した現代世界では、わたしたちと国際問題の関わりを発見・理解するのが容易でないのも事実です。そこでこのプログラムでは、平和、貧困、格差、人権、開発など、国境を越えて複雑に絡み合う政治・経済・社会問題に多角的に切り込み、その原因と構造を探求して問題解決の能力を養います。また、現実に展開されているさまざまな国際協力の実態を学ぶことで、国際協力の意味と難しさについて知見を深め、それを国際協力の実践へとつなぐことを目指します。
文化交流	日本および世界の文化、歴史、思想/宗教と、それらの相互的係わりを学び、現代世界の多様性と複合性を理解し、文化的観点から国際交流に貢献できる能力を身につけます。 古来より、世界各地域の文明間、あるいは国家間ではさまざまな手段で文化交流がおこなわれてきました。しかし現代の情報や交通手段の飛躍的発展は、国境を越えた交流をさらに容易にしただけでなく、世界の均一化を加速させてきたといえます。そこでこのブログラムでは、世界を国家中心に捉える見方を乗り越え、世界各地域の文化の多様かつ複合的なあり方を学ぶことで、文化交流について理解を深めることを目指します。まず、個別的な地域(日本、アジア、ヨーロッパ、ラテンアメリカ)に注目し、これらの地域の歴史や文化、宗教等を学び理解します。その上で各地域間の交流、つまり文化の多様性を尊重しつつ世界と共存していくための文化交流の歴史と現在について知識を広げ、洞察力を高めていきます。
人間環境	自然と社会の環境について学び、コミュニティや生活者の視点から、私たちの暮らしのあり方、調和のための条件などを理解し、他者との共生に貢献する能力を身につけます。 現代の人間を取り巻くさまざまな環境は、次第に画一的で均一なものになりつつあります。 それは、自然環境の破壊、地球温暖化、食の安全性の軽視、インターネットやメディアの社会的影響の拡大、少子高齢化などの問題として、私たちの生活に深く影響を及ぼしています。このプログラムでは、暮らしと地球環境、食の地産地消やブランド化、観光の促進、ソーシャルビジネス、メディアの多様化、福祉・格差問題など、私たちにとって身近な課題を、ローカルとグローバルの2つの視点で捉え考えます。 つまり、各テーマについての国際動向も学びつつ、私たちの環境や暮らしを見直し、社会の諸問題の解決策や改善策を新たな切り口で再考し、他者と共生できる社会を実現するための思考力と実践力を養います。

2014年度以降入学者は、プログラム制により学びたい領域を選び、3年次からの「専門演習」でテーマを深めていきます。履修の際には以下の5点に注意してください。

- 1. 語学の選択(インテンシブ・コースかスタンダード・コースかを含む) 語学は専門科目の履修と密接な関係があります。1年次前期・後期の語学の履修は、慎重に考えましょう(『語学科目ハンドブック』を熟読してください)。
- 2. 「導入演習」「研究入門(国際交流学部での学び)」

1年次前期に履修する国際交流学部の学びの基礎を習得する科目です。「導入演習」では、資料の探し方、 レポートの書き方、口頭発表の仕方などのアカデミック・スキルを学びます。「研究入門(国際交流学部 での学び)」では国際交流学科の学びの多様性を知ることができます。

3.「基礎演習」

自分自身が関心をもつ研究テーマについて、基礎的な知識や思考を深めるための演習科目です。少人数のゼミ形式で、議論や発表など自主的な学修を進めます。1年次後期から2年次後期まで各学期1単位、合わせて3単位を履修します。関心のあるテーマの科目を選んでください。

4.「専門演習」

3年次前期から履修が始まります。関心のある研究テーマを深め、4年間の学習の成果を「卒業論文」にまとめることを目指します。専門演習一覧 (p.152) や学科が配布する「専門演習履修の手引き」を熟

読し、各教員の研究テーマを参考に自分の研究にはどの「専門演習」が適切であるかをあらかじめ検討しておくことが望まれます。

5. 上記以外の専門科目の履修

自分の学習計画を充分に踏まえて目的に応じた選択をする必要があります。次の(1)から(3)に注意して履修しましょう。

(1) 基幹科目

1年次から2年次の間に学ぶ学科全体に共通する基礎知識を身につける科目で、合計12単位以上を修得しなければなりません。

(2) プログラム科目

2年次前期から3つのプログラムのうち希望のプログラムに所属します。各プログラムの科目には推奨科目があり、推奨科目6単位以上を含む合計20単位以上を修得しなければなりません。

(3) 実践科目

上記 (1) (2) の他に、専門分野を英語で学ぶ科目、研究のための調査方法を学ぶ科目、海外実習を通して国際交流の理解を深める科目など、知識を社会で活用するために必要なスキルを身につける科目もあります。

2013年度以前入学者

2013年度以前の入学者は、ABC 群に基づき、多角的な学修計画を立ててください。なお、ABC 群とプログラム制の科目対応表は別冊の『開講科目表』に掲載していますので、履修の進め方についてはプログラム制を参考にすることも可能です。また、4年間の個々の学修の成果をまとめる「卒業論文」は、アカデミック・アドバイザーのもとで作成します。

さらに、国際交流や研究にとって非常に大切な語学には、英語のほか初習外国語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語)の5言語にインテンシブ・コースが設けられ、少人数での徹底した語学教育が行われます。また、アジア、ヨーロッパ、オーストラリアにおける「現地実習」科目も用意されています。なお、2014年度以降入学者における履修の際の注意事項の1. ~4. (pp.146~147) は、2013年度以前入学者にも当てはまります。ただし2. に関連して、「研究入門」の未修得者は、3種類の「研究入門」から1つを選んで履修してください。

注意事項5. については配当年次に従って A・B・C 群から最低4単位以上、かつ合計32単位以上になるように修得しなければなりません。

1年次生の皆さんへ

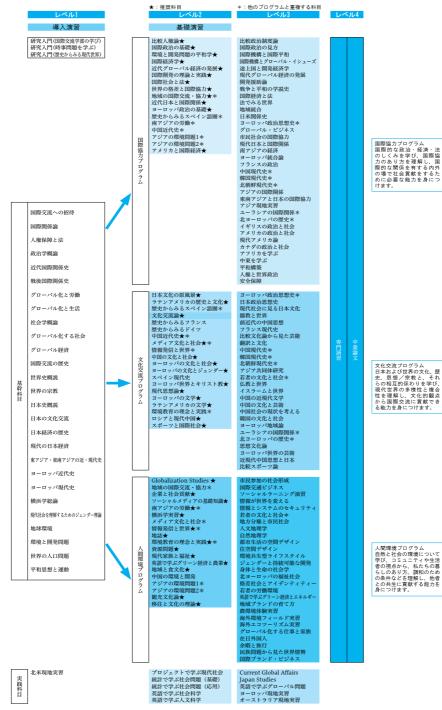
新入生が語学や専門分野を決めることは難しいかもしれません。そのような場合には、アカデミック・アドバイザー(1年次前期は「導入演習」、1年次後期および2年次は「基礎演習」担当者)に相談することができます。オリエンテーション時に配布される「くっきり、しっかり学びのレシピ〜国際交流学部学修便覧〜」も参考にして、体系的な履修になるよう心がけましょう。

4年間の国際交流学部での学生生活をとおして、主体的に学習に励み、幅広い知識を蓄え、地球上で日々 生起するさまざまな問題を地球市民の一員として考え、世界と未来に向けて平和と共生のメッセージを発信 する力を身につけてください。それが国際交流の原点であるからです。

また、資格取得を目指している人は、早めに計画を立ててください。学科専門科目と資格関連科目の時間 割が重複し、思うように履修できなくなる可能性があるので、1年次より計画的に履修しましょう。

なお、学生生活や学びに必要な情報は Ferris Passport で確認することができます。また、登校時と下校時には必ず掲示板を見て、自分にとって必要な情報をしっかりとキャッチしてください。

国際交流学科 カリキュラムマップ



レベル 学科が想定する標準的な難易度を表しています。 履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

専門科目の履修

2014年度以降入学者

国際交流学科では、2年次から国際協力、文化交流、人間環境の3つのプログラムから1つを選択し、選択したプログラムに沿って履修を進めていきますが、他の2つのプログラムの科目も履修することができます。

2013年度以前入学者

国際交流学科の専門科目は、A 群:地球社会、B 群:国際社会・文化、C 群:国際社会基礎理論の3 群によって構成されています。この3群は、コースではありません。したがって、どの群の授業科目も、自由に選択することができます。履修にあたっては、開講科目表(別冊)の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載を確認してください。

必修科目の「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「専門演習」については、次のとおり履修方法が定められています。

| 必修科目 | アカデミック・
アドバイザー | アカティン | アカデミック・
アドバイザー | アカデミック・
アドバイザー | アカデー | アカデミック・
アドバイザー | アカデミック・
アドバイ | アカデミック・
アドバイ | アカデー | アカー | アカー

1 年 次



*1 2013年度以前入学者は「研究入門」の中から 1科目を選択



2年次

前期
後期

「基礎演習」 1単位必修 1科目を選択 「基礎演習」 1単位必修 1科目を選択 担当者

後期「基礎演習」担当者が 3年次「専門演習」 の選択・決定の指導を行います。

「基礎演習」を2単位以上修得していることが「専

門演習」履修の条件となります。



3 年次

前期
後期

 「専門演習」 1単位必修 1科目を選択
 「専門演習」 1単位必修 1科目を選択
 担当者

同一教員が学生のアカデミック・アドバイザーと なり、授業科目履修及び研究の指導を行います。



4 年 次



「専門演習」	1単位必修	「卒業論文 ^{*2} (通年科目)	「専門演習」
「専門演習」	1単位必修	6単位必修	担当者

*2「卒業論文」のかわりにアカデミック・アドバ イザーの指定する国際交流学科専門科目6単位の 履修が認められる場合があります。この場合、4 年次の「専門演習」は選択となります。詳細は、 p. 153を確認してください。

必修科目及びプログラム選択の手続き及び履修

必修科目の手続きに関する案内、クラス指定、選考はすべて学科が行います。窓口は全て国際交流学部共同研究室です。

学科からの情報発信は FerrisPassport の掲示、8号館掲示板で行うので、各自で確認してください。

1. 手続き

手続き、履修登録については次のとおりです。

「基礎演習」「専門演習」は、提出された志望票に基づき学科が選考、調整を行います。

	申込み等手続	履修登録	提出先	選考
導入演習	指定されたクラスを履修するため、手続きは必要 ありません。	自動登録	_	なし
研究入門	研究入門 指定されたクラスを履修するため、手続きは必要 ありません。		_	なし
基礎演習	基礎演習 各学期に定められた期日までに志望票を提出 注意:同一担当者のクラスは1回のみ履修可。		国際研*	あり
専門演習	定められた期日までに志望票を提出	許可されたクラス が自動登録される	国際研*	あり
プログラム選択	グラム選択 定められた期日までに所定用紙を提出		国際研*	なし

* 国際研: 国際交流学部共同研究室

「基礎演習」及び「専門演習」の志望票未提出の場合

「基礎演習」:原則として次学期の履修は認められません。 「専門演習」:原則として3年次の履修は認められません。

なお、第1次選考で未決定となった学生を対象に第2次選考を行います。

正規の手続き期間内に志望票を提出しなかった者は対象外です。

2. 留学等の理由による「基礎演習」及び「専門演習」の規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び国内交流(同志社女子大学での国内留学)により、規定された履修年次・学期に 履修することができない場合のルールは次のとおりです。

	ルール
	(1) 1学期に2つ並行して履修することが認められます。
基礎演習	(2) 留学が決定した場合、留学の前の学期に「基礎演習」を2つ履修することも認められます。該当者は教務主任に申し出て指示を受けること。
	(1) 3年次履修分の「専門演習」を4年次に履修する者は、4年次前期または後期のいずれか1学期に限り、4年次履修分の「専門演習」と3年次履修分の「専門演習」を並行して履修することが認められます。
専門演習	(2) 3年次後期から4年次前期までの2学期にわたる留学等については、3年次前期分の「専門演習」と3年次後期分の「専門演習」を並行して履修すること等が認められます。該当者は教務主任に申し出て指示を受けること。なお、派遣・交換留学学期には卒業できません。

150 2017学生要覧

3. 再履修

必修科目の再履修の手続きは、学科の定めた期日に行います。詳細は国際交流学部共同研究室の掲示で確認してください。

(1) 導入演習

再履修は、国際交流学部共同研究室への手続きが必要です。

	ルール	
導入演習	各クラス3名を上限に受付を行います。	
(前期のみ)	語学科目、他の必修科目と時間割が重複しないように選択してください。	

(2) 研究入門

国際交流学部共同研究室への手続きは不要です。履修登録期間内に各自で登録してください。

入学年度	再履修科目
2014年度以降入学者	「研究入門(国際交流学部での学び)」
2013年度以前入学者	2013年度以前開講「研究入門 (1) ~ (23)」が未修得の場合、 「研究入門(国際交流学部での学び)」「研究入門(歴史から見る現代世界」 「研究入門(時事問題を学ぶ)」の3つの中から1つを選択してください。

(3) 基礎演習、専門演習

再履修は、国際交流学部共同研究室への手続きが必要です。

なお、再履修すべきクラスが複数ある場合、認められるルールは次のとおりです。

	ルール	
基礎演習 2年次・3年次生:1学期のみ2つ並行して履修することが認められます。 4年次生 : 前期、後期とも2つ並行して履修することが認められます。		
専門演習	3年次履修分の「専門演習」を4年次に履修する者は、4年次前期または後期のいずれか1学期に限り、4年次履修分の「専門演習」と3年次履修分の「専門演習」を並行して履修することが認められます。	

4. 「専門演習」の履修条件

(1) 前提

「基礎演習」を2単位以上修得していない者は、「専門演習」を履修することができません。 ただし、このルールは2年次編入学者には適用されません。

(2) 担当者

3年次の「専門演習」は、前期・後期とも同一担当者のものを履修しなければなりません。

5.「専門演習」のテーマ一覧

国際交流学科には、次の「専門演習」が設けられます。オリエンテーション時に配布する「専門演習履修の手引き」と併せて、4年間の履修計画を立てる上での参考としてください。

教 員 名	2017年度テーマ
朝倉三枝	近現代ヨーロッパの服飾文化
荒 井 真	リーガルマインドを身に付ける(法的議論の方法と法的知識を学ぶ)
泉谷陽子	近現代中国研究(中国の歴史と社会)
上原良子	ヨーロッパ国際関係とフランス
大 西 比呂志	横浜をフィールドとした地域学 (歴史のほか、国際交流、都市計画や町おこし、政治行政や生活環境、教育や芸術など 地域と関連する様々な分野が可能です)
大 野 英二郎	外国に行った日本人・日本に来た外国人
第 雅博	日本文化(現代日本社会のさまざまな状況もカバーします)
木 曽 順 子	開発途上国の貧困と発展
金 香 男	韓国の社会と文化
齊 藤 直	戦後日本の経済と経営
佐 藤 輝	地球環境問題
新 城 道 彦	日本と朝鮮半島の〈歴史〉と〈歴史認識〉
杉之原 真 子	グローバル経済と各国の社会・政治 ―― 日米を中心に
高 雄 綾 子	開発と環境の文化とメンタリティ
高 柳 彰 夫	国際開発協力研究
田丸理砂	ドイツ語圏の社会と文化 (ジェンダーの視点から)
知 足 章 宏	アジアにおける開発と環境問題 (政治・経済・社会・環境ガバナンス)
常岡(乗本)せつ子	基本的人権や平和などの憲法問題 (諸外国との比較や外国の研究者による日本研究を含みます)
寺 尾 隆 吉	スペイン語圏の芸術と文化
中 塚 次 郎	スペインならびに地中海世界の歴史と文化
原口尚彰	生命倫理の諸問題
春木良且	技術と社会 (プロジェクト学習で技術のトレンドをキャッチアップする)
ヒガ,マルセーロ	現在社会と移民 / ラテンアメリカを中心とした文化交流
福島仁	近現代中国の社会と文化
古 内 洋 平	PBL とシミュレーションで学ぶ国際関係
ベンヤミン ミドルトン	現代社会の社会学
矢 野 久美子 (2017年度休講)	(2016年度テーマ:ドイツ政治文化論・思想史)
和田浩一	国際社会におけるスポーツ・遊び・教育・文化
野田寛達	言葉から探る中国人の頭の中

152 2017学生要覧

「卒業論文」又は「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修方法について

4年次には卒業論文を執筆します。

ただし、卒業論文に代えて学科専門科目6単位の履修が認められる場合があります。この場合は3年次後期の所定の期日(12月初旬)までに、3年次アカデミック・アドバイザー(「専門演習」担当者)と相談の上決定し、手続きを行ってください。なお、手続きの詳細については国際交流学部共同研究室の掲示板で確認してください。

1. 手続き

入学年度	対象者	手続き方法
2014年度以降入学者	卒業論文に代わる6単位履修者のみ	アドバイザーから許可を受け 国際交流学部共同研究室に届出
2013年度以前入学者	全員	「卒業論文コース」「6単位コース」 いずれかを選択

2. 卒業論文を執筆する場合

(1) 専門演習の履修

4年次の「専門演習」は選択ですが、「卒業論文」を提出しようとする者は、4年次に「専門演習」を 履修しなければなりません。

(2) 履修手続き、提出方法

「卒業論文」(通年科目) は4年次に、大学で登録されるので、自分で登録する必要はありません。提出方法等については、pp.40~41を参照してください。

3. 卒業論文に代えて学科専門科目6単位の履修が認められた場合の手続き

(1) 科目の指定、指定対象除外科目

3年次アカデミック・アドバイザーが指定する国際交流学科専門科目6単位を、4年次の前期・後期にわたって履修しなければなりません。

ただし、「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目、履修者数制限科目、初回授業時選抜科目は指定対象除外科目ですので指定できません。

- (2) 科目指定手続き、履修登録方法
 - (1) で指定された科目の履修登録は各自で行います。ただし、その前に国際交流学部共同研究室に 指定科目を提出する必要があります。
- (3) 指定科目未修得時の再指定

4年次前期に指定科目の単位修得ができなかった場合は、9月アドバイザー面談でアカデミック・アドバイザーから再指定を受ける必要があります。再指定後の手続き等は(2)のとおりです。

(4)「卒業論文」から「学科専門科目6単位選択」への変更

4年次前期、後期開始前に変更が可能です。変更を希望する場合には学科(国際交流学部共同研究室)に申し出て必要な手続きをとってください。

履修上の注意(卒業延期者対象)

卒業延期が確定した学生のうち、次に該当する者は、卒業予定学期開始時に教務主任 (p.200) に申し出て指示を受けてください。追加登録または再指定が認められる場合があります。

- ① 卒業論文選択において「基礎演習」・「専門演習」の志望票未提出等の理由により履修登録が完了 していない。
- ② 6単位選択において成績評価が不合格となった等の理由により指定科目が未修得。

「現地実習」科目

現地実習科目には、「アジア現地実習(2)」「ヨーロッパ現地実習」、「オーストラリア現地実習」、「北 米現地実習」、「海外環境フィールド実習」、「海外エコツーリズム実習」があります。履修の流れ、手続き 等は p.44「海外短期研修」または海外交流課が発行する冊子「STUDY ABROAD」(当該年度発行)も 参照してください。

154 2017学生要覧

音楽学部

音楽芸術学科

演奏学科

音楽学部の人材養成目的

音楽の領域に関する高度の教育研究を行い、専門的な知識・能力・技術を身に付けた人材、 また音楽界を文化的、社会的な側面から多様に支える人材を養成する。

音楽芸術学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

音楽創造・音楽表現・音楽文化の領域における総合的な理解とともに、音楽で人と社会を結ぶための知識 やスキルの修得を主眼とし、音楽のジャンルを越えた多彩な学びの中で、幅広く社会で活躍する人材を養成 する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、音楽芸術学科の人材養成目的を 踏まえた以下の知識・能力・技能を身に付けた者に「学士(音楽)」の学位を授与する。

- (1) 幅広い教養と音楽創造、音楽表現、音楽理論、音楽の歴史、音楽文化に関する専門知識が身に付いている。
- (2) 国際化の時代に必要となる英語およびその他の諸言語の運用能力が身に付いている。
- (3) 歴史、社会、文化、宗教、表現、教育といった多様な側面から音楽を理解し、現代社会において音楽 に求められるニーズを発見・分析する能力が身に付いている。
- (4) 社会との懸け橋として音楽をとらえ、それを実践するために必要な行動力やコミュニケーション能力が身に付いている。
- (5) 地域社会の中での演奏活動、作品発表、演奏会の企画・制作・運営といった実践活動を通して、他者と協働・共生する能力が身に付いている。
- (6) 多様な音楽シーンで必要となる知識やスキルおよびコミュニケーション力により音楽と社会を結びつけ、新しい価値を見出す能力が身に付いている。

◆カリキュラム・ポリシー

音楽芸術学科では、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げた知識・能力・技能を修 得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

- (1)全学共通の教養教育における多彩な科目を通して、幅広い教養を身に付ける。また専門教育については、1年次にアカデミック・スキルを身に付ける「基礎演習」、2年次に「応用演習」を履修し、3~4年次には「専門ゼミ」に所属することにより専門性を追及する。さらに、これらに並行して音楽の基礎知識に関する科目、実技の基礎スキルを身に付ける科目を1、2年次で修得できるよう編成する。加えて2年次から4年次にかけては専門分野を幅広く学ぶために「ミュージシャンシップを高める」、「音楽の背景を探る」、「社会実践コミュニケーション」の科目群を置く。また併せて音楽指導者に求められる実技スキルを身に付けるための科目を3、4年次対象に開講する。また、自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。
- (2) 幅広いジャンルの音楽に対する理解を深め、国内にとどまらない制作および企画運営への参加を実現するため、全学共通の英語および初習外国語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語)科目により、基本的な言語運用能力を身に付けさせる。その際、学生は3つの語学コース(スタンダード・コース、英語インテンシブ・コース、初習外国語インテンシブ・コース)から選択することができる。
- (3) 少人数演習形式によるアカデミック・スキルを身に付ける「基礎演習」(1年次)、「応用演習」(2年次)、専門を高める3、4年次「専門ゼミ」を必修として課し、専門知識・スキルによる課題発見・解決力の向上を図る。
- (4) 音楽表現で必須となる共演、集団表現、集団制作に関連する科目を編成し実社会とつながる機会を設け、コミュニケーション能力の向上を図る。

156

- (5) 異なる文化的、社会的価値観をもつ他者を理解し、ともに創造・制作活動を行うことにより、他者との恊働・共生能力の向上を図る。このためにワークショップ科目や学外で作品発表、演奏といったアウトリーチ活動を行う科目(「海外音楽研修」、「学外公開発表」)を置く。
- (6) 音楽を中心とした様々な表現(演奏、演劇、映像など)を教室内外・学内外で実践することにより、 外部とのインタラクティブな応答を経験し、新たな価値を発見・創造することができるような授業科 目を開講する。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

卒業に必要な単位数

2017年度以降入学者

	科目区分		単位	数	備考	参照
共通	CLA コア科目	キリスト教	科目 4	4	「キリスト教 I」2単位、「キリスト教 I」、「キリスト教II」、「キリスト教IV」から2単位、キリスト教科目以外から4単位、合計8単位以上	*1
712	語 学		8	3	英語科目2単位必修	*2
		1群	4	1	1群から4単位以上	
		2群	2		2群から2単位以上	
車	選択必修	3群 - かつ合計				
1	进 状必修	4群	2) 34単位 以上	4群から2単位以上	
門		5群	2		5群から2単位以上	
		6群	4)	専門ゼミ I ~Ⅳを各1単位、合計4単位	
	卒業プロジェクト		6	6		
	その他 68		8	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(上限:*2のとおり)・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:8単位まで)		
	合 計		12	24		

2016年度以前入学者

	科目区分		単位	数数	備考	参照
共	基礎教養	2)	「キリスト教 I」 2単位	*1
	総合課題		2	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位	*1
通	語 学		8	3		*2
		1群	4	1	1群から4単位以上	
		2群	2		2群から2単位以上	
車	選択必修	1 28= - 11	かつ合計 34単位			
*		4群	2	以上	4群から2単位以上	
門		5群	2		5群から2単位以上	
		6群	4)	専門ゼミ I ~Ⅳを各1単位、合計4単位	
卒業プロジェクト 6						
その他 72		2	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(上限:*2のとおり) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:8単位まで)			
	合 計		12	24		

158 2017学生要覧

*1	②017年度入学者 「キリスト教 I 」 2単位、「キリスト教 II ~ IV」から2単位、キリスト教科目以外から4単位、計8単位が必修です。 FERRIS ⁺ 実践教養探求課程の修了に必要な単位は p.55を見てください。 ②016年度以前入学者 「キリスト教 I 2単位、「キリスト教 II ~ IV から2単位、計4単位が必修です。
*2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。 なお、語学の履修方法は、pp.84~91を見てください。
	外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.92を参照してください。 ①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」から10単位

3年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に62単位を修得することが卒業要件となります。ただし、「キリスト教 I \sim IV」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。 (p.63「キリスト教関連科目」参照)

編入学者の卒業に必要な単位数

	科目区分	単位数	備考	参照
共	基礎教養 総合課題	4	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」 から4単位	
通	語 学	-	語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として 認められます。	前頁 *2
専	選択必修	4	6群から4単位: 「専門ゼミ I ~Ⅳ」を各1単位、合計4単位	
門	卒業プロジェクト	6		
	その他	48	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目 (上限:前頁*2のとおり) ・選択必修科目として規定された以上に専門科目から選択した科目・ 他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目・ ・1教職に関する科目」のうち、卒業要件算入可能な科目 (上限:8単位まで)	
	合 計	62		

カリキュラムの説明

音楽芸術学科が目指すこと

2005年に創設された音楽芸術学科は、多様化する21世紀のニーズに合わせ「社会とつながる」視点で音楽を学び実践し、これを広く文化や社会の文脈で捉えながら研究をする学科です。そして、現代社会における様々な音楽シーンで活躍できる人材の育成を目指しています。

音楽芸術学科に学ぶ学生は、1) 新時代の音楽文化を切り拓く表現者、2) 音楽文化を支える企業人、3) 音楽愛好者の裾野を広げる音楽指導者など、各人の将来像を描きつつ、幅広い選択肢の中から3年次以降に所属するゼミを見据え、その基礎となる科目を選択していきます。

カリキュラムの構成及び特徴

音楽芸術学科は多様な分野に対応して2年次から学科特有の科目を多く準備しています。それらは3年次から始まる専門ゼミの準備科目として学生が選択できるようにもなっています。そしてカリキュラム全体は学習分野に応じて7つのグループ (群) に分かれています。

第1群「ミュージシャンシップを養う」

音楽を学ぶ上での不可欠な基礎理論・基礎実技を学びます。

第2群「キリスト教音楽を体験する」

本学建学の理念であるキリスト教についての理解を、音楽を通して深めます。

第3群「ミュージシャンシップを高める」

第1群で養った音楽性をさらにスキルアップ。音楽家としてより高度な実践と応用の技術を身につけます。 第4群「音楽の背景を探る」

音楽の背景を、歴史・理論などの観点から深く学ぶための科目です。

第5群「社会実践コミュニケーション」

キャリア設計を視野に入れた、現代的な内容の多彩な科目から構成されます。

第6群「専門を深める」

「基礎演習」から「応用演習」を経て「専門ゼミ I ~IV」へとつながります。1,2年次で自分の興味を絞ってゆき3,4年次で所属ゼミへと進みます。

第7群「専門を極める」

卒業プロジェクトを仕上げます。卒業プロジェクトには「卒業論文」または「卒業制作及び副論文」の 2タイプがあります。どちらの形で発表することにしても、専門ゼミでの学びと連動して自分のプロジェクトを完成させていきます。

4年間の履修の指針

自由度の高いカリキュラムが学科の特徴なので、そのメリットを生かすように履修計画を立ててください。 1年次では1群の科目を中心に音楽的基礎力をまず身につけ、2年次では3~5群を中心に、幅広い分野の専門科目を履修しましょう。将来入りたいと思っているゼミに関連した科目にチャレンジしてみるのもよいでしょう。そのほか1~2年次では、フェリスでの学びの基礎とも言えるキリスト教科目や語学科目を履修します。「語学」の中でも、特に英語は将来どのような分野でも不可欠であり、英語教育に優れている本学で英語を学べることは、大きなメリットです。さらに共通科目「CLAコア科目/基礎教養・総合課題科目群」には、「情報リテラシー」や「キャリア・デザイン」「女性学」に関する科目があり、これらを通して就職時にも役立つ知識を得ることができます。また、他学部の授業が少なからず音楽学部にも開放されており、それらを履修することもできます。こうした他学部との接点を持っていることも、「音楽大学」とは違う、総 合大学としてのフェリスの強みといるでしょう。

3~4年次は学生それぞれが希望する専門ゼミに所属し、1~2年次に培った専門性をさらに深めます。音楽芸術学科の専門ゼミは、7つの多様な分野で構成されており、音楽理論を学んで創作にチャレンジする「作曲・編曲ゼミ」、声によるコミュニケーションの可能性を探求する「ヴォーカル・コミュニケーション・ゼミ」、音楽の情報発信に必要な実践的能力を高める「音楽ジャーナリズム・ゼミ」、実際の作品制作を通じて映像と音楽の組み合わせの可能性について学ぶ「映像と音楽による表現ゼミ」、ポピュラー音楽を理論と実践の双方から学ぶ「ポピュラー音楽・ゼミ」、様々な活動をとおしてコンサートマネージメントを実践的に学ぶ「共演コミュニケーション・ゼミ」、新しいメディア・テクノロジーの可能性を探求する「音とメディアテクノロジー・ゼミ」の中から選択します。

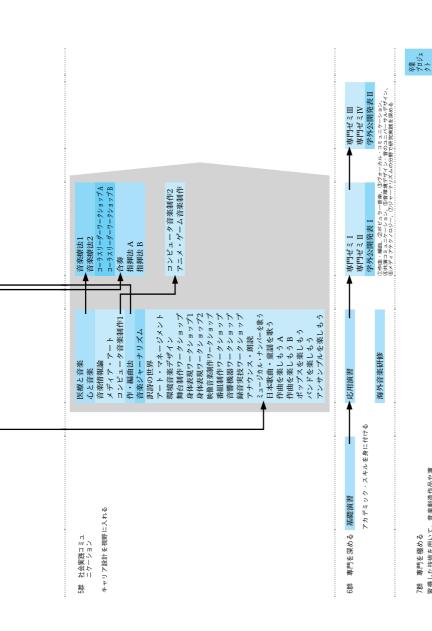
卒業に必要な124単位を大学に在籍する4年の間にバランスよく振り分けるように履修計画を立てて下さい。また、入学したばかりで専門ゼミの分野がよくわからないという人は1~2年次に多様な科目にチャレンジして自分の専門分野を探してみて下さい。選り好みをせずチャレンジしてみると意外と自分では気づかなかった得意分野が見つかるかもしれません。心を自由にして挑戦してみてください。もちろん心に決めたゼミがあってその分野の周辺科目を極める、というのも悪くはありません。そして何よりも大切なのは4年間という時間を無駄にせず、貪欲に勉強することです。

未来は自分の中にあります。チャレンジャーとして「音楽で社会とつながる」にはどうすればいいのか、 また大学で音楽を学ぶことの意味は何なのかを考えつつ、楽しく一生懸命勉強してください。音楽を学ぶこ とで得る様々な技術や能力は、みなさんが思っている以上の力となり、将来様々な場面で発揮されることに なるでしょう。

カリキュラムマップ

音楽芸術学科

カリキュラム・マップ



2017学生要覧

レベル* 学科が想定するレベル (職易度)です。1:導入、2:基礎、3:発展、4:卒業論文等を表しています。履修登録口能な年次は、開講科目表のとおりです。

習得した技術を用いて、音楽創造作品や演 奏表現によって伝えたいことを表現できる。

163

履修の准め方

専門科目の履修

1. 「基礎演習」「応用演習」

「基礎演習」は1年次、「応用演習」は2年次に全員が履修する科目です。

履修する学期については、学科が決定します。原則として変更は認められません。

「基礎演習」「応用演習」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度に再履修することになります。各自、 学期始めの履修相談で学科教務委員の指示を受けてください。

2.「専門ゼミI~IV」について

- (1)「専門ゼミⅠ・Ⅱ」: 3年次に履修
 - ① 選考:所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考、決定します。選考の詳細は2年次後期開始後に発表します。
 - ② 再履修:「専門ゼミ I・Ⅱ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「専門ゼミⅢ・IV」と 並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。
- (2)「専門ゼミⅢ・Ⅳ」: 4年次に履修
 - ① 所属ゼミは原則として3年次の「専門ゼミ $I \cdot II$ 」と同一担当者とし、その担当者のもとで卒業プロジェクトのための指導を受けることとします。
 - ② 再履修:「専門ゼミⅢ」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「専門ゼミⅣ」と重複して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。
- (3) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に「専門ゼミ」を履修することができない学生については、3年次履修分の「専門ゼミ」と4年次履修分の「専門ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

3. 海外・学外における演奏活動に対して単位が与えられる授業科目

海外・学外における演奏活動、論文や作品の発表、音楽療法、演奏会等の企画・制作・運営等の実習に 対して単位が与えられる科目は次のとおりです。

履修する学生はシラバスを参照の上、手続を行うこと。

授業科目名	内 容	履修年次
「海外音楽研修」	海外における音楽コンクールや講習会、 公開レッスン参加等	1~4年次生
「学外公開発表 I ・ II 」	学外におけるプロジェクト (作品・論文・演奏) の発表	3・4年次生

4. 卒業プロジェクト

卒業プロジェクトは、4年次に提出することとします。卒業論文等の題目提出時に、卒業論文もしくは 卒業制作のうちいずれか一方を選択しなければなりません。また、原則として題目提出後の変更は認めら れません。卒業論文および卒業制作として認められるものには、それぞれ必要となる要件が定められてい ます。要件などの詳細に関しては、掲示等に留意してください。

なお、「卒業プロジェクト」(通年科目)の履修登録は大学が行います。提出方法等については、pp.40 ~41を参照してください。

演奏学科



◆人材養成目的

西洋伝統音楽の型を学び、その本質と文化的・歴史的な背景に対する理解を深め、確かな演奏技術と豊かな表現力を修得させ、その過程で養われる人間力によって、広く社会に貢献する実践的な人材を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、演奏学科の人材養成目的を踏ま えた以下の知識・能力・技能を身に付けた者に「学士(音楽)」の学位を授与する。

- (1) 幅広い教養と音楽の本質と文化的・歴史的な背景に関する専門知識と、演奏技術、表現力が身に付いている。
- (2) 国際化の時代に必要となる英語およびその他の諸言語の運用能力が身に付いている。
- (3) 芸術作品と向き合い、そこに込められた意図を正しく読み取り、解釈することができる。また作品解釈を演奏表現する過程の経験において、演奏における課題の発見と、それを解決する表現能力が身についている。
- (4) 演奏活動を通して、他者・社会とコミュニケートできる能力が身に付いている。
- (5) 学内・学外における様々な作品の発表及び演奏活動を通して、他者と協働・共生することができる能力が身に付いている。
- (6) 芸術作品及び演奏技術を多面的に学び、創造力を醸成することにより、新しい価値を見出すことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

演奏学科では、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げた知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

- (1) 全学共通の教養教育における多彩な科目を通して、幅広い教養を身に付ける。また、専門教育については、4年間を通じて週1回の専攻実技レッスンを中心として構成しており、レッスンと補完しあう科目として、まず初年次には演奏学科での学びの方向性を示す「導入セミナー」をはじめとする科目群「基礎を身に付けよう」が置かれ、続いて「ステージ経験を積もう」「アンサンブルを極めよう」「レパートリーを築こう」「知識を深めよう」「教える技術を身につけよう」「PA 科目(表現の幅を拡げよう)」の各科目群が設置されている。各科目群から選択して学ぶシステムの採用により、過不足のない専門知識の修得を図るとともに、演奏技術や表現力を身に付けることが容易になる。また、自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。
- (2) 英語を中心とした外国語運用能力は音楽作品を研究する際に必須であり、国際的な演奏表現の場における共演を実現可能にするための重要な能力である。そのため、全学共通の英語、初習外国語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語)科目およびイタリア語により、基本的な言語運用能力を身に付けさせる。その際、学生は3つの語学コース(スタンダード・コース、英語インテンシブ・コース、初習外国語インテンシブ・コース)から選択することができる。
- (3) すべての学科生が4年間を通じて受ける週1回の専攻実技レッスンや小編成のアンサンブルの授業科目等により、課題発見・解決能力の向上を図る。
- (4) 学内・学外での数多くの演奏・ステージ経験を積むことにより、音楽を通じて社会とコミュニケートし、

よりよい社会の創造に貢献する。

- (5) 複数の教員による多面的な指導を通して幅広い視野をもつことや、アンサンブルの授業によるさまざ まな楽器との共演において協調性を身に付けることにより、他者との協働・共生能力の向上を図る。
- (6) 実技能力向上のための努力の過程を通して、学習前とは違う観点および価値観によって自らの演奏表 現、作品解釈を俯瞰し、芸術的な創造の意識を得ることができる。新たな価値を産み出すことができ るよう、4年間の一貫した専攻実技レッスン科目を置く。その一方で新たな視角での気づきを得るため に、多面的な指導を可能とする複数教員による実技指導ができる科目編成とする。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準につい ても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けて いる。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の 教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

166

卒業に必要な単位数

2017年度以降入学者

	科目区分	単位数	備考	参照
共	CLA コア科目	キリスト教科目 4 4	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位、キリスト教科目以外から4単位、合計8単位以上	*1
通	語 学	8	英語科目2単位必修	*2
		1	「導入セミナー」	
	必修	2	「2年次修了公開演奏」	
		4	「卒業公開演奏」	
_			1群から24単位	
専			2群(「導入セミナー」を除く)から6単位以上	
門			3群(「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」を除く)から1単位以上	
	選択必修	39	4群から2単位以上	
			5群から2単位以上	
			6群から2単位以上	
			7群から2単位以上	
	その他	62	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科 目(上限:*2のとおり) ・選択必修科目として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件算入可能な科目(上限: 8単位まで)	
	合 計	124		

	科目区分	単位数	備考	参照
基礎教養		2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位	*1
通	語 学	8		*2
		1	「導入セミナー」	
	必修	2	「2年次修了公開演奏」	
		4	「卒業公開演奏」	
			1群から24単位	
専門		39	2群(「導入セミナー」を除く)から6単位以上	
			3群(「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」を除く)から1単位以上	
	選択必修		4群から2単位以上	1
			5群から2単位以上	1
			6群から2単位以上	
			7群から2単位以上	
	その他	66	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(上限:*2のとおり)・選択必修科目として規定された以上に専門科目から選択した科目・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目・「教職に関する科目」のうち、卒業要件算入可能な科目(上限:8単位まで)	
	合 計	124		

2011~2013年度入学者

	科目区分	単位数	備考	参照
共	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」から2単位	*1
通	語 学	8		*2
	.N. M e	3	「2年次修了公開演奏」	
	必修	6	「卒業公開演奏」	
			「専攻実技レッスン」から24単位	
専	選択必修		「ソルフェージュ」群から4単位以上	
門		46	「アンサンブル科目」群から6単位以上]
		40	「演奏研究」群から8単位以上]
			「キリスト教音楽」群から2単位以上	
			「からだエクササイズ」群から2単位以上	
	その他	57	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(上限:*2のとおり) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限:8単位まで)	
	合 計	124		

	2017年度入学者 「キリスト教 I 2単位、「キリスト教 II ~ IV から2単位、キリスト教科目以外から4単位、計8単位が必修です。
*1	FERRIS 実践教養探求課程の修了に必要な単位は p.55を見てください。
	2016年度以前入学者
	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ~IV」から2単位、計4単位が必修です。
*2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。 なお、語学の履修方法は、pp.84~91を見てください。
	外国人留学生は、左記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.92を参照してください。
	①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学年日本語」から10単位

168 2017学生要覧

3年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に62単位を修得することが卒業要件となります。ただし、「キリスト教 I \sim IV」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。(p.63「キリスト教関連科目」参照)

編入学者の卒業に必要な単位数

	科目区分	単位数	備考	参照
共	基礎教養 総合課題	4	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅲ」、「キリスト教Ⅳ」 から4単位	
通	語 学	-	語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。	前頁 *2
専門	選択必修	12	「専攻実技科目」から12単位: 「専攻実技Ⅲ A」3単位、「専攻実技Ⅲ B」3単位 「専攻実技Ⅳ A」3単位、「専攻実技Ⅳ B」3単位	
' '	卒業公開演奏	-6- 4		
	その他	42	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目 (上限: *2のとおり) ・選択必修科目として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・1 教職に関する科目」のうち、卒業要件算入可能な科目 (上限:8単位まで)	
	合 計	62		

カリキュラムの説明

演奏学科がめざすこと

数ある学問の中で、芸術は特殊な位置づけと役割を持ちます。特に演奏は、行為と同時に音が消えてしまう「再現芸術」です。なぜこのような、一見すると実生活では何の役にも立たないようなことを、わざわざ時間をかけて学ぶ必要があるのでしょうか。

人は芸術がなくても最低限の生活を営むことができます。しかし、人間が自己の利益を追求するだけでなく、他者への思いやりに満ちた潤いのある社会を構成するためには、自らの精神に常に豊かな栄養を与え、他者と高次元でコミュニケートできてこそ、真の人間らしさや生きがいを持つこともできるのです。

古今の名作曲家たちが残してくれた楽譜を通して全人類の財産ともいえる芸術作品と向き合い、そこに込められた意図を正しく読み取るためには、幅広い教養や豊かな想像力が必要であり、また、解釈したことをイメージ通りの音楽にするには、高度な演奏技術や創造力が不可欠です。このような修業は4年では全く足りないのですが、4年間のなかで、演奏を意識的に、かつ集中して学ぶことにより、まずは自己を高めていくための方法を見つけていきましょう。将来的にも自分に栄養を与え続け、学びの成果を活かした社会貢献を実現する人に成長してほしいということが、演奏学科の願いです。

カリキュラムの特徴および構成

演奏学科のカリキュラムは、まず1・2年次で基礎を学び、3・4年次ではその学びを応用しつつ、さらに 学習を発展させることができるように組まれています。また、カリキュラムの全体を見通せるよう、内容と 目的に即した8つの群に分けられています。

第1群 **専攻実技個人レッスン**は、演奏学科生が1年次前期から4年次後期までの4年間をとおして履修する科目です。それぞれの担当教員が、学生のレベルに合った個人指導を行います。各学期末に行われる実技試験では、複数の学科教員から演奏についてのコメントや学習へのアドヴァイスを受け取ることができます。試験の課題についても、各自の成長段階に応じた曲が選べるように配慮されています。

第2群 基礎を身につけようでは、演奏に必要不可欠な基礎能力の習得を目指します。1年次の前期に行われる「導入セミナー」では、図書館や情報センターの利用方法を始め、楽器との付き合い方、楽譜の読み方、身に着けるベきステージマナー等、本学科での学びの方向性を一望することができるでしょう。「和声」と「ソルフェージュ」は、一言でいえば音楽家の耳を鍛える科目です。ソルフェージュではプレイスメントテストによる能力別で、少人数クラスに分かれて授業が行われます。意識して訓練することによって、音楽的能力を上げていきましょう。「演奏のためのからだづくり」では、演奏する際に心身をリラックスさせておけるよう、脱力のテクニックや呼吸法を身につけます。「合唱」はアンサンブルの基礎中の基礎です。

第3群 ステージ経験を積もうでは、必修科目の公開演奏と自由参加の演奏会があります。「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」は必修科目の公開演奏で、各学期の実技試験期間に行います。「2年次修了公開演奏」は中間地点での学習成果、4年間の学習の総括として「卒業公開演奏」を行います。必修科目の他にも、実技試験で良い成績を修めたり、各種オーディションに合格することで、さまざまなステージの経験を積む機会が広がります。本番での経験は、そのチャンスを得るべく努力することを含めて、上達へのジャンプ台のようなものです。ぜひ最大限に利用してください。

第4群 アンサンブルを極めようでは、専攻と目的に応じて参加できる小編成アンサンブル科目が複数設けられています。他者と息を合わせて何かを成し遂げる作業は、自分の出している音や音楽の表情を客観的に聴く能力の向上に非常に役立つものであり、演奏の醍醐味を味わうための早道であると同時に、フェリスの教育理念である共生の意識を体現・体感できる大切な機会です。

第5群 レパートリーを築こうでは、自分の視野とレパートリーを拡げ、様々な時代の楽曲に接することができるよう、声楽・ピアノ・弦楽・管楽・バロック鍵盤音楽の各レパートリー、「オペラ演習」「オラトリオ演習」「キリスト教オルガン音楽実践」が開講されてあり、専攻楽器(声楽・ピアノ・弦楽・管楽・バロッ

ク鍵盤音楽)、時代や種目等、様々な角度から分類されています。また、試験にて特に優れた成績を修めた 学生に対しては、演奏能力をさらに高めるために、希望する複数の教員から特別個人レッスンを受けること ができる「演奏アドヴァンスト」があります。第5群までは、実践・演習中心の科目群で構成されています。

第6群 知識を深めよう群では、理論や知識の習得を目指します。重要な科目が網羅されていますが、中でも「キリスト教音楽概論」「キリスト教オルガン音楽研究」は、ヨーロッパの音楽のルーツを知り、理解を深める科目であり、フェリスの特質をいかんなく発揮できる科目と言えます。

第7群 **教える技術を身につけよう**では、学ぶ立場から、教える立場へ移行した時に必要となる知識や技術を身につけるための授業が用意されています。教える仕事を選択しない場合でも、すべての演奏家は自分自身の最良のコーチとなる必要があります。音楽の学びを体系的に考えてみることで、客観的な切り口から音楽の学びをとらえることとなり、結果として自身の演奏の上達に繋がります。

第8群 **PA科目**では、専攻外の多岐にわたる楽器を副科として、個人、またはグループサイズで学ぶことができます。ただし、8群の科目はすべて実技料が別途発生します。

4年間の履修の指針

緑園校舎で過ごす1・2年次では、カリキュラムに沿って音楽的な基礎能力を高めましょう。演奏学科の 専門科目はレベル別ではなく、科目の性質別に群分けがされています。第2群 基礎を身につけようから履 修する6単位は、この2年間のうちに修得することが望ましいです。第3~7群からは、専攻楽器や各自の目 的に合わせて、1・2年次はレベル1~2、3・4年次はレベル3~4の科目を中心に履修してください。なお、 3年次以上の学年を対象とした専門科目は、基本的に山手で展開されています。校舎の移動が負担にならな いように、緑園で開講されるキリスト教科目、語学、専門科目、教職科目(希望者)等の履修については、 1年次から履修計画を立てておくことをお勧めします。

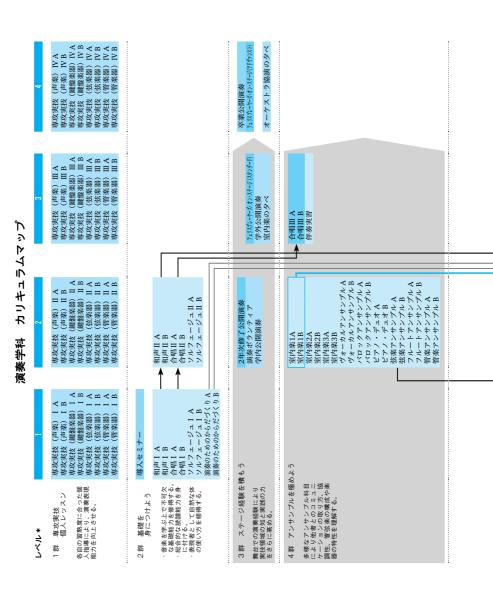
また、総合大学で学べることの利点を生かして、学習の興味の対象を広げましょう。社会人として身につけておきたい基礎教養・総合課題科目、他学部・他学科が開放している多様な科目を、自身のニーズに合わせて履修することができます。語学の学びが大層充実していることも本学の特徴です。言語には、その言葉を使う人々の歴史が凝縮されています。外国語を深く学ぶことは、留学や遊学に役立つだけでなく、他者への理解を深めること、つまり、音楽家としては作曲家との距離を縮めることに繋がります。

在学期間の後半である3年次から4年次にかけては、有無を言わさず人生設計の判断を迫られます。入学 当初から心置きなく時間をかけて学習に励み、健全な精神と判断力、そして十分な体力を養ってください。

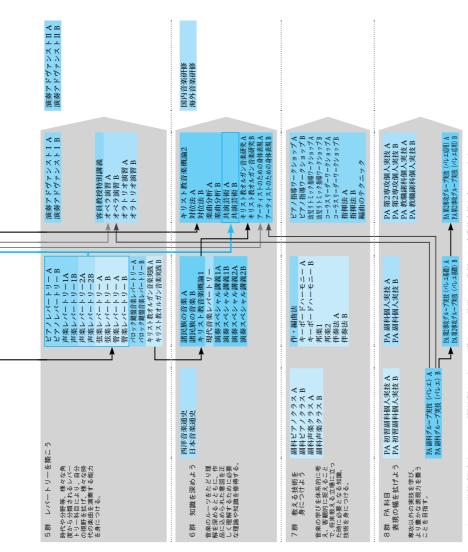
2011~2013年度入学者

2013年度学生要覧を参照してください。

171



172 2017学生要覧



レベル* 学科が想定するレベル (難易度) です。1:導入、2:基礎、3:発展、4:卒業論文等を表しています。 履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

専門科目の履修

1. 実技レッスンについて

履修の進め方

音楽学部演奏学科で開講されている実技レッスン科目は以下のとおりです。

(1) 必修

科目名	時間数	実技料	履修手続
専攻実技 I A~IV B	45分×15回※	なし	申込時期:履修登録期間 各自 FerrisPassport で履修登録。

※ 授業回数15回の中に、実技試験も含まれます。

再履修の方法について

音楽学部教務委員の指示に従ってください。

なお、演奏学科生が「専攻実技 I A・B~IV A・B」を再履修する場合、再履修料として1科目につき 100,000円を納入しなければなりません。

(2) 選択必修

科目名	時間数	実技料	履修手続
演奏アドヴァンスト I A,B	15分×15回※	なし	申込時期:履修学期の前学期 ※新入生を除く 受付場所:音楽学部共同研究室
演奏アドヴァンスト II A,B	15分×15回※	なし	詳細は掲示を確認してください。 履修登録は大学が行います。

(3) 選択

科目名	時間数	実技料	履修手続	
PA 初習副科個人実技 A, B	15分×15回	50,000円	申込時期: (前期) 履修登録期間 (後期) 履修学期の前学期 受付場所:音楽学部共同研究室 詳細は掲示を確認してください。 履修登録は大学が行います。	
PA 副科個人実技 A, B	30分×15回	100,000円	申込時期:履修学期の前学期 受付場所:音楽学部共同研究室	
PA 教職副科個人実技 A, B	15分×15回	50,000円	詳細は掲示を確認してください。 履修登録は大学が行います。	
PA 第2専攻個人実技 A,B	45分×15回※	150,000円	申込時期:2年次後期 後期実技試験期間にオーディションを実施。詳細は掲示を確認して ください。 履修登録は大学が行います。	
PA 副科グループ実技 A,B(バレエ)	90分×15回	30,000円	47 mm . EW	
PA 第2専攻グループ実技 (バレエ基礎) A,B	90分×30回	60,000円	申込時期:履修学期の前学期 ※新入生を除く 詳細は掲示を確認してください。	
PA 第2専攻グループ実技 (バレエ応用)A,B	90分×45回	90,000円	履修登録は大学が行います。	

実技レッスンの出欠席について

① レッスン受講時

「レッスン受講票」の学生サイン欄には、必ず毎回のレッスン受講ごとに日付を確認してサインを 記入してください。

② レッスンをやむを得ず欠席する場合

必ず事前にレッスンの開講されている校舎の音楽学部副手室(緑園5号館)または音楽学部共同研究 室(山手8号館)に連絡し、同時に担当教員にも連絡してください。

③ レッスンの休講

FerrisPassport に掲示されます。直接担当教員から連絡を受けた場合は、休講掲示を確認し、掲示がない場合は音楽学部共同研究室(山手8号館)又は教務課で確認してください。

2.「導入セミナー」

1年次前期に全員が履修する必修科目です。

「導入セミナー」の成績評価が不合格となった場合は、翌年度の前期に再履修することになります。

3.「2年次修了公開演奏」

2年次後期に全員が履修する必修科目です。

(1) 実施期間

後期の実技試験期間中に公開演奏会として行います。日程等詳細は掲示により通知します。

- (2) 注意事項
 - ・「実技試験受験上の注意」に準じます。(p.177「実技試験」参照)
 - ・履修登録は大学が行います。
- (3) 再履修

修得できなかった場合には、再履修の方法について、学科教務委員の指示を受けてください。

4. ステージ経験を積もう

「ステージ経験を積もう」の科目は以下のとおりです。 履修する学生はシラバスを参照の上、手続きを 行ってください。

科目名	単位	対 象	履修年次
「室内楽の夕べ」	2	オーディションで選抜された者※	34
「オーケストラ協演の夕べ」	3	オーディションで選抜された者※	4
「学内公開演奏」	1	履修希望者	234
「学外公開演奏」	1	履修希望者	34
「演奏ボランティア」	1	履修希望者	234
「フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ [スタンダード]」	2	「演奏アドヴァンスト I A,B」「演奏アドヴァンスト II A,B」 履修者のうち、学科で定める	34
「フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ [アドヴァンスト]」	3	ンストII A,B 履修者のうら、子科で定める 条件を満たした者	4

※オーディションの詳細は要項(音楽学部共同研究室備付)を参照してください。

5.「伴奏実習」

声楽・器楽の専攻実技レッスン(専攻実技 IA ~IV B)に通算14回伴奏者として同伴し、学期末の専攻 実技試験またはオーディションでの伴奏において評価を受ける科目です。具体的な伴奏の進め方、履修方 法についてはシラバスの指示に従うこと。

6. 学外での研修の成果に対して単位が与えられる授業科目

国内・海外の音楽コンクールや音楽講習会等の研修の場への参加およびその成果を、単位として認定するものです。 履修を希望する学生はシラバスを参照のうえ、必要な手続を行ってください。

科目名	内 容	履修年次
「国内音楽研修」	国内における音楽コンクールや講習会への参加	1234
「海外音楽研修」	海外における音楽コンクールや講習会への参加	1234

7. 専攻楽器等変更について

専攻楽器等の変更を希望する場合は、「演奏学科専攻楽器等変更願」(教務課備付)をもって、所定の期日までに願い出なければなりません。学科の判断により、変更が認められることがあります。ただし、願い出が可能な対象は次のとおりです。

選択楽器等	願い出提出時
ヴァイオリン→ヴィオラ ヴィオラ →ヴァイオリン	原則として1年次生または2年次生に限る
その他の選択楽器等変更	原則として2年次生に限る

提出窓口	教務課
提出締切日	2017年10月31日 (火)

8. 「卒業公開演奏」

(1) 履修登録

「卒業公開演奏」は、通年科目です。履修登録は大学が行います。

(2) 実施形態

卒業公開演奏は、「卒業試験公開演奏会」として行います。

(3) 注意事項

卒業公開演奏に関する諸事項は、「実技試験受験上の注意」に準じます (p.177「実技試験」参照)。 ただし、担当教員が認めた場合、副手を伴奏者とすることができます。

(4) 日程

「卒業公開演奏」曲目提出届 提出期間	2017年11月13日(月)~17日(金)	
「卒業試験公開演奏会」日程	2018年1月31日 (水)・2月1日 (木)	

なお、2017年度9月卒業を希望する者の実施期間は次のとおりです。

0日太娄尧切孝の「太娄小朋宏志」口和	前期実技試験期間中 (2017年7月28日 (金)・29日 (土)・
9月卒業希望者の「卒業公開演奏」日程	31日(月))に実施

実技試験等

1. 実技試験

実技試験の課題曲発表、試験順番発表等は掲示により行います。

(1) 実技試験該当科目

実技試験期間中に学期末試験を行う科目は、以下のとおりです。

科目名

専攻実技IA・B、IIA、IIIA・B、IVA 2年次修了公開演奏、卒業公開演奏

副科声楽クラス A.B

演奏アドヴァンスト I A,B、演奏アドヴァンスト II A,B

PA 第2専攻個人実技 A.B

(2) 実技試験に関わる日程・手続き

【実技試験期間・会場】

	期間	会 場
前期実技試験	2017年7月28日 (金)・29日 (土)・31日 (月)	山手校舎
卒業試験公開演奏会(卒業公開演奏) 4年次対象 後期実技試験	2018年1月31日 (水)・2月1日 (木)	山手校舎
後期実技試験	2018年2月14日 (水)・15日 (木)・16日 (金)	山手校舎

実技試験実施までに①から⑥の手順を経ること。これらの日程は、前期5月下旬・後期11月下旬に掲示により通知します。

- ① 実技試験課題曲発表
- ② 「曲目提出届」用紙配布
- ③ 実技試験時間割発表
- ④ 実技試験演奏順番発表
- ⑤ 「実技試験曲目提出届」の提出(提出方法、提出先は掲示により確認すること)
- ⑥ 実技試験実施

(3) 演奏曲目提出

① 実技試験の演奏曲目

「実技試験曲目提出届」(以下「曲目提出届」) に記入の上、「レッスン受講票」とともに担当教員のサインを受け、必ず指定された期日までに提出すること。

なお、「専攻実技Ⅱ B」「専攻実技Ⅳ B」では、レポート提出が課されます。

レポートの提出方法等については、掲示等による学科の指示に従ってください。

- ② 指定された期日までに曲目提出がなかった場合、又は記載に不備があった場合は受験を不許可とすることがあります。
- ③ 「曲目提出届」記載内容の変更 原則として認めません。
- (4) 実技試験受験上の注意
 - ① 実技試験の当日、演奏順番に遅れた場合

当日の受験は認めません。ただし、特別な事情により遅刻した者について、学科主任が遅刻理由 を正当と認めた場合、当日の受験を許可することがあります。

② 追試験許可理由 (p.34「追試験許可理由」参照) に準ずる理由により実技試験を欠席する場合は、 必ず事前に教務課に連絡すること。

③ 試験時間が他の試験科目と重複している場合

事前に音楽学部副手室(緑園5号館)または音楽学部共同研究室(山手8号館)に申し出て、指示を受けること。

④ 試験において伴奏者を必要とする場合

学生が担当教員の了解の上で交渉し、決定するものとします。原則として本学学生に依頼することとしますが、事情により外部生に依頼する場合には、所定用紙(音楽学部共同研究室(山手8号館)、音楽学部副手室(緑園5号館)備付)に記入し、担当教員のサインを得た上で、次の期日までに音楽学部共同研究室(山手8号館)に提出すること。ただし、本学教員及び副手を伴奏者とすることはできません。

やむを得ない理由により伴奏者を変更する場合は、事前に必ず書面で、音楽学部共同研究室(山 手8号館)または音楽学部副手室(緑園5号館)に届け出ること。

【外部生への伴奏依頼申請書・提出締切日】

前期実技試験	5月末日
後期実技試験	11月末日

(5) 受験保留者

レッスン回数が規定の回数を満たしていない場合、受験を保留とすることがあります。

2. 実技追試験

病気、その他やむを得ない理由により実技試験を受けられなかった学生は、追試験許可理由のいずれかに該当し、受験資格があると認められた場合に限り、願い出によって追試験を受けることができます。 (実技以外の科目の追試験については、pp.33~34「追試験」参照。)

なお、提出書類は、当該科目試験日に受験できなかったことを証明するものでなければなりません。

(1) 実技追試験許可理由

p.34「追試験許可理由」①~⑧

⑨ 国内外の音楽講習会への参加(当該講習会のプログラム、参加を証明する書類及び関係教員の 承諾書を提出)。

(2) 受験手続

実技追試験受験を希望する場合は、次の期日までに「追試験願」を記入の上、証明書類及び受験料(証紙購入)を添えて、教務課または山手事務室に提出しなければなりません。この期日に遅れると、一切受理されません。代理人による手続も認めるので、必ずこの期日までに手続を行ってください。実技追試験時間割発表日は、手続締切日の翌日となります。

なお、追試験の許可が得られなかった場合や担当者が追試験を実施しないと判断した場合には、実 技追試験許可者発表日以降に受験料を返還します。

【実技追試験手続締切日】

前期	2017年8月3日(木)
後期(4年次生)	2018年2月6日(火)
後期(1~3年次生)	2018年2月21日 (水)

受験料:1科目につき1,000円 (p.34「追試験許可理由」②⑥の場合は受験料は不要です。)

(3) 追試験日程等

- ① 実技科目追試験の詳細は、追試験許可者発表時に掲示します。
- ② 追試験の成績評価は2割減点とします。(p.34「追試験許可理由」②⑥の場合は減点はありません。)
- ③ 追試験の実施は、定められた期日1回限りとします。

【追試験日程·会場】

	期間	会 場
前期	2017年9月2日(土)	山手校舎
後期(4年次生)	2018年2月14日 (水)・15日 (木)・16日 (金) の期間中に実施。	山手校舎
後期(1~3年次生)	2018年2月26日(月)	山手校舎

3. 実技再試験

音楽学部専門科目のうち、実技試験期間中に実施する必修・選択必修レッスン科目の試験を受けて不合格(評価「F」)とされた学生は、願い出て認められた場合に、改めて試験を受けることができます。

(1) 再試験実施要領

- ① 評価は「C」を超えない。
- ② 再試験の不合格者に対する再試験は行わない。また、再試験について追試験は行わない。
- ③ 追試験については、再試験を行わない。

(2) 受験手続

再試験受験資格者は、「再試験願」を記入の上、受験料(証紙購入)を添えて、教務課または山手事 務室に提出しなければなりません。実技再試験許可者発表は、手続締切日の翌日となります。

【再試験手続日程】

	再試験該当者発表日	再試験手続締切日
前期	2017年8月1日(火)	2017年8月3日(木)
後期(4年次生)	2018年2月2日(金)	2018年2月7日(水)
後期(1~3年次生)	2018年2月19日(月)	2018年2月21日(水)

- *日程等詳細は、「実技試験に関わる日程」発表時に確認してください。
- *8月中の事務取扱い時間は、9:00~15:00です。
- *8月中旬の事務室閉鎖期間(事前に掲示で告知)は事務取扱いを行いません。

【再試験日程·会場】

	期間	会 場
前期	2017年9月2日(土)	山手校舎
後期(4年次生)	2018年2月14日(水)・15日(木)・16日(金)の期間中に実施。	山手校舎
後期(1~3年次生)	2018年2月26日(月)	山手校舎

受験料:1科目につき3,000円

単位認定・単位互換

単位の認定

本学への入学以前・入学後在籍中に他大学等で修得した単位及び「実用英語技能検定」等の技能審査に合格した場合、以下の所定の手続きにて申請されたものを、教授会で審議の上、一定の基準に基づき本学において修得した卒業に必要な単位として認定します。

認定される単位の上限

学 部 等	単 位 認 定 の 上 限
文学部・国際交流学部・ 音楽学部 (編入学者を除く)	下記の①・②を合わせて60単位まで ①入学前:他大学等で修得した単位+技能審査 ②入学後:他大学等で修得した単位(含む単位互換、留学)+技能審査
2年次編入学者	編入学時の一括認定30単位とは別に①を30単位まで ①編入学後:他大学等で修得した単位(含む単位互換、留学) + 技能審査
3年次編入学者	編入学時の一括認定62単位とは別に①を30単位まで ①編入学後:他大学等で修得した単位(含む単位互換、留学) + 技能審査

なお、認定する科目区分が語学科目と教職に関する科目の場合、卒業要件として認められる単位数に次のとおり上限があることに留意してください。

語学科目:32単位 教職に関する科目:8単位

他大学等で修得した単位の認定基準

他大学等で修得した科目の内容を勘案し、これと同等とみなされる科目区分の単位として認定されます。ただし、単位認定の種類によって認定除外科目があるので、十分確認してください。

182

入学後に他大学等で修得した単位の認定

1. 技能審査の合格による単位認定

認定基準	別表のとおり(p.188参	別表のとおり(p.188参照)	
申請先	教務課		
申請方法	「単位認定(技能審査等)申請書」(教務課備付)に記入し、次の書類を添付して提出して ください。 添付書類:「合格証書」または「スコア・レコード」		
申請期間 2017年度前期分 2017年7月10日(月)~7月14日(金)		2017年7月10日(月)~7月14日(金)	
中胡敖间	2017年度後期分	2018年1月15日 (月) ~1月19日 (金)	
注意	 ① 公開テストで取得したスコアに限ります。(TOEFL-ITP 及び TOEIC-IP テストは認定対象外です。) ② 取得時期は、入学後かつ申請日からさかのぼって1年以内のものに限ります。 ③ 一度認定された言語について、あらためて同じ級(又は同レベルのスコア)を取得しても、再び認定はされません。ただし、上位の級(又は上位のスコア)を取得した場合には、すでに認定された分を除いた単位が認定されます。 		

2. 海外の大学への留学等によって修得した単位の認定

(1) 交換・認定留学

	CLA コア科目/基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」の単位
	CLA コア科目/総合課題科目	「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」必 修相当としての単位
認定除外科目	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」の単位
	国際交流学部専門科目	「導入演習」及び「研究入門」「基礎演習」「専門演習」 「卒業論文」の単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」の単位
英語インテンシ ブ・コース	交換・認定留学によって英語科目として単位認定された場合は、履修状況により、英語インテンシブ・コースの修了要件単位としてみなすことができます。詳細は p.70「語学科目」で確認してください。 修了要件への算入は大学が行うため、別途申請の必要はありません。	
日本語教員養成講座	日本語教員養成講座受講学生が、日本語教員の視点から、日本語教授法を学ぶ機会として 外国人対象の日本語科目の単位を修得し、本学における専門科目として単位認定された場 合は、日本語教員養成講座において修得した単位としてみなすことができます。別途申請 が必要です。	
申請先	教務課	
4-54-V	「単位認定申請書」(教務課備付) 務委員との面談を行います。 *必要書類等については、留学前	に必要書類*を添付して提出してください。提出後に教 に教務課から説明します。
申請方法		な認定】 「『日本語教員養成講座』単位認定申請書」(教務課備付) 語教員養成講座委員長と面談を行います。

(2) セメスター・アブロード

認定内容	認定区分:語学科目(英語)*1 単位数:10単位(一括)*2	
申請先	教務課	
申請方法	教務課に問い合わせてください。	

- ※1 履修状況により、英語インテンシブ・コース修了要件としてみなすことができます。詳細はp.70「語学科目」 で確認してください。修了要件への算入は大学が行うため、別途申請の必要はありません。
- ※2 語学科目としての卒業要件参入単位数に上限があるため、単位修得状況により、単位認定される単位数が異なることがあります。(p.182「認定される単位の上限」参照)

(3) 休学をして海外の大学等で履修した場合

事前に申請のうえ履修許可を得た場合に限り、本学において修得した単位としてみなすことができます。 ※休学をせず、休業期間中など通常の授業期間外に海外の大学等のプログラムに参加し、単位認定を希望 する場合は、p.186の「4.その他」を参照してください。

	CLA コア科目/基礎教養科目	「キリスト教I」の単位
	CLA コア科目/総合課題科目	「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」必 修相当としての単位
認定除外科目	文学部専門科目	必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分とし ての単位
	国際交流学部専門科目	必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分とし ての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」「2年次修了公 開演奏」の単位
申請先	教務課	
申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ① 履修前 「他大学等における科目等履修願」(教務課備付)に次の書類を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 添付書類:留学する予定の大学等の履修要項 留学先で履修する授業・プログラム内容を示す書類 ② 履修後 「単位認定申請書」(教務課備付)に必要書類*を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 *必要書類等については、留学前に教務課窓口にて説明します。	
手続期限	原則として履修開始の1か月 ① ※授業実施期間外(夏季・ネ い場合があるため、余裕をも	春季休業期間中など) は教務委員との面談が設定できな
	② 履修が終了し帰国後1か月以内	

3. 単位互換制度によって修得した単位の認定

次の単位互換制度により修得した単位は、本学以外で修得したその他の単位等の認定とあわせて本学において修得した卒業に必要な単位とみなすことができます。

なお、単位互換制度を利用して履修する単位数は、各自定められた履修登録単位数の上限に含まれます。

(1) 同志社女子大学において修得した単位の認定

国内留学協定に基づき交流学生として同志社女子大学において修得した単位は、本学において修得した単位とみなすことができます。

		CLA コア科目/ 基礎教養・総合課題科目	「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」 「キリスト教Ⅳ」必修相当としての単位
	認定除外科目	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」の単位
		国際交流学部専門科目	「卒業論文」の単位
		音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」の単位
	申請先	教務課	
	申請方法・期限	「単位認定申請書」(教務課備付)に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類:成績証明書、シラバス等授業内容を示す書類のコピー	
	申請期間	教務課に問い合わせてください。	

(2) 放送大学において修得した単位の認定 単位互換に関する協定に基づき、放送大学の特別聴講学生として履修することができます。

	履修可能学期	以下の学期は単位認定希望の有無に関わらず、一切履修できません。 ①入学(編入学)学期 ②卒業予定学期(修業年限を満たす学期) ③休学期間 ④交換・認定留学期間		
制度	利用にあたっての 注意事項	・卒業予定学期に、放送大学が実施する「再試験」制度を利用して合格しても、単位認定対象から除外されます。 ・申請の際、本学に納入する授業料とは別に、放送大学での授業料(1科目(2単位): 11,000円、1科目(1単位): 5,500円)が必要です。 ・放送大学との協定に基づき、本制度を利用して修得できる単位数は、在籍期間を通じて30単位以内とします。 ・詳細は、教務課に問い合わせてください。		
	履修申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ①「放送大学科目履修・単位認定申請書」(教務課備付)を教務課に提出してください。 放送大学での履修希望科目について、大学側で認定科目の事前審査を行います。 ↓ ②上記①の事前審査により履修許可を受けた科目について、次の2点を教務課に提出してください。 ・「放送大学特別帳譜学生出願票」(教務課備付) ・放送大学での授業料(1科目(2単位):11,000円、1科目(1単位):5,500円)		
垂	2017年度後期	① 2017年6月23日(金)まで		
続		② 2017年6月30日(金)~7月7日(金)		
手続期間	2018年度前期	① 2018年1月11日 (木) まで		
间 2010年及前期		② 2018年1月22日 (月) ~26日 (金)		

(3) 横浜市内単位互換制度履修申請方法及び修得した単位の認定

単位互換に関する協定に基づき、横浜市内単位互換制度参加大学の「単位互換履修生」として履修 することができます。

履修可能学期	以下の学期は単位認定希望の有無に関わらず、一切履修できません。 ①卒業予定学期(修業年限を満たす学期) ②休学期間 ③交換・認定留学期間	
履修申請単位数の上限	協定に基づき、1年間(前期・後期合わせて)に履修申請できる単位数は8単位を上限とします。	
申請先	教務課、山手事務室	
申請方法・期限	前期および通年開講科目は4月に、後期開講科目は7月にそれぞれ履修申請を受け付けます。詳細は掲示で通知します。	
単位認定	教授会で審議の上、認定の可否を決定します。(単位認定についての申請は必要ありません)	
単位認定区分	すべて「専門科目(選択)」として認定されます。	
参加大学	神奈川大学、関東学院大学、國學院大學、鶴見大学、桐蔭横浜大学、 東洋英和女学院大学、フェリス女学院大学、東京都市大学、明治学院大学、横浜国立大学、 横浜商科大学、横浜市立大学	

4. その他

1~3に該当しない他大学等における科目等履修(通信教育、夏季・春季休業中の海外の大学等のプログラムへの参加等を含む)により修得した単位は、事前に申請のうえ履修許可を得た場合に限り、本学において修得した単位としてみなすことができます。

なお、この制度を利用して本学の授業期間中に履修する単位数は、各自定められた履修登録単位数の上限に含まれます。ただし、本学の休業期間中など、通常の授業期間外に履修する場合は上限に含みません。

	CLA コア科目/基礎教養科目	「キリスト教 I の単位
	CLA コア科目/総合課題科目	「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」必 修相当としての単位
認定除外科目	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」、必修科目及び卒 業のために必要な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」、必修科目及び卒業のために必要な選択必 修科目分としての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」「2年次修了公 開演奏」の単位
申請先	教務課	
申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ① 履修前 「他大学等での科目等履修願」(教務課備付)に次の書類を添付して提出してください。 提出後に教務委員との面談を行います。 添付書類:履修予定の大学等の履修要項 履修する授業・プログラム内容を示す書類 ② 履修後 「単位認定申請書」(教務課備付)に必要書類*を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 *必要書類等については、留学前に教務課窓口にて説明します。	
手続期限	2017年度後期履修:6月末まで 2018年度履修:1月末まで ※期限までに必要書類が整わない場合も、期限内に必ず教務課に相談に来てください。 ② 履修終了後1か月以内	

186 2017学生要覧

入学前に他大学等で修得した単位の認定

1年次対象

本学への入学以前に他大学等で修得した単位及び技能審査の合格について、単位認定を希望する者は、 所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

(1) 技能審査の合格による単位認定

認定基準	別表のとおり(p.188参照)	
申請先	教務課	
申請方法	申請方法 「単位認定(技能審査等)申請書」(教務課備付)に記入し、次の書類を添付して提出してください 添付書類:「合格証書」または「スコア・レコード」	
申請期間	2017年7月10日 (月) ~7月14日 (金)	
注意	公開テストで取得したスコアに限ります。(TOEFL-ITP 及び TOEIC-IP テストは対象外です。)	

(2) 他大学等における履修による単位認定

認定除外科目	CLA コア科目	「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」、必修科目及び卒業のために必要 な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分とし ての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」の単位
申請先	教務課	
申請期間	2017年4月3日(月)まで 入学年度前期に限って受け付けます。	

2年次編入:3年次編入学者対象

(1) 技能審査の合格による単位認定

2年次編入・3年次編入学者は、編入学前の技能審査の合格による単位認定の対象外です。

(2) 他大学における履修による単位認定

2年次編入・3年次編入学者は、編入学前の修得単位は一括して認定されるので、申請の必要はありません。

キリスト教科目の単位認定

2年次編入・3年次編入学者が本学入学以前に他大学等において修得した「キリスト教」関連科目は、本学における必修相当としては認められません。「選択」相当の認定対象として扱われます。

キリスト教科目関連科目の履修

3年次編入学者は、「キリスト教 I 」「キリスト教 II」「キリスト教II」「キリスト教II」「キリスト教II」「キリスト教II」に代えて、本学が指定する「キリスト教」関連科目を履修することが認められます (p.63参照)。

2年次編入学者にこの措置はありません。

別表

技能審査の合格による単位認定

言語		検定等の種類		村	当する単位	<u>.</u>	
= ==	日 品 快ル寺の住規		10単位	9単位	8単位	6単位	4単位
	実用英語技能	検定(日本英語検定協会)			1級	準1級	
	TOEFL(国際教育交	Paper-based Test			580点 以上	550~ 579点	500~ 549点
英 語	換協議会)	Internet-based Test			92点 以上	80~ 91点	61~ 79点
	(国際ビジネス	TOEIC スコミュニケーション協会)			900点 以上	730~ 899点	650~ 729点
フランス語		プランス語技能検定 シス語教育振興協会)	1級	準1級	2級	準2級	3級
ドイツ語		ツ語技能検定試験 ' ツ語文学振興会)	1級		準1級	2級	3級
スペイン語	ス ^ (日:	1級		2級		3級	
中国語		中国語検定試験 (日本中国語検定協会)			準1級	2級	3級
朝鮮語		ブル」能力検定試験 グル能力検定協会)	1級		2級	準2級	3級

「教職課程」「日本語教員養成講座」としての単位認定

本学への入学前または入学後在籍中に他大学等で修得した単位は、教育職員免許状の取得または日本語 教員養成講座の修了のための単位として認定されることがあります。この場合の単位認定については、別 冊の「教職課程 日本語教員養成講座」を参照してください。

2017学生要覧

188

学籍

→大学HP 大学学則第9条・第9条の2

修業年限及び在学期間

修業年限

学部の教育課程修了に必要な期間のこと。休学期間を除き4年(8学期)です。

在学期問

学生として在籍できる期間のこと。休学期間を除き8年を超えることはできません。

2年次編入学者の修業年限

休学期間を除き3年(6学期)です。

在学期間は休学期間を除き6年を超えることはできません。

3年次編入学者の修業年限

休学期間を除き2年(4学期)です。

在学期間は休学期間を除き4年を超えることはできません。

休 学

病気その他やむを得ない理由により修学することができない場合は、次の期日までに所定用紙 (「休学願」: 教務課備付)をもって休学を願い出ることができます。

休学期間

前期もしくは後期の1学期、または1年を区分とします。

休学期間は通算して4年を超えることはできません。また、休学期間を修業年限及び在学期間に算入することはできません。

連続して休学できる期間は、1年を超えることはできません。ただし、特別の事情がある者は、学長の許可を得て、なお1年以内の休学を認められる場合があります。

進級・年次の扱い

前期または後期の1学期間のみ休学した学生は、翌年4月に自動的に1学年進級します。

ただし、4年次生になっても、休学期間を除いた在学期間が修業年限を満たさないと卒業はできません。 1年間継続して休学した場合は、年次が原級にとどまります。

在籍料、授業料等学納金の扱い 所定の在籍料を大学学則の規定に従って

体学者は、学期ごとに授業料及び実習費のそれぞれ半額を在籍料として納入しなければなりません。

-大学HP 大学学別第36条04

また、施設設備費については、休学中も大学学則第36条の2第2項の規定に従って納入しなければなりません。

【休学願の提出期限】

前期(または前期から1年間)休学する場合	2017年5月31日 (水) まで
後期(または後期から1年間)休学する場合	2017年11月30日 (木) まで

復 学

復学の時期

届け出た休学期間を過ぎると、自動的に復学となります。

ただし、健康上の理由で休学した場合は、復学後の学生生活が支障なく再開可能かの確認を含めて、校医 との面談を行います。

さらに続けて休学を希望する場合または退学を希望する場合は別途手続きが必要です。休学期間が終了する前に教務課に問い合わせてください。

退学

事情により退学を希望する場合は、次の期日までに「退学願」(教務課備付)をもって願い出なければなりません。この場合、退学する日を含む学期の授業料等学納金を納入していなければ、退学は認められません。

【退学願の提出期限】

、→大字HP 大字字則第333

前期末に退学する場合	2017年9月29日(金)まで
後期末に退学する場合	2018年3月30日(金)まで

除籍

学生が次のいずれかに該当する場合には、除籍されることがあります。

- (1) 在学期間を超えて卒業資格を得られない場合
- (2) 授業料等学納金の納入を怠った場合
- (3) 通算4年の休学期間を超えて、なお復学できない場合
- (4) 死亡した場合
- (5) 長期間にわたり行方不明の場合

なお、除籍日以降の履修・成績等はすべて無効となります。

→大学HP 大学学則第34条

留学

交換留学又は認定留学の許可を受けた学生は、1年を限度としてその留学期間を、大学学則第9条に定める在学期間として扱います。

ただし、本学の規定の適用を受けず、休学して留学した場合はこの限りではありません。

→大学HP 大学学則第28条の2

→pp. 44~48 海外短期研修・留学・国内留学

転学部·転学科

転学部・転学科を志願する場合は、次の期日までに「転学部・転学科願」(教務課備付)をもって願い出なければなりません。選考の上、転学部・転学科を認めることがあります。

転学部・転学科した学生の在学期間は、転学部・転学科以前の在学期間と合わせて8年(2年次編入学者は6年、3年次編入学者は4年)を超えることはできません。

【転学部・転学科願の提出期限】 2017年10月2日 (月) まで

→大学HP 転学部・転学科内規

再入学

本学を退学した者または除籍を受けた者が、在籍していた学科への再入学を志願する場合は、原則として 退学または除籍日を含む年度の末日から2年以内に、所定の手続きによって願い出なければなりません。教 授会の議を経て、再入学を許可することがあります。

なお、再入学の時期は、学年または学期の始めとします。

【再入学願の提出期限・提出先】

 前期から再入学する場合
 1月末

 後期から再入学する場合
 7月末

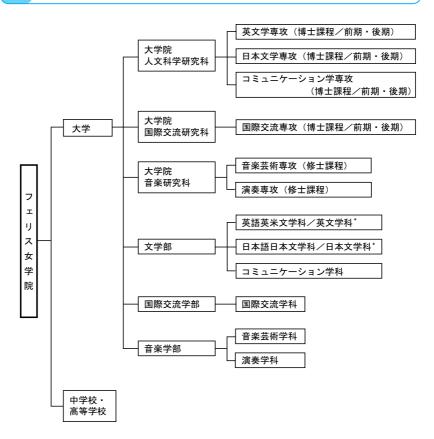
 提出先
 教務課

→大学HP 大学学則第34条の2

資料編

資 料 編

組織



*2014年度から、学科名称を次のとおり変更しました。 新学科名称が適用されるのは2014年度以降入学者です。 2013年度以前入学者は、卒業するまで旧学科名称を用いることとしています。

 英文学科
 →
 英語英米文学科

 日本文学科
 →
 日本語日本文学科

194 2017学生要覧

フェリス女学院大学の沿革

本学の源流は、1870 (明治3) 年に米国改革教会の宣教師、メアリー・E・キダーが始めた私塾にさかのぼります。 これは、ローマ字や医療事業等で知られる長老教会宣教師へボン博士のクララ夫人が、1863 (文久3) 年に開いた家塾を引き継いだもので、キダーは1871年にこれを女子だけの学校としました。 そして、1875年、山手の外国人居留地に校舎を建て、校名をフェリス・セミナリーとして寄宿学校を開校するに至りました。「フェリス」の名は、キダーを派遣し、その教育を支えた改革教会伝道局主事フェリス博士父子を記念するものです。

本学は、敬虔な人格と優れた教養によって、創造的に人類社会に貢献する女性の育成を求め続けて、今日に至っています。

- 1870 (明治 3) 年 メアリー・E・キダー、ヘボン施療所で授業開始。〈フェリス女学院の発祥〉
- 1875 (8) 年 山手178番に校舎落成。この頃「フェリス・セミナリー」と名づける。
- 1887 (20) 年 高等科設置。校舎拡張。
- 1889 (22) 年 校名を「フェリス和英女学校」とする。講堂「ヴァン・スカイック・ホール」完成。
- 1899 (32) 年 私立学校令により認可。特別科(高等科に替えて)設置。
- 1903 (36) 年 特別科を文学科・聖書研究科の2科 (18~21歳) とする。英語師範科 (16~19歳) 設置。
- 1908 (41) 年 特別科を高等科 (英文学部・神学部) に改める。
- 1919 (大正 8) 年 東京女子大学創立に協力し高等科廃止。
- 1923 (12) 年 関東大震災により校舎倒壊焼失。カイパー校長殉職。
- 1927 (昭和 2) 年 「専門学校入学者検定規定」による指定認可。
- 1929 (4) 年 新校舎・カイパー記念講堂竣工。
- 1930 (5) 年 高等部 (英文科・家政科、17~19歳) 設置。
- 1939 (14)年 戦時下、米国伝道局経営の社団法人から日本の財団法人となる。
- 1941 (16)年 校名を「横浜山手女学院」に変更。
- 1947 (22) 年 専門学校 (旧制) 3年 (英文科・家政科・音楽科) 設置。
- 1950 (25) 年 校名を「フェリス女学院」と改称。新学制により専門学校から短期大学 (英文科・家政科) に改編。翌年に音楽科開設。
- 1965 (40)年 大学開設。短期大学(英文科)を発展改組し、大学文学部(英文学科・国文学科)開設。
- 1970 (45) 年 学院創立100周年。
- 1988 (63) 年 短期大学 (家政科) を発展改組し、文学部に国際文化学科開設。 大学緑園キャンパス開設。
- 1989 (平成 1) 年 短期大学 (音楽科) を発展改組し、大学音楽学部 (声楽学科・器楽学科・楽理学科) 開設。 フェリスホール竣工。
- 1991 (3) 年 大学院人文科学研究科修士課程(英文学専攻・日本文学専攻) 開設。
- 1992 (4) 年 大学院人文科学研究科修士課程地域文化専攻開設。
- 1993 (5) 年 文学部国文学科を日本文学科に名称変更。
- 1995 (7) 年 大学院人文科学研究科を博士課程前期・後期に改組。 大学院人文科学研究科博士後期課程(英文学専攻・日本文学専攻) 開設。
- 1997 (9) 年 文学部国際文化学科を発展改組し、国際交流学部 (国際交流学科) 開設。

- 1998 (平成10) 年 大学院音楽研究科修士課程 (声楽専攻・器楽専攻・創作表現専攻) 開設。 国際学生交流会館開設 (~2008年3月)
- 2001 (13) 年 大学院国際交流研究科博士前期課程・博士後期課程 (国際交流専攻) 開設。 緑園キャンパス施設拡充 (文学部棟、キダーホール・緑園、図書館竣工)。
- 2002 (14) 年 中高新校舎・新カイパー記念講堂竣工。
- 2004 (16) 年 文学部コミュニケーション学科開設。 音楽学部楽理学科を音楽芸術学科に、大学院音楽研究科創作表現専攻を音楽芸術専攻に 名称変更。
- 2005 (17) 年 音楽学部演奏学科 (声楽学科・器楽学科の改組) 開設。
- 2008 (20) 年 大学院人文科学研究科 (コミュニケーション学専攻) 博士前期課程開設。
- 2009 (21) 年 大学院音楽研究科修士課程演奏専攻(声楽専攻・器楽専攻の改組) 開設。
- 2010 (22) 年 学院創立140周年。大学院人文科学研究科(コミュニケーション学専攻)博士後期課程開設。
- 2014 (26)年 文学部英文学科を英語英米文学科に、文学部日本文学科を日本語日本文学科に名称変更。
- 2015 (27) 年 大学開設50周年。
- 2017 (29) 年 全学教養教育機構 (CLA:Center for the Liberal Arts) 開設。

専任教員一覧〔学部〕

学 長

教 授 秋 岡 陽	
-----------	--

副学長

教 授	荒	井		真	
教 授	谷		知	子	

文学部

英語英米文学科/英文学科

教 授	梅 﨑 透				
教 授	大 畑 甲 太				
教 授	近 藤 存 志				
教 授	富樫 剛				
教 授	中 川 正 紀				
教 授	福永保代				
教 授	藤 本 朝 巳				
教 授	向 井 秀 忠				
教 授	由 井 哲 哉				
教 授	饒平名 尚 子				
教 授	渡 辺 信 二				
助教	パトリック ヘラー HELLER, Patrick S.				
講師	サムエル ギルダート GILDART, Samuel G.				
講師	小 泉 泉				
講師	佐 藤 あずさ				
講師	スコット スミス SMITH, Scott W.				
講師	カレン マティソン MATTISON, Karen				

日本語日本文学科/日本文学科

mer			
勝	田	耕	起
佐	藤	裕	子
島	村		輝
竹	内	正	彦
谷		知	子
松	田		浩
吉	田	弥	生
田	中	里	奈
小	峯	和	明
	佐島竹谷松吉田	佐島村竹谷田田田田中	佐 藤 島 村 竹 内 正 五 公 工 知 工 古 田 丁 丁 田 中 里 里

コミュニケーション学科

教 授	井 上	惠美子	
教 授	小ヶ谷	千 穂	
教 授	齋 藤	孝 滋	
教 授	潮村	公 弘	(2017年度特別研修)
教 授	髙 田	明 典	
教 授	藤巻	光 浩	
教 授	諸橋	泰樹	
教 授	渡辺	浪 二	
准教授	相澤	_	
准教授	高 橋	京 子	

国際交流学部

国際交流学科

教 授	荒	井		真
教 授	上	原	良	子
教 授	大	西	比图	引志
教 授	大	野	英_	二郎
教 授	筧		雅	博
教 授	木	曽	順	子
教 授	金		香	男
教 授	齊	藤		直
教 授	佐	藤		輝
教 授	高	柳	彰	夫
教 授	田	丸	理	砂
教 授	常岡	1(男	(本	せつ子
教 授	寺	尾	隆	吉
教 授	中	塚	次	郎
教 授	原	П	尚	彰
教 授	春	木	良	且

教 授	ヒガ , マルセーロ HIGA, Marcelo G.				
教 授		ミン ミ nin MID	ドルトン DLETON		
教 授	矢 野	久美子	(2017年度特別研修)		
教 授	和 田	浩 一			
准教授	朝倉	三 枝			
准教授	泉谷	陽子			
准教授	新 城	道彦			
准教授	杉之原	真 子			
准教授	高 雄	綾 子			
准教授	知 足	章 宏			
准教授	福島	仁			
准教授	古 内	洋 平			
助 教	野田	寛 達			
客員准教授	チュチ モンテネグロ MONTENEGRO, Chuchi S.				
客員准教授	魯	俐			

音楽学部

音楽芸術学科

教 授	秋 岡		陽
教 授	立 神	粧	子
教 授	星 野		聡
准教授	川本	聡	胤
准教授	瀬藤	康	嗣
准教授	たかの	舞	俐
准教授	谷 口	昭	弘

演奏学科

教 授	落 合	敦	
教 授	蔵田	雅之	
教 授	黒 川	浩	
教 授	土 屋	広次郎	
教 授	戸 田	弥 生	
教 授	堀	由紀子	
教 授	宮 本	とも子	
講師	井 出	朋子	

センター

国際センター

講	師	椎	名	渉	子	
講	師	筒	井	千	絵	

情報センター

講 師 内 田 奈津子 (IT コーディネーター)

役職者等

学院長	鈴木 佳秀
学長	秋岡 陽
副学長	荒井 真
副学長	谷 知子
附属図書館長	藤本 朝巳
大学院委員・大学評議員	梅﨑 透
大学院委員・大学評議員	饒平名尚子
大学院委員・大学評議員	中塚 次郎
大学院委員・大学評議員	大西比呂志
大学院委員・大学評議員	堀 由紀子
大学院委員・大学評議員	星野 聡
情報センター長	高柳 彰夫
山手総括主事	立神 粧子
宗教主事	相澤 一
教職課程主任	渡辺 浪二
教務部長	竹内 正彦
学生部長	上原 良子
海外交流部長	寺尾 隆吉
入試部長	向井 秀忠
国際センター長	寺尾 隆吉
言語センター長	竹内 正彦
宗教センター長	相澤 一
ボランティアセンター長	ヒガ, マルセーロ

人文科学研究科

研究科長	井上惠美子
英文学専攻主任	中川 正紀
日本文学専攻主任	勝田 耕起
コミュニケーション学専攻主任	諸橋 泰樹
教務責任者	梅﨑 透
入試責任者	吉田 弥生

国際交流研究科

研究科長	木曽 順子
国際交流専攻主任	和田 浩一
教務責任者	田丸 理砂
入試責任者	古内 洋平

音楽研究科

研究科長	立神 粧子
音楽芸術専攻主任事務取扱	谷口 昭弘
演奏専攻主任	堀 由紀子
教務責任者	星野 聡
入試責任者	蔵田 雅之

文学部

学部長	井上惠美子
英語英米文学科/英文学科主任	中川 正紀
日本語日本文学科/日本文学科主任	勝田 耕起
コミュニケーション学科主任	諸橋 泰樹
教務主任	梅﨑 透
入試主任	吉田 弥生

国際交流学部

学部長	木曽 順子
国際交流学科主任	和田 浩一
教務主任	田丸 理砂
入試主任	古内 洋平

音楽学部

学部長	立神 粧子
音楽芸術学科主任事務取扱	谷口 昭弘
演奏学科主任	堀 由紀子
教務主任	星野 聡
入試主任	蔵田 雅之

教務主任・教務委員、教務責任者、科目責任者・語学責任者

履修計画を立てるにあたり、下記の教員が相談に応じます。

【教務主任・教務委員】: 各学部・学科の専門科目に関すること、所属学部・学科学生の履修計画全般に関すること。

文		当	≱		部			(日本語日本	学科/英文学科) 文学科/日本文学科) ーション学科)
国	際	交	流	学	部	田丸	理砂	教務主任	
音	è	髤	学	!	部	星野 谷口 落合	聡 昭弘 敦、	教務主任 土屋広次郎	(音楽芸術学科) (演奏学科)

【教務責任者】

人	文	科	学	研	究	科	梅﨑	透	
国	際	交	流	研	究	科	田丸	理砂	
音	導	Ę	研	3	£	科	星野	聡	

【科目責任者・語学責任者】: 次の各科目に関すること。

CLA コア科目 基礎教養・総合課題科目	未定 (全般) 原口 尚彰 (キリスト教) 春木 良且 (情報リテラシー) 高橋 京子 (健康・スポーツ)
教 職 課 程	渡辺 浪二
日本語教員養成講座	田中 里奈、勝田 耕起
留学生日本語·日本事情科目	椎名 渉子、筒井 千絵

英		語	大畑 甲太
フ	ラ ン ス	語	大野 英二郎
ド	イッ	語	高雄 綾子
ス	ペイン	語	ヒガ、マルセーロ
中	国	語	野田 寛達
朝	鮮	語	新城 道彦

古典ギリシア語			
ラ テ ン 語	高雄	綾子	
イタリア語			
日本語 [,]	田中	里奈、勝田	耕起

2017年度の主な制度変更 〔学部関連〕

カリキュラムに関すること

基礎教養科目、総合課題科目の改革

全学教養教育機構 (CLA) の発足に伴い、2017年度以降入学者カリキュラムにおいて従来の基礎教養科目、総合課題科目を再構成し、CLA コア科目としました。

なお、2016年度以前入学者は、従来どおり基礎教養科目、総合課題科目として学びますが、いずれも一部科目の改廃を実施し、新しい科目を学ぶことができます。

→n 202「拇業利日の改廃」

履修に関すること

CAP 制度の運用変更

一定の成績基準を超えた場合に、履修登録できる単位数の上限を上回って履修登録することを認めることとしました。

→p. 21「履修登録できる単位数の上限(CAP制)」

授業科目の改廃 (別冊「学部開講科目表」参照)

〔 〕内は単位数

1 CLA コア科目

I ULA コア科日	
新設	(2)
キリスト教Ⅰ	(2)
キリスト教Ⅱ	(2)
キリスト教Ⅲ	(2)
キリスト教IV	(2)
哲学A	(2)
哲学B	(2)
心理学	(2)
青年心理	(2)
ジェンダーと教育の歴史	(2)
子ども・教育・保育	(2)
文学(日本文学)1	(2)
文学(日本文学) 2	(2)
文学(日本文学)3	(2)
文学(日本文学)4	(2)
文学(外国文学)1	(2)
文学(外国文学) 2	(2)
文学(外国文学)3	(2)
文学(外国文学) 4	(2)
音楽 1 A	(2)
音楽2A	(2)
音楽 1 B	(2)
音楽 2 B	(2)
音楽実技(声楽アンサンブル入門)	(2)
音楽実技(ピアノ)	(2)
音楽実技 (弦楽器)	(2)
音楽実技 (管楽器)	(2)
音楽実技(声楽)	(2)
音楽実技(オルガン)	(2)
美術芸術論	(2)
舞台芸術入門	(2)
生命科学と倫理 A	(2)
生命科学と倫理 B	(2)
マスコミュニケーションと思想	(2)
社会科学入門	(2)
近現代史入門	(2)
社会経済史	(2)
社会学	(2)
マスコミュニケーション論	(2)
現代における法学入門	(2)
日本国憲法	(2)
家族と法A	(2)
家族と法B	(2)
消費者と法A	(2)
消費者と法 B	(2)
商法・会社法	(2)
経済学入門A	(2)
経済学入門B	(2)
マクロ経済学	(2)
ミクロ経済学	(2)
現代の経済問題	(2)
社会保障論	(2)
行政学A	(2)

行政学 B	(2)
経営学入門 A	(2)
経営学入門 B	(2)
企業と倫理	(2)
転換の時代を生きる 1	(2)
転換の時代を生きる2	(2)
転換の時代を生きる3	(2)
転換の時代を生きる 4	(2)
数学の基礎	(2)
統計の基礎	(2)
数的思考の初歩	(2)
科学技術入門	(2)
環境学入門1	(2)
環境学入門 2	(2)
情報科学1	(2)
情報科学2	(2)
情報科学3	(2)
情報科学4	(2)
健康・スポーツ論	(2)
スポーツ実習	(1)
読み書きのスキル(文学系)	(2)
読み書きのスキル (社会系)	(2)
聞く話すのスキル	(2)
分析的・批判的思考 1	(2)
分析的・批判的思考 2	(2)
弁論と説得	(2)
議論と意思決定	(2)
情報とメディアのリテラシー1	(2)
情報とメディアのリテラシー2	(2)
読書とメディア	(2)
今年の一冊	(2)
ボランティア論	(2)
ボランティア活動 1	(1)
ボランティア活動2	(2)
ボランティア活動3	(3)
市民活動の役割と意義	(2)
情報リテラシー	(2)
女性1	(2)
女性2	(2)
女性3	(2)
女性4	(2)
女性5	
キャリア形成の理解1	(2)
	(2)
キャリア形成の理解2	(2)
キャリア系の知識を深める1	(2)
キャリア系の知識を深める2	(2)
キャリア系の知識を深める3	(2)
社会人基礎力の修得と実践1	(2)
社会人基礎力の修得と実践2	(2)
キャリア実習(短期インターンシップ)	(2)
キャリア実習(長期インターンシップ)	(2)
未来の環境を展望する1	(2)
未来の環境を展望する2	(2)
未来の環境を展望する3	(2)

未来の環境を展望する4	(2)
未来の環境を展望する5	(2)
未来の環境を展望する6	(2)
世界とつながる音楽の力	(2)
フェリス女学院で学ぶということ	(2)
女性のキャリア	(2)
地域と環境から見た未来	(2)
ボランティア活動が変える世界	(2)
21世紀のオリンピックとパラリンピック	(2)
グローバル時代の対話と協調	(2)
21世紀の戦争と平和	(2)
私たちが学びたいこと	(2)
学びの世界を広げる	(2)
文化の創造と継承	(2)
プロジェクト演習	(1)

2 基礎教養科目

杌	訍

利益	
文学(日本文学) 1	(2)
文学(日本文学) 2	(2)
文学(日本文学)3	(2)
文学(日本文学) 4	(2)
文学(外国文学) 1	(2)
文学(外国文学) 2	(2)
文学(外国文学)3	(2)
文学(外国文学) 4	(2)
音楽実技 (声楽アンサンブル入門)	(1)
音楽実技(ピアノ)	(1)
音楽実技 (弦楽器)	(1)
音楽実技 (管楽器)	(1)
音楽実技 (声楽)	(1)
音楽実技 (オルガン)	(1)

糜止

ガモユエ	
現代教育学	(2)
論理学	(2)
社会学 B	(2)
現代企業論 1	(2)
現代企業論 2	(2)
文学 (日本文学)	(2)
文学 (外国文学)	(2)
音楽実技 A	(1)
音楽実技 B	(1)

3 総合課題科目

新設	
キリスト教IV	(2)
分析的・批判的思考 1	(2)
分析的・批判的思考 2	(2)
弁論と説得	(2)
議論と意思決定	(2)
市民活動の役割と意義	(2)
世界とつながる音楽の力	(2)
女性のキャリア	(2)
地域と環境から見た未来	(2)
ボランティア活動が変える世界	(2)
21世紀のオリンピックとパラリンピック	(2)
グローバル時代の対話と協調	(2)
21世紀の戦争と平和	(2)
文化の創造と継承	(2)

4 文学部日本語日本文学科/日本文学科専門科目

新設(2012~2015年度入学者)

世界の中の日本文学を学ぶ (2)

廃止(2012~2015年度入学者)

国際日本文学研究を学ぶ (2)

新設(2016年度以降入学者)

世界の中の日本文学を学ぶ (2)

廃止(2016年度以降入学者)

国際日本文学研究を学ぶ (2)

5 コミュニケーション学科専門科目

新設

共生社会論	(2)
批評理論	(2)

6 国際交流学部国際交流学科専門科目

新設 (2007~2013年度 X 学者)

析故(2007~2013年及八子有)	
環境と開発問題	(2)
アジアの環境問題 1	(2)
アジアの環境問題 2	(2)
ヨーロッパの文化と社会	(2)
中国の環境と開発	(2)
海外エコツーリズム実習	(2)

新設(2014年度以降入学者)

171 Ex (= 200 711 7 1 1 2 7	
環境と開発問題	(2)
アジアの環境問題 1	(2)
アジアの環境問題 2	(2)
ヨーロッパの文化と社会	(2)
中国の環境と開発	(2)
海外エコツーリズム実習	(2)

あ	社会調査士資格認定 133
アカデミック・アドバイザー制度20	修業年限 190
インテンシブ・コース修了 70	集中講義27
英語プレイスメント・テスト68	授業 (休講・補講・欠席) 14
オフィス・アワー20	除籍191
	人材養成目的
か	成績評価
海外音楽研修 164	GPA 制度
海外短期研修 44	セメスター・アブロード 47
外国人留学生92	全学教養教育機構 (CLA) 54
学位 40	総合課題科目
学生提案科目······61	卒業····································
学籍190	中来公開與 176 卒業再試験 35
カリキュラム・マップ	卒業制作
··· 56, 60, 65, 108 (英文 '15), 110 (英文 '14), 119 (日文 '16),	卒業プロジェクト40
120 (日文 '15), 130, 148, 162, 172	卒業論文40
カリキュラム・ポリシー・・・・・ 6	1 Median
基礎教養科目58	た
技能審査 188	
キャリア実習(短・長期インターンシップ)… 62,64	退学
休学190	単位 18
休講	単位互換
教務主任・教務委員 200	単位の認定 182
キリスト教関連科目63	追試験・・・・・・33
9月卒業41	ディプロマ・ポリシー 6
クラス指定25	転学部·転学科 192
欠席	<i>t</i> >
授業欠席17	な
試験欠席34	日本事情92
交換留学45	日本語プレイスメント・テスト 97
語学科目66	認定留学47
コース選択67	
コース変更69	<u>は</u>
語学責任者	FERRIS + 55
国内留学49	復学191
.	不正行為33
<u></u>	プログラム制・・・・・ 145
在学期間 190	補講
再試験35	ボランティア活動
再入学 192	
再履修25	<u>6</u>
CLA コア科目 ······ 54	留学45
試験32	レポート試験
実技試験 177	レポート追受理
実技追試験179	
実技レッスン 174	

2017年度 フェリス女学院大学学生要覧

2017年4月1日 発行

発 行 フェリス女学院大学

線園校舎 〒245-8650 横浜市泉区緑園4-5-3 TEL 0 4 5 - 8 1 2 - 8 2 1 1(代表) 山手校舎 〒231-8651 横浜市中区山手町37 TEL 0 4 5 - 6 8 1 - 5 1 5 0(代表)

印 刷 株式会社 野毛印刷社

